

史 跡 第24集

蓮ヶ池横穴群

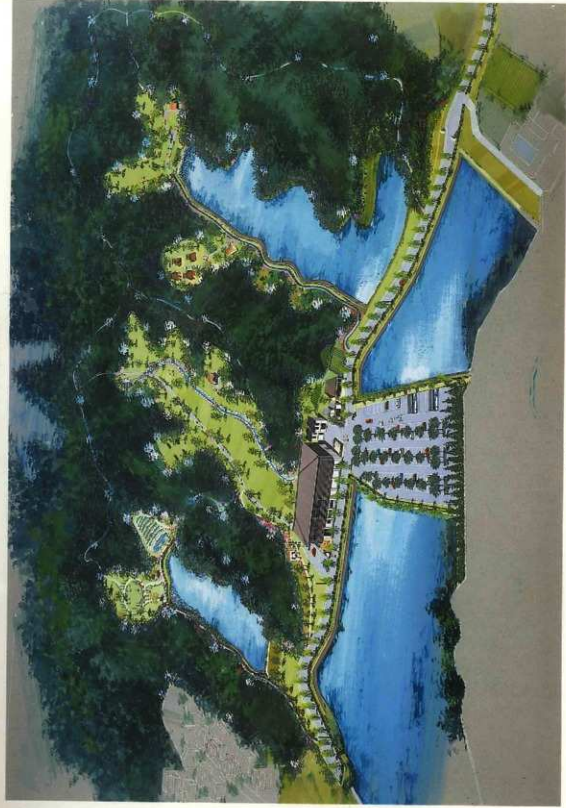
保存環境整備事業報告書

1993

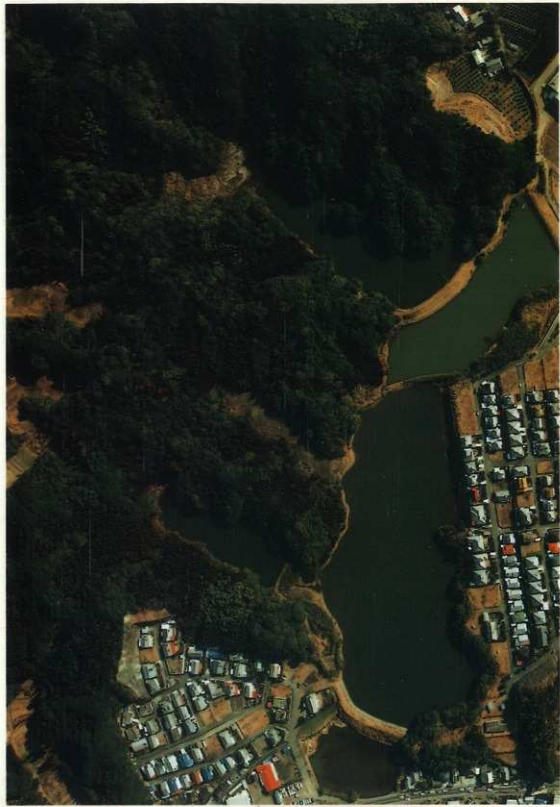
宮崎市教育委員会

正誤表

頁	行	誤	正
序	6	同論待像	同論待像
例言	13	蘆ヶ池横穴群保存環境整備	蘆ヶ池横穴群保存環境整備等
目次	27	修理法(復元・補強工事)	修復工法
解説	83頁	正面図①	正面図
17	12	横穴分布図板を各2基	横穴分布図板各2基
26	48頁	(金利等含む)円	(金利等含む)
"	49頁	(金利等含む)円	(金利等含む)
"	50頁	6,051.11	6,051.11
35	11	(1)	1)
"	12	(2)	3)
39	欄外	(総計費 2,139,507千円)	(総計費 2,139,795千円)
"	43頁	展示構成制作契約	展示構成製作契約
40	欄外	(総計費 2,139,507千円)	(総計費 2,139,795千円)
44	34	飛鳥藤原発掘調査部	飛鳥藤原宮跡発掘調査部
47	L	全ゆる	あらゆる
"	F	資料簡然しの広場。	資料館、祭しの広場。
52	11	図1-2	第16図
54	6	遺品の展示	遺物の展示
58	29	堤体	堤体
59	6	I-2	第16図
60	凡例	歩行者メインアプローチ	歩行者メインアプローチ
62	17	一基ずつ	一基ずつ
67	21	Eグループ(32,33,74号)	Fグループ(32,33,74号)
"	29	蘆ヶ池横穴群	蘆ヶ池横穴群
58	48頁	天井高さ1.1m	天井高さ1.7m
"	49頁	奥壁部床面積1.7m	奥壁部床面積2.0m
69	1	保 63年	削 除
"	82頁	保 63年	削 除
"	82頁	(保存工事空欄)	保 63年
"	85頁	63年	平成元年
"	83頁	高台付環2	高台付環4
"	84頁	(保存工事空欄)	平成2年
72	839	天井の高さ1.1m	天井の高さ1.3m
"	823	N-55度-W	N-56度-W
74	874	32号と33号の扉間	32号と33号の間
99		(図版番号追加) 上22頁 図1-①、図1-②、図1-③、図1-④	
100		(図版番号追加) 上22頁 図2-①、図2-②、図2-③、図2-④	
101		(図版番号追加) 上22頁 図3-①、図3-②	
102	11	副室構造	複室構造
104	10	含覆	含覆
149	141頁	史跡蘆ヶ池横穴群総合説明板	史跡蘆ヶ池横穴群総合説明板
"	"	史跡蘆ヶ池横穴群説明板	史跡蘆ヶ池横穴群説明板
150	605頁	(横穴発掘調査欄)10基	52号を追加,11基
"	628頁	(横穴発掘調査欄)22号	52号
"	43頁	横穴表示標柱	横穴表示標柱
"	44頁	横穴表示標柱	横穴表示標柱
"	44頁	合計135,940	合計154,740
165	624頁	7,400	740
179			(履倉棟と鏡治屋棟の位置入れ替え)
180	解説	正面図①	正面図
184	6	施工	施工
"	20	施工	施工



史都蓮、油桐穴群鳥園圖



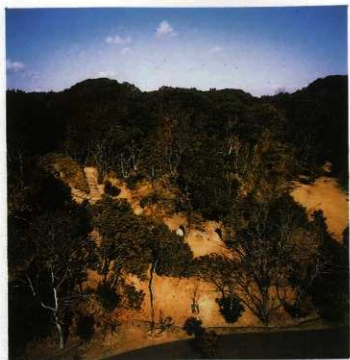
新
 豐
 鎮
 池
 塘
 與
 村
 莊
 的
 景
 觀

(2)



史
 路
 運
 之
 池
 塘
 與
 村
 莊
 的
 景
 觀

(3)



第1集団Cグループ（9-12, 52号横穴）保存環境整備状況



ゾーンⅠ（中央谷間）整備状況



ゾーンⅡ（御諏訪池西岸）整備状況



ゾーンⅢ（稲荷池西岸）整備状況



第1集団Aグループ (2~5, 22号横穴)



第1集団Bグループ (6~8号横穴)



第1集団Dグループ (13~15号横穴)



第1集団Eグループ (16~21号横穴)



第2集団Dグループ (23, 29~31, 35号横穴)



第2集団Eグループ (36~39号横穴)



12号横穴 内部構造



13号横穴 復元状況



36号横穴 玄室内部



69号横穴 復元状況



中央谷間整備状況 1 第1集団Eグループ (16~21号横穴) 前広場



中央谷間整備状況 2 69号横穴前広場



中央谷間整備状況 3 73号横穴前広場



中央谷間整備状況 4 第2集団Aグループ(70~72号横穴)前広場



中央谷間整備状況 5 せせらぎ水路・奥部西支谷広場



御諏訪池西岸整備状況 (古代住居復元広場)



御簾訪池奥部整備状況 1 34号横穴前



御簾訪池奥部整備状況 2 東側支谷広場



福荷池奥部整備状況 1 石塔のはらっぱ・西側支谷広場



福荷池奥部整備状況 2 蓮池、湿性植物園



2号横穴 保存整備状況



3号横穴 保存整備状況



4号横穴 保存整備状況



5号横穴 保存整備状況



6号横穴 保存整備状況



8号横穴 保存整備状況



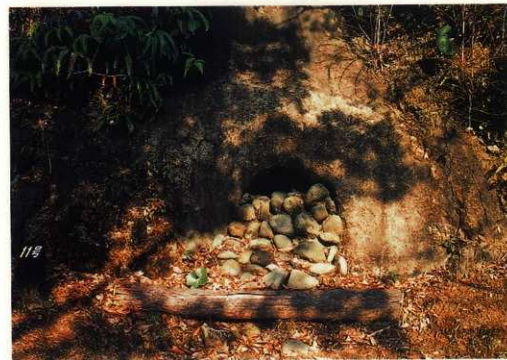
7号横穴 保存整備状況



9号横穴 保存整備状況



10号横穴 保存整備状況



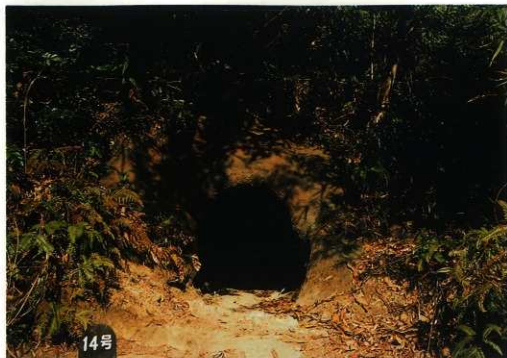
11号横穴 保存整備状況



12号横穴 保存整備状況



13号横穴 保存整備状況



14号横穴 保存整備状況



15号横穴 保存整備状況



16号横穴 保存整備状況



17号横穴 保存整備状況



18号横穴 保存整備状況



20号横穴 保存整備状況



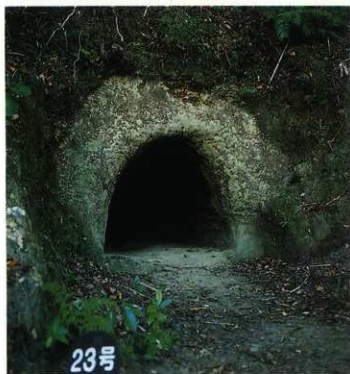
19号横穴 保存整備状況



21号横穴 保存整備状況



22号横穴 保存整備状況



23号横穴 保存整備状況



24号横穴 保存整備状況



25号横穴 保存整備状況



26号横穴 保存整備状況



30号横穴 保存整備状況



29号横穴 保存整備状況



31号横穴 保存整備状況



35号横穴 保存整備状況



37号横穴 保存整備状況



36号横穴 保存整備状況



38号横穴 保存整備状況



39号横穴 保存整備状況



52号横穴 保存整備状況



53号横穴 保存整備状況



69号横穴 保存整備状況



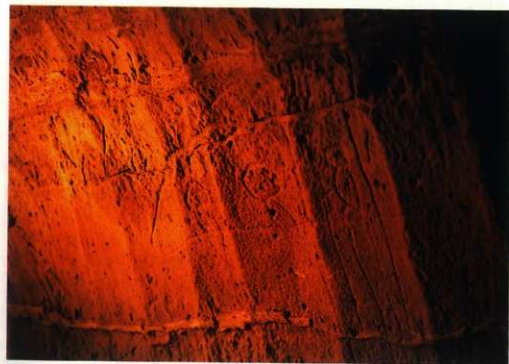
71号横穴 保存整備状況



73号横穴 保存整備状況



72号横穴 保存整備状況



33号横穴 線刻画

序

蓮ヶ池横穴群は、昭和40年初頭に団地造成計画が起こり、44年、宮崎県によって緊急発掘調査が実施され、昭和46年7月17日に国の史跡に指定されました。宮崎市は、昭和59年の史跡蓮ヶ池横穴群保存環境整備事業計画策定以来、年次的に本事業の推進に努めて参ったところであります。

宮崎市には、国指定重要文化財「木造薬師如来及び両脇侍像」を始めとする歴史遺産や特別天然記念物「青島亜熱帯性植物群落」などの自然遺産も多く、市民の文化財に対する関心も高いものがあります。しかしながら、近年のリゾート開発を始めとする各種の開発が増加し、埋蔵文化財の保護・保存問題が新たな課題となっています。宮崎市では、教育委員会が中心となって開発と保存の調節をはかり、出来る限りの現状保存に努力をしています。このような状況の中で、「蓮ヶ池横穴群」の史跡整備への期待は大きく、その完成が待ち望まれておりました。

本事業は、国及び宮崎県からの補助金を受け、昭和60年度に横穴の計測調査を実施して以来、「蓮ヶ池横穴群」保存事業概報Ⅰ(1986)、同概報Ⅱ(1988)、同概報Ⅲ(1989)、同概報Ⅳ(1990)、同概報Ⅴ(1991)、同概報Ⅵ(1992)を刊行しております。平成4年度で全事業を完了し、本報告書を作成することになりました。

本事業は、横穴の保存・環境の整備を主体に着手し、昭和62年度に都市計画公園事業を導入し、史跡整備と都市計画公園整備とが一体化した史跡公園づくりを行っております。横穴の保存工事については、昭和61年度の12号横穴を始めとして平成3年度までに39基にのぼる横穴の復元・補強工事を行っております。

また、史跡公園整備とともに屋内でも体系的な学習の出来る「みやざき歴史文化館」を建設し、平成4年7月25日同時に開園・開館いたしております。

本報告書は、発掘調査(計測調査)及び保存環境整備等事業全体について報告したものであります。

史跡蓮ヶ池横穴群保存環境整備事業の内容へのご理解をいただきますとともに、本報告書が今後の史跡整備の一助となり、広く活用されることを願うものであります。

本事業推進にあたりまして貴重なご指導、ご助言をいただきました文化庁並びに奈良国立文化財研究所の諸先生方、また、献身的に作業に従事いただきました多くの方々へ深く感謝いたします。

平成5年3月

宮崎市教育委員会
教育長 柚木崎

敏

例 言

1. 本書は、昭和59年度から平成4年度に実施した、史跡蓮ヶ池横穴群保存環境整備事業を主体にした報告書である。また、史跡公園整備、みやざき歴史文化館建設、農工体験施設事業、それにその他関連事業についても概略を報告している。
2. 本事業に関連して、昭和60年度から平成3年度までに既刊した蓮ヶ池横穴群保存整備事業概報（I—V）の総まとめの正報告書である。
3. 保存環境整備事業は、国庫補助、宮崎県補助を受け宮崎市教育委員会が主体に行ない、史跡公園整備事業は、都市計画公園事業の国庫補助、起債により宮崎市都市整備部都市計画公園課が行なっている。また、みやざき歴史文化館建設は、自治省のまちづくり特別対策事業の起債と宮崎県補助を受け、農工等体験施設整備事業は、宝くじ協会の助成を受けて宮崎市教育委員会が主体に行っている。
4. 本事業推進に当たっては、文化庁、奈良国立文化財研究所の指導を受けるとともに、史跡蓮ヶ池横穴群保存環境整備推進委員会を設置し、同委員会が総合的な検討機関となるとともに指導助言を受けている。
5. 報告書作成にあたっては新たな執筆に加え、次のとおり執筆依頼や整備資料の引用、基本構想、基本設計等の抜粋を掲載し、内容構成している。
 - ①、I-2-(5)-1については【史跡蓮ヶ池横穴群整備資料】「史跡公園構想」引用 角 彬壽 昭和49年3月20日。
 - ②、I-3-(2)は、【第2次宮崎市総合計画】抜粋 宮崎市 昭和60年3月。
 - ③、II-2-(2)は、【史跡蓮ヶ池横穴群保存環境整備基本構想策定】株式会社テアプン設計研究所 昭和59年11月。
 - ④、II-2-(3)は、【史跡蓮ヶ池横穴群保存環境整備基本設計報告書】株式会社L A T環境設計事務所 1986年1月。
 - ⑤、II-3の「横穴群発掘調査（計測調査）とその概要」の中の蓮ヶ池横穴一覧表（1）-（25）は、みやざき歴史文化館の田中茂氏作成によるものを掲載させていただいた。
 - ⑥、II-4-(1)の横穴の保存修理法については奈良国立文化財研究所、埋蔵文化財センター、研究指導部、遺物処理研究室の澤田正昭室長にご執筆いただいた。なお、その他については、野間重孝外文化振興課文化財係職員が分担して執筆した。
6. 本書に使用した巻頭のカラー写真及び保存工事終了写真、修景完了写真については、平成5年1月に撮影したものであり、写真家 芥川 仁氏並びに、株式会社スカイサーベイの空中写真を主に使用し、また、史跡整備完成後の航空写真は（有）寺田アビエーションシステムに提供いただいた。その他の写真については、宮崎市教育委員会撮影及び工事施行業者撮影によるものが多い。
7. 本事業にかかわる関係機関、計測調査の組織等は、巻末に史跡蓮ヶ池横穴群環境整備事業関係者一覧として掲載した。
8. 本書の編集は、野間が主に担当した。

本文目次

I. 史跡蓮ヶ池横穴群保存環境整備事業全体の概要	1
1. 位置と環境	1
2. 蓮ヶ池横穴群の調査と整備に至る経緯	17
(1) 昭和44年の発掘調査	17
(2) 史跡指定	18
(3) 史跡地の公有化	26
(4) 史跡公園用地の公有化	27
(5) 史跡蓮ヶ池横穴群の保存管理計画	28
1) 史跡蓮ヶ池横穴群整備資料作成	28
2) 蓮ヶ池横穴群説明板及び分布図板の製作設置	31
3) 地形図の作成（1/1,000）	32
3. 事業の概要と経費	35
(1) 蓮ヶ池史跡公園の整備及び歴史資料館の位置づけ	35
(2) 第2次宮崎市総合計画抜粋	35
(3) 蓮ヶ池史跡公園整備事業の基本的な考え方	38
(4) 事業総体の年次別実績及び財源内訳	39
II. 保存環境整備事業	41
1. 蓮ヶ池横穴群保存環境整備経過	41
2. 保存環境整備事業計画	42
(1) 史跡蓮ヶ池横穴群保存環境整備等推進委員会の設置	42
(2) 基本構想	45
(3) 基本設計	51
(4) 実施設計	65
3. 横穴群発掘調査（計測調査）とその概要	67
4. 保存環境整備事業（国庫補助対象事業）	98
(1) 横穴の保存修理法（復元、補強工事）	98
(2) 横穴保存工事	102
1) 昭和61年度の保存工事	102
2) 昭和62年度の保存工事	102
3) 昭和63年度の保存工事	103
4) 平成元年度の保存工事	103
5) 平成2年度の保存工事	103
6) 平成3年度の保存工事	104

挿図目次

(3) 修景工事	142
1) 昭和60年度の修景工事	142
2) 昭和62年度の修景工事	142
3) 昭和63年度の修景工事	142
4) 平成元年度の修景工事	142
5) 平成2年度の修景工事	143
6) 平成3年度の修景工事	143
(4) 説明板及び横穴表示標柱設置	148
(5) 年次別保存環境整備事業と経費	150
Ⅲ. 史跡公園整備事業	151
1. 都市計画公園整備事業（建設省）	151
(1) ゾーンⅠの整備（中央広場）	151
(2) ゾーンⅡの整備（御諏訪池周辺）	151
(3) ゾーンⅢの整備（稲荷池周辺）	152
(4) 年次別史跡公園整備事業と経費	165
2. みやざき歴史文化館建設事業（自治省、まちづくり特別対策事業）	166
(1) 歴史資料館（仮称）建設懇話会の設置	166
(2) 歴史資料館（仮称）建設についての提言	169
(3) 躯体工事	170
(4) 展示工事	170
(5) 外構工事（駐車場建設）	171
(6) 年次別建設事業と経費	172
3. 農工等体験施設整備事業（まじ協会助成）	178
(1) 庵の移築	178
(2) 鍛冶場の移築復元と鍛冶屋の新築	178
(3) 農工等体験施設の利用	178
(4) 農工等体験施設整備事業実績	178
4. その他の関連事業	184
(1) 幹線道路用地購入と建設	184
(2) 資料館建設用地の購入と造成	184
(3) 溜池改修工事	184
(4) その他の関連事業費内訳	185
{付} 史跡蓮ヶ池横穴群保存環境整備事業組織一覧	239

第1図	史跡蓮ヶ池横穴群位置図	2
第2図	史跡蓮ヶ池横穴群分布図	3
第3図	第1集団Aグループ横穴周辺地形図	6
第4図	第1集団Bグループ横穴周辺地形図	7
第5図	第1集団Cグループ横穴周辺地形図	8
第6図	第1集団Cグループ横穴周辺地形図（12号横穴）	9
第7図	第1集団Dグループ横穴周辺地形図（13号横穴）	10
第8図	第1集団Dグループ横穴周辺地形図（14・15号横穴）	11
第9図	第1集団Eグループ横穴周辺地形図	12
第10図	第2集団B・C・Eグループ横穴周辺地形図	13
第11図	第2集団D・Fグループ横穴周辺地形図	14
第12図	第1集団Cグループ横穴周辺地形図（52号横穴）	15
第13図	第2集団Gグループ横穴周辺地形図	15
第14図	第2集団単独横穴（73号横穴）周辺地形図	16
第15図	第2集団Aグループ横穴周辺地形図	16
第16図	史跡蓮ヶ池横穴群指定区域内外図	23
第17図	史跡蓮ヶ池横穴群史跡公園構想図（角案）	29
第18図	史跡蓮ヶ池横穴群地形図（白図）	33
第19図	史跡蓮ヶ池横穴群保存環境整備基本構想図	49
第20図	史跡蓮ヶ池横穴群保存環境整備ゾーニング図	56
第21図	史跡蓮ヶ池横穴群保存環境整備施設配置、動線計画図	60
第22図	蓮ヶ池横穴群史跡公園基本設計平面図	63
第23図	蓮ヶ池横穴群史跡公園実施設計平面図	65
第24図	保存工事面図（1） 第2号・3号・4号横穴遺構復元図	105
第25図	保存工事面図（2） 第6号横穴遺構復元図	106
第26図	保存工事面図（3） 第7号横穴遺構復元図	107
第27図	保存工事面図（4） 第8号横穴遺構復元図	108
第28図	保存工事面図（5） 第9号横穴遺構復元図	109
第29図	保存工事面図（6） 第10号横穴遺構復元図	110
第30図	保存工事面図（7） 第11号横穴遺構復元図	111
第31図	保存工事面図（8） 第12号横穴遺構復元図①	112
第32図	保存工事面図（9） 第12号横穴遺構復元図②	113
第33図	保存工事面図（10） 第13号横穴遺構復元図・支室被覆板整備工事①	114

第34図	保存工事図面 (11)	第13号横穴遺構復元図・玄室被覆板整備工事②	115
第35図	保存工事図面 (12)	第14号横穴遺構復元図	116
第36図	保存工事図面 (13)	第15号横穴遺構復元図	117
第37図	保存工事図面 (14)	第16号横穴遺構復元図	118
第38図	保存工事図面 (15)	第17号横穴遺構復元図	119
第39図	保存工事図面 (16)	第18号横穴遺構復元図	120
第40図	保存工事図面 (17)	第19号横穴遺構復元図	121
第41図	保存工事図面 (18)	第20号横穴遺構復元図	122
第42図	保存工事図面 (19)	第21号横穴遺構復元図	123
第43図	保存工事図面 (20)	第23号横穴遺構復元図	124
第44図	保存工事図面 (21)	第24号横穴遺構復元図	125
第45図	保存工事図面 (22)	第25号横穴遺構復元図	126
第46図	保存工事図面 (23)	第26号横穴遺構復元図	127
第47図	保存工事図面 (24)	第29号横穴遺構復元図	128
第48図	保存工事図面 (25)	第30号横穴遺構復元図	129
第49図	保存工事図面 (26)	第31号横穴遺構復元図	130
第50図	保存工事図面 (27)	第35号横穴遺構復元図	131
第51図	保存工事図面 (28)	第36号横穴遺構復元図	132
第52図	保存工事図面 (29)	第37号横穴遺構復元図	133
第53図	保存工事図面 (30)	第38号横穴遺構復元図	134
第54図	保存工事図面 (31)	第39号横穴遺構復元図	135
第55図	保存工事図面 (32)	第52号横穴遺構復元図	136
第56図	保存工事図面 (33)	第53号横穴遺構復元図	137
第57図	保存工事図面 (34)	第69号横穴遺構復元図	138
第58図	保存工事図面 (35)	第71号横穴遺構復元図	139
第59図	保存工事図面 (36)	第72号横穴遺構復元図	140
第60図	保存工事図面 (37)	第73号横穴遺構復元図	141
第61図	修景工事図面 (1)	見学道配置平面図・見学道標準断面図・水路構造図	144
第62図	修景工事図面 (2)	9号~12号・52号横穴前植栽平面図	145
第63図	修景工事図面 (3)	四阿棟設計図①	146
第64図	修景工事図面 (4)	四阿棟設計図②	147
第65図	説明板・横穴表示欄柱設計図		149
第66図	蓮ヶ池史跡公園完成平面図		153
第67図	竪穴住居設計図 (1) 方型タイプ立面図		155
第68図	竪穴住居設計図 (2) 方型タイプ平面図・屋根伏図		156
第69図	竪穴住居設計図 (3) 方型タイプ小屋伏図		157

第70図	竪穴住居設計図 (4) 方型タイプ鉅計詳細図	158
第71図	竪穴住居設計図 (5) 高床式倉庫平面図・屋根伏図	159
第72図	竪穴住居設計図 (6) 高床式倉庫立面図・床伏図・小屋伏図	160
第73図	竪穴住居設計図 (7) 高床式倉庫鉅計詳細図	161
第74図	竪穴住居設計図 (8) 円型タイプ立面図 (参考図)	162
第75図	竪穴住居設計図 (9) 円型タイプ小屋伏図	163
第76図	竪穴住居設計図 (10) 扉工	164
第77図	みやざき歴史文化館新築工事 (1) 配置図	173
第78図	みやざき歴史文化館新築工事 (2) 立面図・断面図①	174
第79図	みやざき歴史文化館新築工事 (3) 立面図・断面図②	175
第80図	みやざき歴史文化館新築工事 (4) 1階平面図	176
第81図	みやざき歴史文化館新築工事 (5) 2階平面図	177
第82図	農工等体験施設整備工事 (1) 配置図	179
第83図	農工等体験施設整備工事 (2) 概平面図・正面図①	180
第84図	農工等体験施設整備工事 (3) 概側面図・背面図	181
第85図	農工等体験施設整備工事 (4) 鍛冶屋新築平面図・側面図・正面図	182
第86図	農工等体験施設整備工事 (5) 鍛冶炉立面詳細図	183

表 目 次

第1表	史跡地の公有化年次別一覧表	26
第2表	史跡公園用地の公有化年次別一覧表	27
第3表	史跡蓮ヶ池横穴群保存環境整備事業年次別実績	39
第4表	史跡蓮ヶ池横穴群保存環境整備事業年次財源内訳	40
第5表	蓮ヶ池横穴一覧表 (1) ~ (25)	68
第6表	保存環境整備事業実績	150
第7表	都市計画公園整備事業実績	165
第8表	みやざき歴史文化館建設事業実績	172
第9表	農工等体験施設整備事業実績	178
第10表	その他関連事業費内訳	185

グラフィア写真

史跡蓮ヶ池横穴群鳥瞰図	(1)
-------------	-----

史跡蓮ヶ池横穴群保存環境整備前	(2)
史跡蓮ヶ池横穴群保存環境整備後	(3)
第1集団Cグループ(9-12, 52号横穴)保存環境整備状況	(4)
ゾーンI(中央谷間)整備状況	(4)
ゾーンII(御諏訪池西岸)整備状況	(5)
ゾーンIII(稲荷池西岸)整備状況	(5)
第1集団Aグループ(2-5, 22号横穴)	(6)
第1集団Bグループ(6-8号横穴)	(6)
第1集団Dグループ(13-15号横穴)	(7)
第1集団Eグループ(16-21号横穴)	(7)
第2集団Dグループ(23, 29-31, 35号横穴)	(8)
第2集団Eグループ(36-39号横穴)	(8)
12号横穴 内部構造	(9)
13号横穴 復元状況	(9)
36号横穴 支室内部	(10)
69号横穴 復元状況	(10)
中央谷間整備状況 1 第1集団Eグループ(16-21号横穴)前広場	(11)
中央谷間整備状況 2 69号横穴前広場	(11)
中央谷間整備状況 3 73号横穴前広場	(12)
中央谷間整備状況 4 第2集団Aグループ(70-72号横穴)前広場	(12)
中央谷間整備状況 5 せせらぎ水路・奥部西支谷広場	(13)
御諏訪池西岸整備状況(古代住居復元広場)	(13)
御諏訪池奥部整備状況 1 34号横穴前	(14)
御諏訪池奥部整備状況 2 東側支谷広場	(14)
稲荷池奥部整備状況 1 石塔のはらっぱ・西側支谷広場	(15)
稲荷池奥部整備状況 2 蓮池、湿性植物園	(15)
2号横穴 保存整備状況	(16)
3号横穴 保存整備状況	(16)
4号横穴 保存整備状況	(17)
5号横穴 保存整備状況	(17)
6号横穴 保存整備状況	(18)
7号横穴 保存整備状況	(18)
8号横穴 保存整備状況	(19)
9号横穴 保存整備状況	(19)
10号横穴 保存整備状況	(20)
11号横穴 保存整備状況	(20)

12号横穴 保存整備状況	(21)
13号横穴 保存整備状況	(21)
14号横穴 保存整備状況	(22)
15号横穴 保存整備状況	(22)
16号横穴 保存整備状況	(23)
17号横穴 保存整備状況	(23)
18号横穴 保存整備状況	(24)
19号横穴 保存整備状況	(24)
20号横穴 保存整備状況	(25)
21号横穴 保存整備状況	(25)
22号横穴 保存整備状況	(26)
23号横穴 保存整備状況	(26)
24号横穴 保存整備状況	(27)
25号横穴 保存整備状況	(27)
26号横穴 保存整備状況	(28)
29号横穴 保存整備状況	(28)
30号横穴 保存整備状況	(29)
31号横穴 保存整備状況	(29)
35号横穴 保存整備状況	(30)
36号横穴 保存整備状況	(30)
37号横穴 保存整備状況	(31)
38号横穴 保存整備状況	(31)
39号横穴 保存整備状況	(32)
52号横穴 保存整備状況	(32)
53号横穴 保存整備状況	(33)
69号横穴 保存整備状況	(33)
71号横穴 保存整備状況	(34)
72号横穴 保存整備状況	(34)
73号横穴 保存整備状況	(35)
33号横穴 線刻画	(35)

図版目次

図版 1	第1集団グループ(2-5号横穴)	189
図版 2	2号横穴	189
図版 3	3号横穴	189
図版 4	4号横穴	190
図版 5	第1集団Bグループ(6-8号横穴)	190
図版 6	6号横穴	190
図版 7	7号横穴	191
図版 8	8号横穴	191
図版 9	第1集団Cグループ(9-11号横穴)	191
図版 10	9号横穴	192
図版 11	10号横穴	192
図版 12	11号横穴	192
図版 13	12号横穴	193
図版 14	12号横穴前室	193
図版 15	12号横穴奥室	193
図版 16	13号横穴	194
図版 17	13号横穴遺物出土状況	194
図版 18	第1集団Dグループ(13-15号横穴)	194
図版 19	14号横穴	195
図版 20	15号横穴	195
図版 21	第1集団Eグループ(16-21号横穴)	195
図版 22	16, 17号横穴	196
図版 23	18号横穴	196
図版 24	19号横穴	196
図版 25	20号横穴	197
図版 26	21号横穴	197
図版 27	第2集団全景	197
図版 28	23号横穴	198
図版 29	24号横穴	198
図版 30	25号横穴	198
図版 31	26号横穴	199
図版 32	26号横穴遺物出土状況	199
図版 33	27号横穴	199

図版 34	28号横穴	200
図版 35	29号横穴	200
図版 36	30号横穴	200
図版 37	31号横穴	201
図版 38	32号横穴	201
図版 39	33号横穴	201
図版 40	35号横穴	202
図版 41	36号横穴	202
図版 42	36号横穴玄室天井	202
図版 43	37号横穴	203
図版 44	38号横穴	203
図版 45	39号横穴	203
図版 46	52号横穴	204
図版 47	52号横穴羨道部	204
図版 48	53号横穴	204
図版 49	69号横穴	205
図版 50	71号横穴	205
図版 51	72号横穴	205
図版 52	73号横穴	206
図版 53	74号横穴	206
図版 54	74号横穴玄室内部	206
保存工事		
図版 55	2-5号横穴 足場取り付け	209
図版 56	2-5号横穴 ガラス繊維混入FRP吹き付け	209
図版 57	2-5号横穴 ステンレス骨組み	209
図版 58	2-5号横穴 発泡ウレタン吹き付け	210
図版 59	2-5号横穴 ステンレス金網取り付け後サイト凝土貼り付け	210
図版 60	9号横穴奥壁 サンコール含混後のステンレス骨組み	210
図版 61	9号横穴奥壁 ウレタン吹き付け	211
図版 62	9号横穴奥壁 ステンレス金網取り付け	211
図版 63	9号横穴奥壁 エポキシ凝土貼り付け	211
図版 64	12号横穴 保存工事着工前	212
図版 65	12号横穴 ステンレス支柱取り付け	212
図版 66	12号横穴 ステンレス骨組み	212
図版 67	12号横穴 発泡ウレタン吹き付け1回目終了	213
図版 68	12号横穴 発泡ウレタン吹き付け完了	213

図版 69	12号横穴	ウレタン被覆FRP貼り付け	213
図版 70	12号横穴	擬土貼り付け	214
図版 71	12号横穴	サンコール含浸	214
図版 72	12号横穴	保存工事完成	214
図版 73	13号横穴	ステンレス支柱	215
図版 74	13号横穴	ステンレス骨組み(羨道部復元)	215
図版 75	13号横穴	金網固定針金取り付け	215
図版 76	13号横穴	発泡ウレタン吹き付け	216
図版 77	13号横穴	エポキシ擬土貼り付け	216
図版 78	13号横穴	復元羨道部構造	216
図版 79	13号横穴	羨道内部エポキシ擬土貼り付け	217
図版 80	13号横穴	床面被覆板設置状況	217
図版 81	13号横穴	レブリカ設置後ガラス板被覆	217
図版 82	69号横穴	ステンレス骨組み	218
図版 83	69号横穴	ステンレス金網取り付け	218
図版 84	69号横穴	エポキシ擬土貼り付け	218
修景工事			
図版 85	第1集団Cグループ(9~12, 52号横穴)	見学道 着工前	220
図版 86	第1集団Cグループ(9~12, 52号横穴)	見学道 完成	221
図版 87	6~8号横穴	前庭部修景及び見学道 着工前	220
図版 88	6~8号横穴	前庭部修景及び見学道 完成	221
図版 89	9~11号横穴	横穴前庭部修景 着工前	220
図版 90	9~11号横穴	横穴前庭部修景 完成	221
図版 91	12号横穴周辺修景	着工前	222
図版 92	12号横穴周辺修景	完成	223
図版 93	70~72号横穴	前庭広場修景及び四阿 着工前	222
図版 94	70~72号横穴	前庭広場修景及び四阿 完成	223
図版 95	73号横穴	前庭広場修景 着工前	222
図版 96	73号横穴	前庭広場修景 完成	223
図版 97	16~21号横穴	前庭広場修景 着工前	224
図版 98	16~21号横穴	前庭広場修景 完成	225
図版 99	中央谷間奥支谷広場	着工前	224
図版 100	中央谷間奥支谷広場	完成	225
図版 101	12号横穴	周辺植栽 着工前	224
図版 102	12号横穴	周辺植栽 完成	225
図版 103	中央部丘陵見学道	着工前	226

図版 104	中央部丘陵見学道	完成	227
図版 105	中央広場から9~11号横穴への見学道	着工前	226
図版 106	中央広場から9~11号横穴への見学道	完成	227
図版 107	53号横穴	前庭広場修景 着工前	226
図版 108	53号横穴	前庭広場修景 完成	227
図版 109	36~39号横穴	前庭部補強 着工前	228
図版 110	36~39号横穴	前庭部補強 完成	229
図版 111	36~39号横穴	見学道 着工前	228
図版 112	36~39号横穴	見学道 完成	228
図版 113	53号横穴	前庭庭地修景 完成	229
図版 114	史跡蓮ヶ池横穴群説明板		229
図版 115	横穴説明板(13号横穴)		230
図版 116	史跡蓮ヶ池横穴群総合案内板		230
図版 117	横穴表示標柱		230
都市計画公園整備事業			
図版 118	中央広場修景	着工前	232
図版 119	中央広場修景	完成	233
図版 120	御諏訪池奥広場修景	着工前	232
図版 121	御諏訪池奥広場修景	完成	233
図版 122	稲荷池奥広場修景	着工前	232
図版 123	稲荷池奥広場修景	完成	233
図版 124	公園案内板		234
図版 125	公園案内標識		234
図版 126	樹木銘板		234
図版 127	水飲み場		235
図版 128	園内照明灯		235
図版 129	園内トイレ		235
みやざき歴史文化館建設事業			
図版 130	みやざき歴史文化館全景		236
図版 131	みやざき歴史文化館展示室1	1階 富崎のガイダンス	236
図版 132	みやざき歴史文化館展示室2	2階 考古・歴史コーナー	236
図版 133	みやざき歴史文化館展示室3	2階 民俗・民俗芸能コーナー	237
図版 134	みやざき歴史文化館展示室4	2階 ミニシアター	237
図版 135	みやざき歴史文化館展示室5	2階 神話コーナー	237
農工等体験施設整備事業			
図版 136	厩・鍛冶屋全景		238

I. 史跡蓮ヶ池横穴群保存環境整備事業全体の概要

1. 位置と環境

史跡蓮ヶ池横穴群は、宮崎市の北部宮崎市大字芳土岩永迫に位置し、一般的に「蓮ヶ池」と呼称されるように池を目前に控えたところである。

標高120.5mをもつ垂水台地から、宮崎平野に向かって開析された丘陵が延び出ており、丘陵端部は国道10号線により分断され、東西約1km、南北約1.3kmの独立状の丘陵地を形成している。

この丘陵地は、蓮ヶ池、中池、田池という連続する3つの溜池で二分され、南側丘陵は北側斜面が宅地造成され、南側及び東側斜面に県指定住吉古墳（横穴）が分布している。北側丘陵は一部を除いて自然地形が良く保たれている。

北側丘陵分水嶺より、南側斜面部が国の史跡として昭和46年7月17日に指定を受けている。この指定地内は、西側に稲荷池、中央部に湿地の谷間、そして東側に御諏訪池と南北に入り込む谷間をそれぞれに挟む舌状丘陵が延びだし、池水と丘陵の照葉樹による絶好の環境をかもしだしている。

横穴は、大筋で南方向に羨門口を開口できる斜面に構築されており、現在までに82基の横穴が確認されている。

グループについては「蓮ヶ池横穴群保存環境整備事業概報Ⅱ 1988」及びその後の追加分をいれた「蓮ヶ池横穴群保存環境整備事業概報Ⅳ 1990」に記載してあるが全体を把握する意味で下記のとおり説明しておく。

第1集団（指定地内西側の丘陵に分布）

- Aグループ（丘陵先端部西斜面に分布）——2, 3, 4, 5, 22号横穴
- Bグループ（丘陵先端部南斜面に分布）——6, 7, 8号横穴
- Cグループ（丘陵東斜面に分布）——9, 10, 11, 12, 52号横穴
- Dグループ（丘陵東斜面奥部に分布）——13, 14, 15号横穴
- Eグループ（丘陵東斜面支谷奥に分布）——16, 17, 18, 19, 20, 21号横穴
- Fグループ（丘陵東斜面支谷奥に分布）——79, 80, 81号横穴

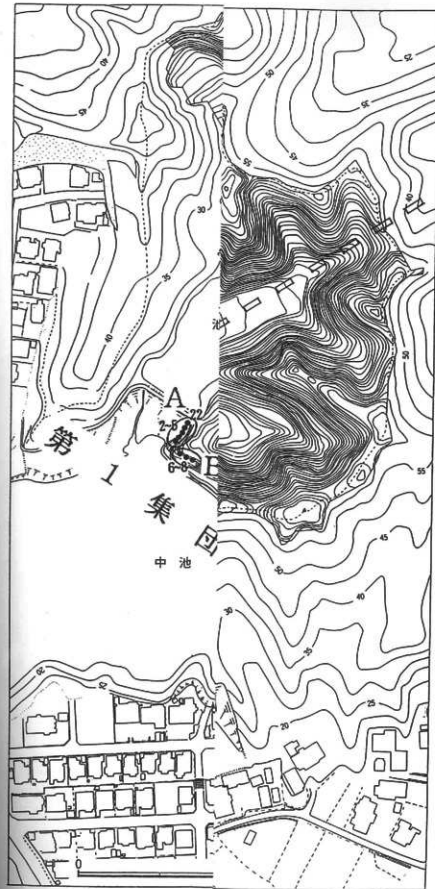
第2集団（指定地内中央の丘陵に分布）

- Aグループ（丘陵西斜面支谷南斜面に分布）——70, 71, 72号横穴
- Bグループ（丘陵東斜面に分布）——24, 25, 26, 77号横穴
- Cグループ（丘陵東斜面下段に分布）——27, 28号横穴
- Dグループ（丘陵東斜面に分布）——23, 29, 30, 31, 35号横穴
- Eグループ（丘陵東斜面上段に分布）——36, 37, 38, 39号横穴
- Fグループ（丘陵東斜面に分布）——32, 33, 74, 76号横穴
- Gグループ（丘陵南部支谷東斜面に分布）——53, 78号横穴



1. 下北方古墳群
2. 柏田貝塚
3. 池内横穴群
4. 大塚古墳群
5. 石神遺跡
6. 浮之城遺跡
7. 樽遺跡
8. 浄土江遺跡
9. 船塚古墳
10. 赤江古墳

第1圖 史跡運ヶ池横穴群位置圖



史跡蓮ヶ池横穴群分布図



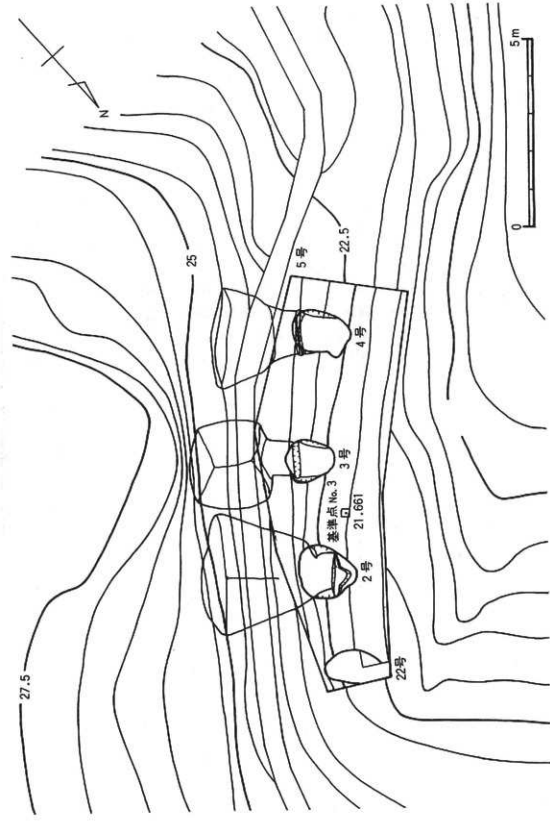
第2図 史跡蓮ヶ池横穴群分布図

第3集団（指定地内東側の丘陵に分布）

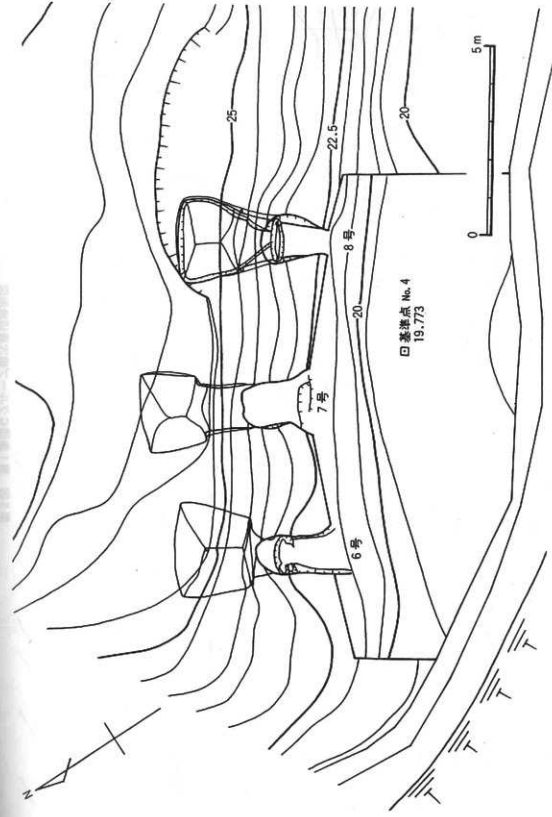
- Aグループ（丘陵先端部南斜面に分布）——40. 41. 42. 43号横穴
Bグループ（丘陵先端部南斜面に分布）——44. 50. 45. 46号横穴
Cグループ（丘陵先端部南斜面に分布）——47. 48. 49号横穴
Dグループ（丘陵内支谷南斜面に分布）——55. 56. 57. 58. 59号横穴
Eグループ（丘陵内支谷南斜面に分布）——60. 61. 62. 63号横穴
Fグループ（丘陵内支谷南斜面に分布）——64. 65. 66. 67. 68号横穴

単独横穴

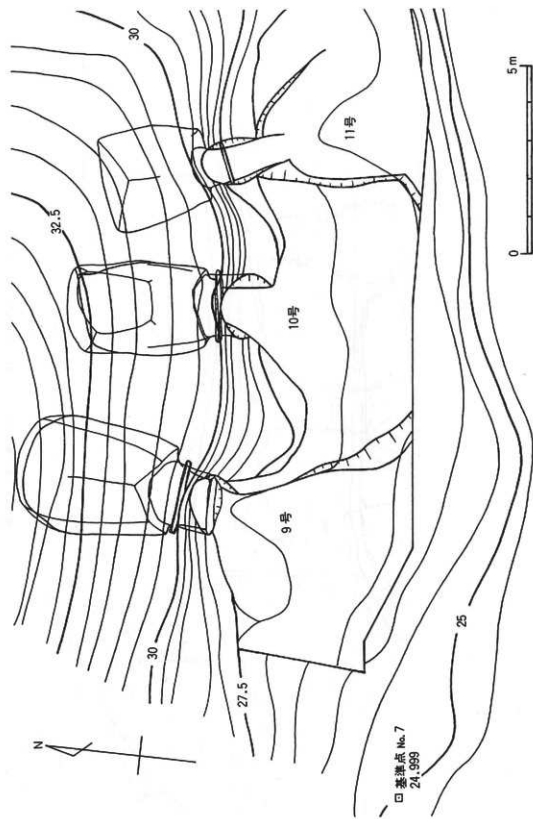
- 1号横穴 — 稻荷池奥の低湿地に延びた小丘陵の先端に位置。指定地から外れる。
69号横穴 — 第1集団と第2集団の谷間の奥に位置する。
73号横穴 — 指定地内中央丘陵の西斜面の支谷に開口するが、立地条件からは今後グループ化する可能性がある。
51号横穴 — 御諏訪池奥の西岸に位置し、急斜面の高い位置に開口している。
34号横穴 — 御諏訪池奥の湿地に延びた丘陵の南端に開口している。
54号横穴 — 御諏訪池奥の東岸斜面に開口する。
75号横穴 — 指定地内東丘陵の尾根近くに開口するもので、現在のところ一番高い標高を持つ。今後グループ化する可能性がある。
82号横穴 — 稻荷池奥部に西側延びた丘陵の南斜面に開口し、今後グループ化する可能性がある。



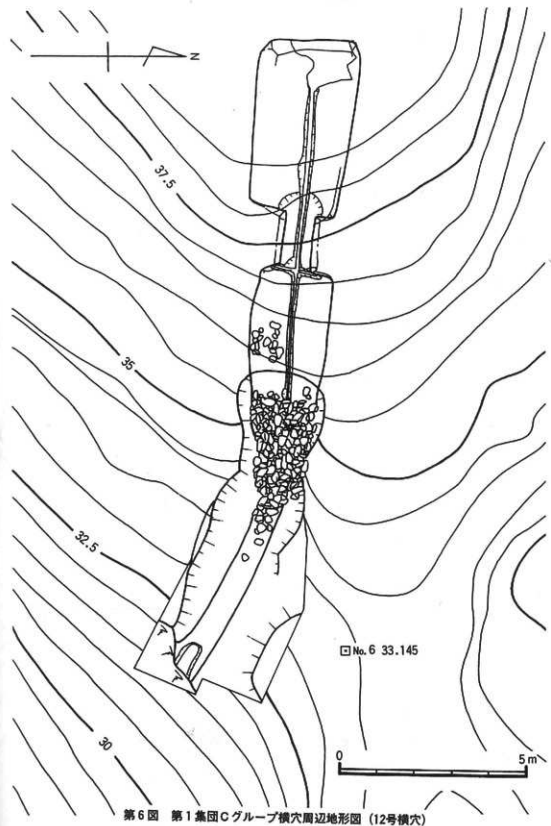
第3図 第1集団Aグループ坑穴周辺地形図



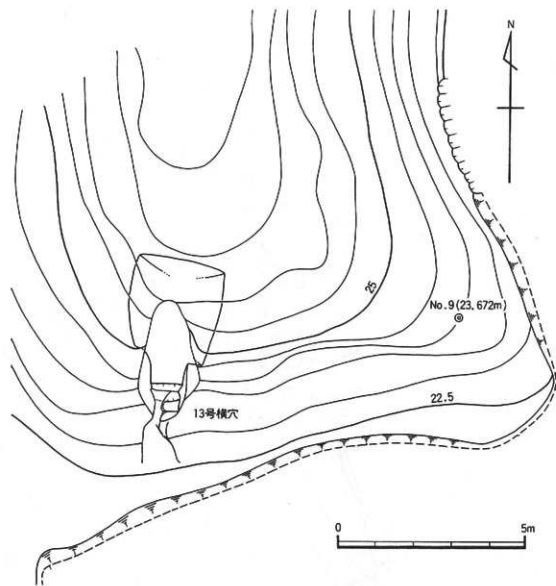
第4図 第1集団Bグループ坑穴周辺地形図



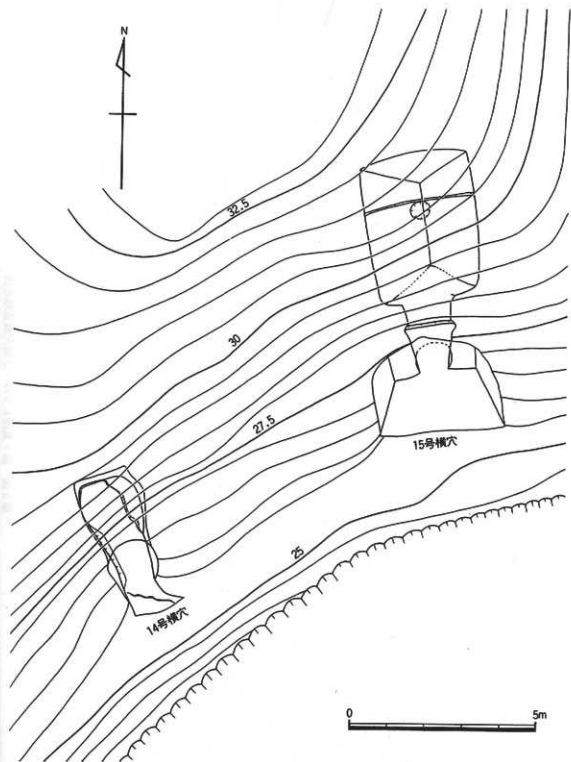
第5図 第1集団Cグループ横穴周辺地形図



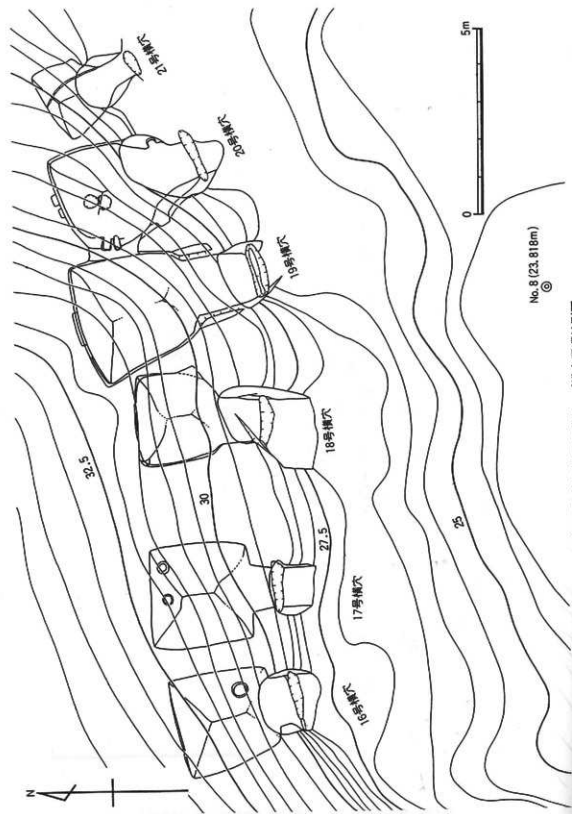
第6図 第1集団Cグループ横穴周辺地形図 (12号横穴)



第7図 第1集団Dグループ横穴周辺地形図 (13号横穴)

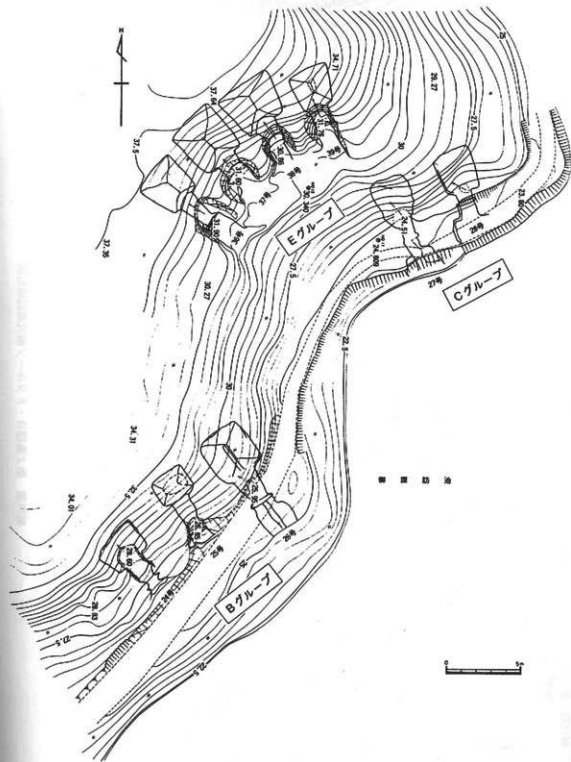


第8図 第1集団Dグループ横穴周辺地形図 (14・15号横穴)

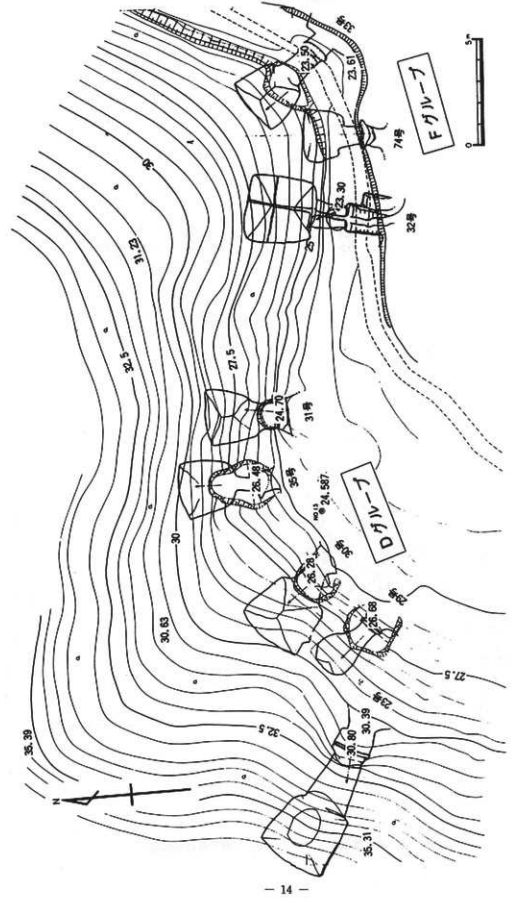


№. 8 (23.818m)

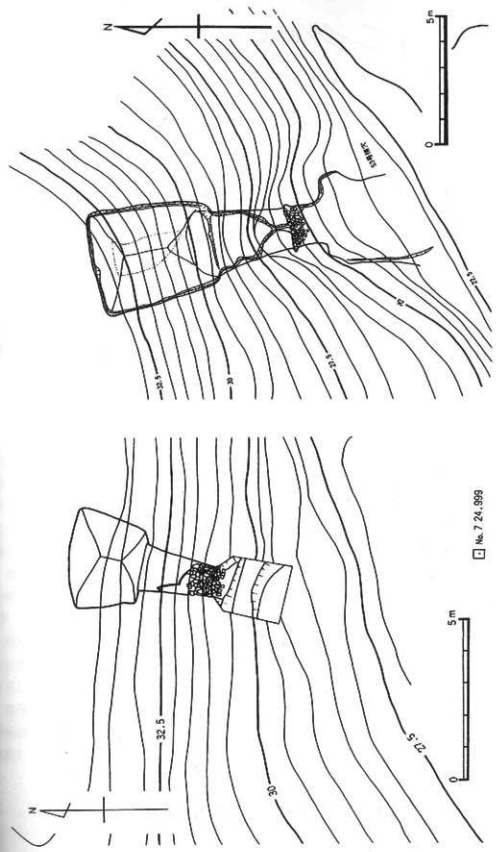
第9図 第1集団Eグループ横穴周辺地形図



第10図 第2集団B・C・Eグループ横穴周辺地形図

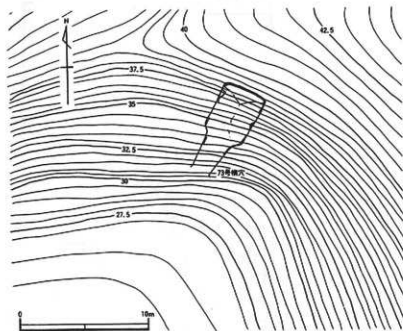


第11図 第2集団D・Fグループ横穴周辺地形図

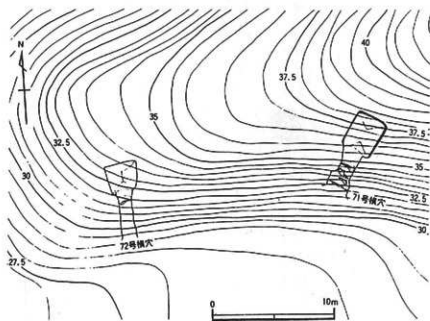


第12図 第1集団Cグループ横穴周辺地形図 (50号横穴)

第13図 第2集団Gグループ横穴周辺地形図



第14図 第2集団単独横穴（73号横穴）周辺地形図



第15図 第2集団Aグループ横穴周辺地形図

2. 蓮ヶ池横穴群の調査と整備に至る経緯

昭和40年代前半は、宮崎市内においても大型宅地造成の先駆け時期にあたり、市内池内町における平和が丘団地造成計画では池内横穴群の分布が知られ、緊急発掘調査が行われた後、4基の横穴がサンプル的に保存（現、県指定史跡「池内横穴」）され団地造成が行われている。

蓮ヶ池横穴群の分布する丘陵も同じように団地造成計画がもち上がり、昭和44年に緊急発掘調査を実施し、横穴の群集地としては南限にあたることから昭和46年に国の史跡指定を受けている。そこで、宮崎市では昭和46年から用地の先行取得に着手し、昭和47年から50年にかけての4か年計画で国庫補助を受けて昭和46年から用地の先行取得に着手し、昭和47年から50年にかけての4か年計画で国庫補助を受けて史跡地の公有化を図っている。

昭和48年には、史跡地公有化後は、史跡公園として整備活用を図ることから南九州大学の角彬壽先生に依頼して蓮ヶ池史跡公園構想図を作成していただいている。

昭和52年には、国庫補助を受けて、蓮ヶ池横穴群を史跡としての活用を図るために横穴の説明板と横穴分布図板を各2基を製作し東口、西口に設置している。

昭和59年には、市制60周年記念事業として、史跡蓮ヶ池横穴群保存環境整備事業が決定され、整備事業に先立ち、1,000分の1の地形図作成を行い、横穴群のプロットも同時に行っている。

以下、基本構想作成から本格的に整備事業に着手していくこととなった。

(1) 昭和44年の発掘調査

現在の史跡蓮ヶ池横穴群は、昭和14年1月「史跡名勝天然記念物保存顕彰規定」により、県の史跡として指定されていた。この指定は、横穴そのものが指定対象であり、その立地する丘陵は含まれていなかったため、昭和40年代初めにおいて再三にわたり、この一帯の宅地造成の計画がもたらされてきた。このため宮崎県教育委員会では、これら開発に対応するため、まずこの横穴群の学術的価値の検討をいそぎ、昭和44年度、国庫補助事業により「蓮ヶ池横穴群緊急発掘調査」を実施している。

横穴群の発掘調査は、調査総括指導を当時、東京大学考古学研究室に在籍されていた文学博士斎藤 忠先生にお願いし、東京大学大学院生ほか地元研究者、行政側からの調査陣容を整え昭和44年5月12日に着手し、同年6月1日終了している。

発掘調査を実施した横穴は41基となっているが、これは、土地所有者との事前協議により横穴群集地一帯にある道路は破壊しないことになっていたため道路下に所在する横穴は調査の対象外にしたため、確認されていた53基の横穴総ては発掘調査ができなかった。

発掘調査報告については、宮崎県教育委員会により、「蓮ヶ池横穴群調査報告書」として、昭和46年3月に刊行されている。本報告では、次章に一覧表にてその構造及びその出土遺物を掲載している。

庁保記第 9027 号

宮崎県住宅生活協同組合連合会

文化財保護法（昭和25年法律第214号）第69条第1項の規定により、下記ノの記念物を下記2によつて史跡に指定します。

昭和46年7月7日

文部大臣 高見三郎

記

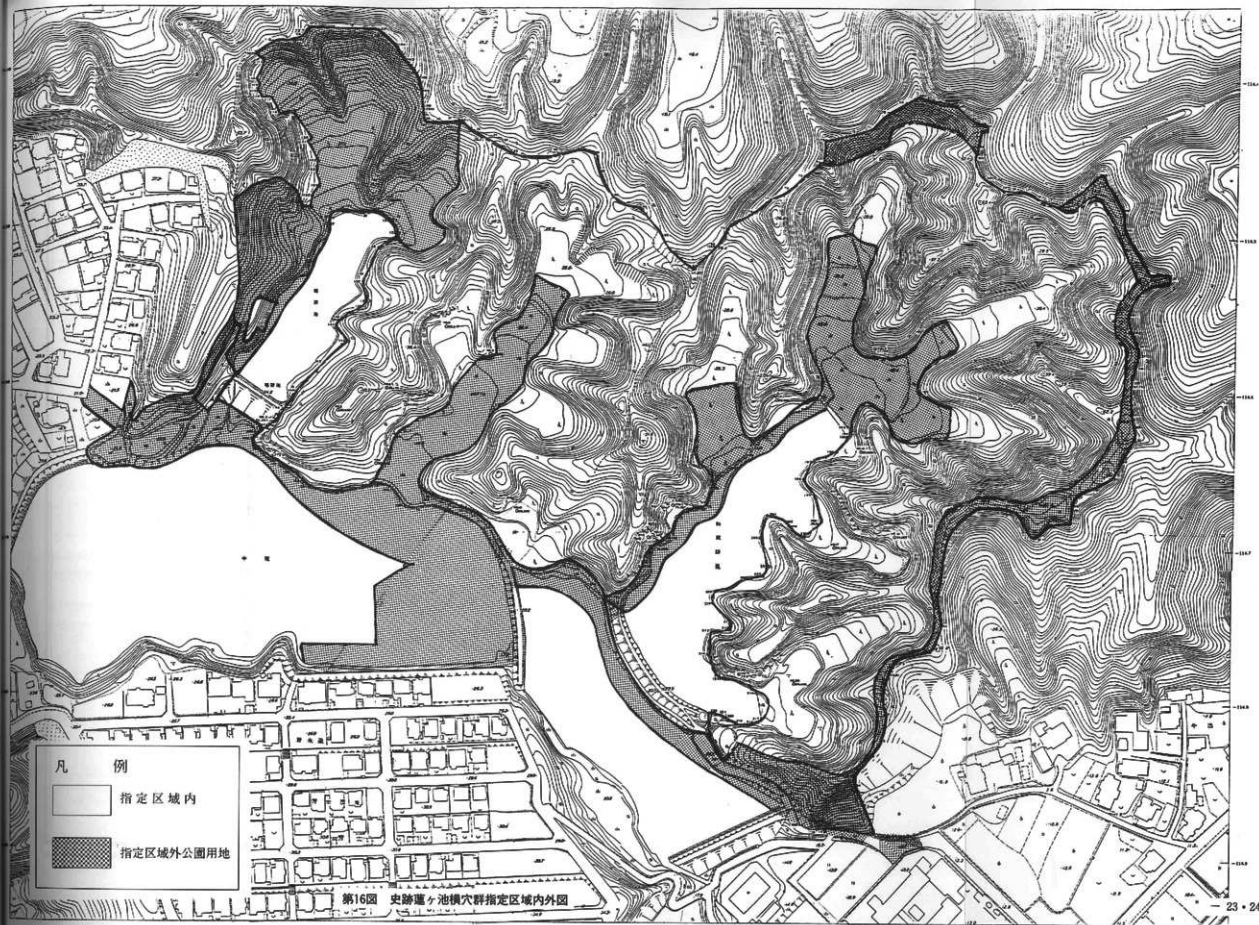
- 1 (1) 名 称 蓋ヶ池横穴群
- (2) 所在地お 別紙(1)（官報告示写）の所在
よび地域 地圃、地城欄に記載のとおり。
- 2 (1) 指定理由 別紙 (2)

(2) 官報告示

昭和46年7月7日付け文部
省告示第777号

ノ二、二二六八番、二二六九番、二二
 七〇番、二二七二番、二二七二番ノ三、
 二二七二番ノ四、二二七二番ノ五、二二
 七三番、二二七九番、二二八〇番、二二
 八一番、二二八二番、二二八三番、二二
 八四番、二二八五番ノ一、二二八五番ノ
 二、二二八六番、二二八七番、二二八九
 番、二二九〇番、二二九一番、二二九二
 番、二二九三番、二二九五番、二二九六
 番、二二九七番、二二九八番ノ一





別紙 (2)

指定理由

/ 基準

特別史跡名勝天然記念物及び史跡名勝天然記念物指定基準 史跡の部第1(古墳)による。

2 説明

日向灘に面した宮崎平野の西辺にある東西ノキロメートル、南北500メートル、比高60メートルほどの丘陵の南半、入りくんだ谷間の斜面に開口している横穴である。現在77基確認されているが未確認のものも予想される。

横穴は、羨道を設けない壘型の平面にはばドーム状を呈する天井をそなえたものと羨道を設け、支室の天井が切妻屋根型になるものに大別できる。

南九州において保存状況の良好な横穴がこのように多数群集したものはほかに例を見ない。

今回指定するのは、横穴の分布する地域を中心とする地域である。

(3) 史跡地の公有化

年度	先行取得		国庫補助事業による一般会計への移管及び買上げ					備考
	買収面積 m ²	事業費	契約年月日 及び取得者	買収面積 m ²	事業費	財源内訳	取得年月日 及び取得者	
46	53,670. ⁹⁶	40,000,000	昭46年10月 4日宮崎市 (土地開発 基金) (相手方) 宮崎県住宅 生活協同組 合連合会					
47	54,042. ⁹⁵	46,175,680	昭47年10月 31日宮崎市 土地開発公 社	42,253. ⁹⁸	31,500,000	国補 15,750,000 県補 5,250,000 市費 10,500,000	移管 宮崎市	・昭和46年土地開発基金に て買収した内 31,500,000円 分を一般会計へ移管
48				35,240. ⁹⁷	30,600,000	国補 24,480,000 県補 2,040,000 市費 4,080,000	昭49年 3月28日 宮崎市	・昭和46年土地開発基金に て買収した内 8,500,000円 分を一般会計へ移管 ・昭和47年先行取得分の内 22,100,000円(金利等含む)円 分を一般会計で買上げ
49	939. ⁹⁹ 6,051. ⁹⁸	1,193,531 12,281,000	昭49年12月 24日宮崎市 土地開発公 社 昭49年12月 25日宮崎市 土地開発公 社	31,157. ⁹⁵	30,761,000	国補 24,480,000 県補 3,060,000 市費 3,221,000	昭49年 10月31日 宮崎市 昭50年 1月31日 宮崎市	・昭和47年先行取得分の内 29,567,000円(金利等含む)円 分と ・昭和49年先行取得分の内 1,194,000円分を一般会計で 買上げ
50				6,051. ⁹⁵	12,281,000	国補 7,657,000 県補 853,000 市費 3,771,000	昭51年 3月11日 宮崎市	・昭和49年先行取得分の内 12,281,000円分を一般会計 で買上げ
計	114,703. ⁹⁷	99,650,211		114,703. ⁹⁷	105,142,000	国補 72,367,000 県補 11,203,000 市費 21,572,000		国庫補助事業費の総計増は 先行取得分の金利増

第1表 史跡地の公有化年次別一覧表

(4) 史跡公園用地の公有化

買収年度	用途等	面積 (m ²)	買収費 (円)	備考
昭和47年度	公園用地 (指定地外)	30,222. ⁹⁵	40,670,620	市単独事業
昭和49年度	公園用地 (指定地外)	790. ⁹⁷	3,239,235	#
昭和59年度	公園用地 (指定地外)	666. ¹¹	2,614,436	#
昭和62年度	資料館建設用地	4,315. ⁹⁷	18,465,759	#
	幹線道路用地	4,297. ⁶¹	15,991,157	道路建設事業
昭和63年度	蓮ヶ池側道用地	220. ⁹⁹	2,424,290	市単独事業
	御舞訪池園路用地	1,228. ⁹⁰	4,915,000	都市計画公園事業
平成元年度	稲荷池西丘陵公園用地	5,108. ⁹³	24,499,000	
平成2年度	稲荷池園路用地	831. ⁹⁸	3,578,000	#
平成3年度	公園用地買収償費		781,000	
	駐車場用地	5,954. ⁶⁹	42,000,000	みやざき歴史文化館建設事業
	計	53,636. ⁹⁰	159,178,497	

※蓮ヶ池史跡公園用地総体買収面積及び買収費

① 114,703.⁹⁷m² + 53,636.⁹⁰m² = 168,339.⁶⁷m²

② 105,142,000円 + 159,178,497円 = 264,320,497円

第2表 史跡公園用地の公有化年次別一覧表

(5) 史跡運ヶ池横穴群の保存管理計画

1) 史跡運ヶ池横穴群整備資料作成

運ヶ池横穴群は、昭和46年7月17日に国の史跡指定を受け、昭和47年度から年次計画により、用地買収に着手した。用地買収後は史跡公園として整備し、保存活用が図られることになっていることから、基本計画として史跡公園構想をたてることが必要とされ、昭和48年度事業として、南九州大学園芸学部造園学科環境計画研究室の角 彬壽先生（現在同学部助教）に「運ヶ池史跡公園構想」を依頼している。以下、基本理念のもとに基本構想図が作成されている。

2-2 基本理念（史跡公園整備の基本的手法）

2-2-1 本市の中核公園のひとつとして位置づけること

本公園予定地は照葉樹林を中心としたみどりと考古学的にも価値の高い横穴古墳群を含め15haの広さを持ち、本市の公園緑地網及び公園への行きやすさからも理解されるように、市民の利用の拠点になり、阿波岐ヶ原、又公園墓地宮崎みたま園から平和台自然公園、大淀川河川敷公園とレクリエーション活動をより充実することが可能となる。

このような立地条件規模から判断すれば、本公園は単なる公園緑地で分類されている普通公園以上のものが理解される。

2-2-2 考古学を野外で実得する場としての性格を持たせること

我国の古代文化の跡は全国各地で発見されつつあり、そのどれをとっても重要なものばかりである。そういった古代文化を象徴する横穴古墳群を現場に立ち、さらに種々な資料等を通して、古代の生活空間を組み立てていくための手がかり；未知ものを自修し、古代への興味と科学的な思考力を養い現代文化の経緯を考えることを可能とするような場として整備する必要があります。

2-2-3 みどりにつまれた公園とすること

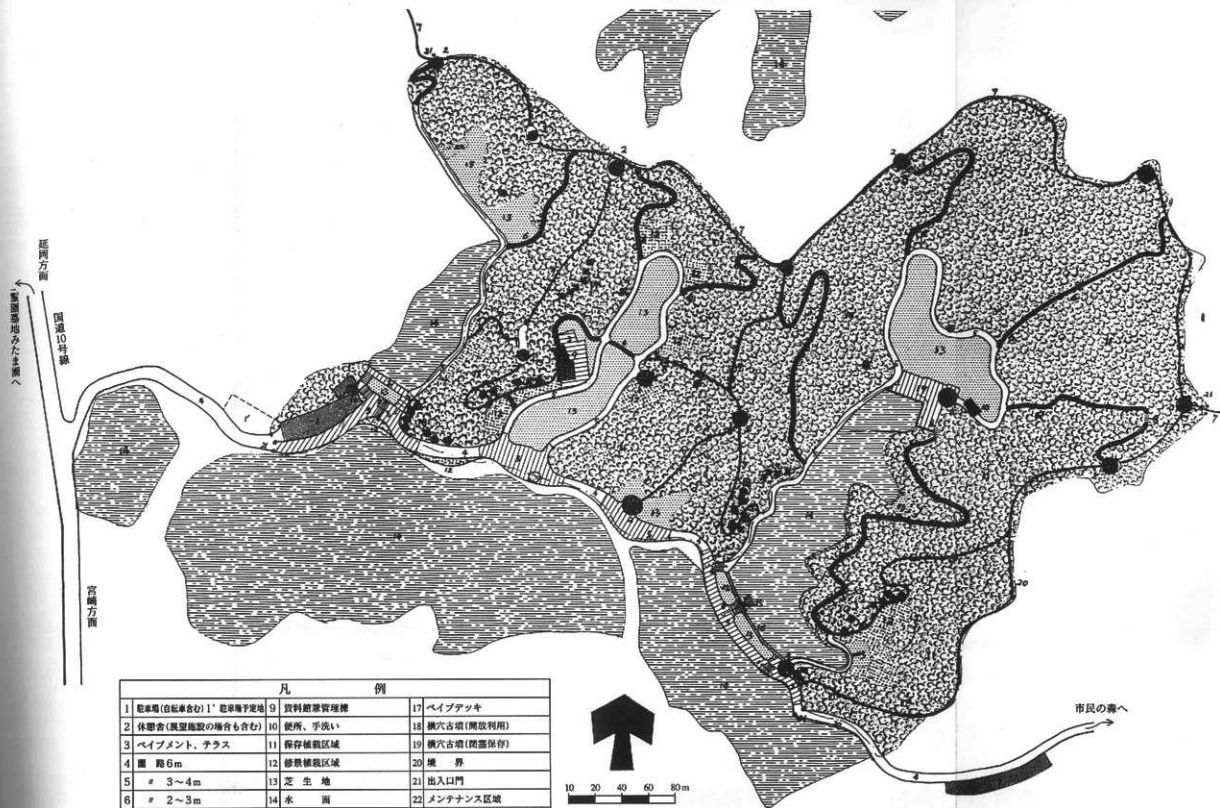
住宅地開発等により減少していくみどりを確保し、市民が都市的生活環境から離れてやすらぎを得る場とする。現存することの豊かなみどりとその生態学的構造をより安定化させることによって、より豊かなみどりが生れ、園内の環境保全効果と市民のみどりに対する深い認識と支持を高めるという大きな効果が重要となる。

2-2-4 文化を育くむ場とすること

本公園は基本的には活動的なレクリエーションに供されるのではなく、むしろ静的な場として取扱う。市民の利用としては休息を主としているが、一方欠乏する文化活動の場を提供し、2-2-2を通して本市の文化を育くむことに主眼をおく。たとえば、本公園の地形は起伏に富み、眺望が開け、散策しながら本市の現在の因習を見渡すことができる。それを通して新しい生活観の創造が生まれるであろう。たとえばみたま園と本公園とを散策した場合、又市民の森と本公園とをサイクリングしたとしたりより明確に理解されるであろう。

忘れてはならないのは、歴史遺産の保護と競合しない利用のされ方であり、そのような場に行きとすることにより、より好ましい環境が生み出されると考えられる。





凡 例		
1 駐車場(自転車含む)1' 駐車場予定地	9 資料館管理棟	17 ベイブテッキ
2 休憩舎(展望施設の場合も含む)	10 便所、手洗い	18 横穴古墳(開放利用)
3 ベイブメント、テラス	11 森すく区域	19 横穴古墳(閉鎖保存)
4 園路6m	12 緑地保護区域	20 境界
5 # 3~4m	13 芝生地	21 出入口門
6 # 2~3m	14 水田	22 メンタナンス区域
7 # 1~2m	15 橋	注 説明、ベンチ、クズ入れ等不記載
8 階段	16 木質デッキ(幅1m)	境界線はゾーンIIの常緑林近く

第17図 史跡蓮ヶ池横穴群史跡公園構想図(角案)

2) 蓮ヶ池横穴群説明板及び分布図板の製作設置



全景



説明板



分布図板

3) 地形図の作成 (1/1,000)

史跡蓮ヶ池横穴群保存環境整備事業を計画し、事業推進を図るためには、先ずもって正確な蓮ヶ池地区の現況平面図が必要になることから、昭和59年に現況平面図作成を行っている。

① 作業概要

作業範囲は蓮ヶ池横穴群の分布する丘陵部を中心に周辺を含めた1.29km²としている。

イ、多角測量 1.9km

方向角、平面直角座標及び標高は既知点を出発点とし、既知点に閉塞することを原則とした。

ロ、基準点測量 (3級) 20点

- 基準点測量の等級は3級とし、網は多角閉合方式としている。
- 観測は光波距離と2級トランシットの組合せにより行っており、永久標識には名称、NO付金属標を使用し、埋標保護のため蓋付のボックスを設置している。
- 埋標 (地下) は、グルーピングされた横穴のグループごとに20ヶ所設置している。

ハ、100分の1地形測量 2,000m²

- 基準点測量で求めた既知点を基準とし、グルーピングされた横穴の前庭部、墓道、狭門部の現況及び構造の主軸方向を実測平板測量を行い、100分の1地形測量図作成とともに1,000分の1航空写真図化による現況平面図にも横穴分布位置をプロットしている。

ニ、1,000分の1航空写真図化 1.29km²

- 現地調査によって、空中写真上で判読不能又は困難な地形、地物及び施設の名称、形状、地名、境界、その他必要な事項を補っている。
- 細部図化は、空中写真、空中三角測量成果及び現地調査の成果を使用している。
- 等高線は、主曲線1.0mで表示し、必要に応じて間曲線0.5mを挿入している。
- 現地補測は、写真暗影部分並びに建物の死角等の図化不能部分等について、平板測量、テープ等により図化された原因の点検、修正補足を行っている。

ホ、原図作成

- 製図は、公共測量図式により墨いれを行い、原図にはポリエステルベース#500を使用している。内部割寸法は60cm×80cmとし、用紙寸法80cm×110cmとしている。

② 成果品

- 基準点測量成果簿
- 多角測量成果簿
- 100分の1地形測量成果、平面図
- 同左第2原図
- 1,000分の1現況平面図
- 同左第2原図





第18回 史跡蓮ヶ池横穴群地形図 (白図)

3. 事業の概要と経費

(1) 蓮ヶ池史跡公園の整備及び歴史資料館建設の位置づけ

蓮ヶ池史跡公園の整備及び歴史資料館の建設は、宮崎市第2次総合計画のもとに市制60周年記念事業として計画決定し施行された。宮崎市第2次総合計画は、昭和60年3月に作成されており、61年から75年までの15か年間で計画期間として、西暦2,000年の21世紀を目指した宮崎市のあり方を計画したものであります。

この総合計画は、4章、4節、4項からなっており、第1章が「心の豊かなまち」第2章が「健康で安心してくらせるまち」第3章が「快適でうるおいのあるまち」第4章が「活力と魅力にみちたまち」となっており、蓮ヶ池史跡公園の整備及び歴史資料館の建設は、第1章、第1節の「豊かな市民文化の創造」の中の「歴史的文化遺産の保全と活用」で現状と課題、基本方針、施策の展開と述べており、この施策の展開の(1)調査研究体制の整備で歴史資料館建設を、(2)文化財の保護と活用で史跡蓮ヶ池横穴群と史跡生目古墳群の史跡公園としての環境整備をうたっている。

(2) 第2次宮崎市総合計画抜粋

第1章 心の豊かなまち

- 第1節 ①豊かな市民文化の創造
- ②スポーツ・レクリエーションの振興
 - ③コミュニティの活性化
 - ④生涯にわたる教育の推進

- 文化環境の醸成
- 市民文化の振興と活動の推進
- 歴史的文化遺産の保全と活用
- 行政の文化化

歴史的文化遺産の保全と活用

現状と課題

わが国の歴史や文化を正しく理解し、将来の日本の文化を展望するうえに欠くことのできない国民的財産である歴史的な文化遺産を後世に伝えることは、現代に生きる我々の共通の責務である。

本市には、埋蔵文化財や史跡、名勝、天然記念物、そして各地に伝わる伝統行事など数多くの文化遺産が受け継がれ、観光宮崎に欠くことのできない貴重な観光資源ともなっており、また、古事記、日本書紀に記される小戸・橋・阿波岐原・権など、その古代日本発祥の神話や伝説に由来する地名は、人々に日本の「ふるさと宮崎」の思いを想起させる。

近年の文化意識の高揚やふるさと志向のなかで、文化財に対する市民の関心や理解は高まってきているものの、その保護意識は必ずしも十分とはいえず、都市化の進展等、さまざまな開発がすすむなかで、貴重な歴史的な文化遺産が失われていく傾向も指摘されている。

このため、このかけがえのない市民共通の財産である文化財の愛護意識を醸成し、ただ保護するだけでなく生きた文化財として、市民生活に密着した現代的な活用を図っていくなど、その保全のための施策が必要となっている。

また、本市における文化財の実態は未だ十分に把握されていない面もあり、その調査・研究体制の整備と保存研究施設の整備が必要である。

基本方針

先人の遺した貴重な歴史的な文化遺産を市民共通の財産として適切に保存し、次代へ継承するとともに、市民の生活に密着した親しまれる存在として、その現代的な活用を図っていく。

施策の展開

歴史的な文化遺産の
保全と活用

- 調査研究体制の整備
- 身近な文化遺産の保存と活用
- 文化財の保護と活用
- 文化財愛護意識の啓蒙

1) 調査研究体制の整備

- ①市内各地に散在する文化財の現状を把握し、文化財保護のための施策を推進するため、計画的な実態調査を行い、その整理に努める。

- ②生活様式の変化や開発の進展に伴い、失われることが懸念される方言、民話、民俗芸能、民具、古い建築様式等の文化遺産の調査を行い記録保存するとともに、その有効な活用を図る。

- ③さまざまな開発に伴う緊急発掘調査や、計画的な発掘調査・分布調査を行い、調査報告書や文化財目録などの学術研究資料を作成し、その有効な活用を図る。

- ④貴重な文化財を系統的に保存・管理し、市民への公開と学習研究資料としての活用を図るため、文化財収蔵展示施設として、蓮ヶ池史跡公園に歴史資料館を建設し、本市文化財研究の拠点としてその保全と活用を図っていく。

2) 身近な文化遺産の保存と活用

郷土の各地に伝わる民話やわらべうた・遊びなど、また、民俗芸能や伝統行事等、まちの歴史や文化を伝える身近な文化遺産をほりおこし、「まちの文化財」として指定を検討するなど、その保存・継承に努めるとともに、地域の各種行事などに活用を図っていく。

3) 文化財の保護と活用

- ①国指定史跡の蓮ヶ池横穴群は、市街地に隣接し、蓮ヶ池をはじめとする5つの池に囲まれる恵まれた自然の中に、数多くの横穴墓を有しており、また、国指定史跡生目古墳群は、市西部生目地区の洪積台地にあり、前方後円墳や円墳など、大小23基の古墳を有し、恵まれた自然の中に壮大な景観を誇っている。

これらの横穴墓や古墳の保存と市民生活に密着した活用を図るため、見学道など、史跡公園としての環境整備を行い、市民の憩いの場、学習の場として提供していく。

- ②国・県・市指定の文化財を適切に保存するとともに、未指定文化財の指定化を促進し、保護対策の強化を図り、生きた文化財として、その現代的な活用の方策を研究する。

4) 文化財愛護意識の啓蒙

- ①文化財に対する理解を深め、愛護意識を啓発し、また郷土愛を育むために、文化財の説明・案内のためのインフォメーションの設置や、文化財パンフレットの充実等を図っていく。

- ②文化財に対する市民の学習意欲を満ち、理解を深めるために、歴史シンポジウムや文化財めぐりを開催し、その愛護意識の高揚を図る。

(総額 2,139,507千円) (単位 千円)

用途	年度別										計
	59年	60年	61年	62年	63年	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	
国庫補助金		2,500	4,000	10,000	15,000	9,137	10,000	12,500	4,700	67,837	
道庁補助金		1,250	1,333	2,840	2,797	3,000	3,000	3,000	1,566	18,786	
市支出金	9,300	10,750	2,667	7,160	12,275	6,236	9,568	3,134	3,134	68,117	
計	9,300	14,500	8,000	20,000	30,072	18,373	20,027	25,068	9,400	154,740	
国庫補助金			5,000	15,000	15,000	15,000	15,000	14,000		64,000	
道庁補助金			23,200	36,700	65,900	71,200	65,200	282,200		282,200	
市支出金			7,800	12,300	21,978	23,800	21,800	87,678		87,678	
計			38,000	64,000	102,878	110,000	101,000	413,878		413,878	
国庫補助金						2,000	5,000			7,000	
道庁補助金						17,200	382,500	541,600		941,300	
市支出金						21,800	125,487	171,437		318,724	
計						39,000	509,987	718,037		1,267,024	
国庫補助金								40,000		40,000	
道庁補助金								13		13	
市支出金								40,013		40,013	
計								150,400		150,400	
国庫補助金		43,800	45,100	61,500						113,740	
道庁補助金		4,940	5,108	74,090				29,602		264,140	
市支出金		48,740	50,208	135,590				29,602		264,140	
計		63,240	58,208	191,590				913,720		2,139,795	
合計	9,300	63,240	58,208	191,590	94,072	160,251	640,014	913,720	9,400	2,139,795	

第4表 史跡壱ヶ池横穴群保存環境整備事業各年度内訳

II. 保存環境整備事業

1. 壱ヶ池横穴群保存環境整備経過

- 昭和44年5月 緊急発掘調査 (宅地造成計画による)
 ~ 6月 (53基中41基を発掘調査)
 調査主体 宮崎県教育委員会
- 昭和46年7月17日 国の史跡指定
 指定地番 大字芳士字岩永2203-3番地外
 指定面積 114,703.17m²
 用地買収 指定地 114,703.17m²
 指定地外 31,679.63m²
- 昭和47年~50年 市制60周年記念事業として、壱ヶ池史跡公園建設を計画決定
- 昭和59年4月 基本構想策定
 昭和59年7月 基本設計策定
 昭和61年2月 横穴保存工事のための発掘調査及び一部の見学道建設に着手
 ~ 3月 (文化庁補助事業導入)
 昭和61年11月 幹線道路1年次建設工事
 ~ 62年3月
- 昭和62年1月 12号横穴保存工事着手
 昭和62年2月6日 宮崎広域都市計画公園変更決定
 一壱ヶ池史跡公園一 (宮崎県告示186号)
 壱ヶ池史跡公園実施設計 (都市計画公園課発注)
 広場工事着手 (建設省補助事業導入開始)
- 昭和63年12月 宮崎市歴史資料館 (仮称) 建設懇話会設置
 平成元年6月 建設懇話会の提言受理
 平成元年11月 (仮称) みやざき歴史文化館基本構想策定
 平成2年3月 自治省まちづくり特別対策事業採択
 基本設計、実施設計策定 (建築、展示)
 (仮称) みやざき歴史文化館建築工事着手
- 平成2年6月 体験学習施設工事
 平成2年12月 ~ 3年3月 (庭の移築、鍛冶屋の新築、鍛冶炉の移設)
 平成3年6月 (仮称) みやざき歴史文化館建築、設備工事竣工
 平成3年10月 シンボルマーク募集、決定
 平成4年3月 みやざき歴史文化館展示工事竣工
 壱ヶ池史跡公園完成

平成4年7月
平成4年7月24日
平成4年7月25日

(財)宮崎文化振興協会へ管理運営委託
遅ヶ池史跡公園及びみやざき歴史文化館開園.会館式
一般公開

2. 保存環境整備事業計画

(1) 史跡遅ヶ池横穴群保存環境整備等推進委員会の設置

史跡遅ヶ池横穴群の保存と環境整備にあたり、その総合的な協議検討機関とともに、学識経験者並びに専門家の指導助言と意見聴取をするために、史跡遅ヶ池横穴群環境整備等推進委員会を設置している。なお、この組織は、委員会、幹事会、プロジェクトチーム、学識経験者、専門家から構成されている。

史跡遅ヶ池横穴群環境整備事業等推進委員会設置要綱

(設置)

第1条 史跡遅ヶ池横穴群の保存と環境整備にあつて、その総合的な協議検討機関として史跡遅ヶ池横穴群環境整備事業等推進委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会の所掌事務は、次のとおりとする。

- ① 史跡遅ヶ池横穴群環境整備事業の進行管理及び総合調整に関すること。
- ② 広域歴史博物館建設の進行管理及び総合調整に関すること。
- ③ その他事業推進に必要と認められる事項に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、別表1に掲げる職にある者をもつて組織する。

(委員長等)

第4条 委員会に委員長、副委員長を置く。

2. 委員長は、教育委員会の事務を担当する助役の職にある者をもつて充てる。
3. 委員長に事故あるときは、副委員長がその職務を代理する。

(委員会会議)

第5条 委員会の会議は、必要に応じて委員長が招集し、委員長が議長となる。

2. 委員長は、必要があると認めるときは、構成員以外の者を委員会会議に出席させることができる。
3. 委員長は、委員会会議を開催したときはその結果を市長に報告するものとする。

(幹事会)

第6条 委員会に委員会の事務を補助させるため、幹事会を置く。

2. 幹事会は、別表2に掲げるものをもつて組織する。

3. 幹事会に幹事長を置く。

4. 幹事長は、教育委員会社会教育課長の職にある者をもつて充てる。

5. 幹事会の会議は、必要に応じて幹事長が招集する。

6. 幹事長は、幹事会で審議した事項を速やかに委員会会議に報告しなければならない。

(プロジェクトチームの設置)

第7条 委員会及び幹事会で指示された事項について、その調査・立案等、専門的な事務を遂行するため、プロジェクトチームを置く。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、教育委員会社会教育課において行う。

(その他)

第9条 この要項に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

1. この要綱は、昭和60年11月1日から施行する。

2. 史跡遅ヶ池横穴群史跡公園推進委員会設置要綱（昭和58年12月1日何定）、史跡遅ヶ池横穴群保存環境整備計画委員会規約（昭和59年4月10日何定）は廃止する。

別表1

委員長	松浦助役(昭和60年7月~昭和63年3月)
	四方助役(昭和63年4月~平成2年12月)
	坂井助役(平成2年12月~)
副委員長	坂本助役
	教育長
委員	総務部長
"	企画調整部長
"	農政部長
"	観光商工部長
"	建設部長
"	都市整備部長
"	教育局長

別表2

幹事長	教育委員会	社会教育課長 昭和61年度まで
		文化振興課長 昭和62年度から
幹事	総務部	総務課長
"	企画調整部	企画課長
"	農政部	耕地課長
"	観光商工部	観光課長
"	建設部	土木課長
"	"	道路維持課長
"	"	住宅建設課長
"	都市整備部長	都市計画公園課長

◆整備指導専門員

田中 球	奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター長	現 文化庁文化財監査官
安原 啓示	奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター研究指導部保存工学研究室 室長	現 文化庁文化財保護部記念物課主任文化財調査官
田中 智雄	奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター研究指導部保存工学研究室 室長	現 文化庁文化財保護部記念物課主任文化財調査官
澤田 正昭	奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター研究指導部保存工学研究室 室長	
肥塚 隆保	奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター研究指導部保存工学研究室 文部技官	現 奈良国立文化財研究所飛鳥跡原発掘調査部主任研究官
角 彬壽	南九州大学芸術学部造園学科環境計画研究室助教授	

◆プロジェクトチーム

文化振興課 (2名)	企画課 (1名)
耕地課 (1名)	観光課 (1名)
土木課 (1名)	住宅建築課 (1名)
都市計画公園課 (1名)	

(2) 基本構想

1. 計画の目的とその意義

基本構想の目的とするところは、史跡蓮ヶ池横穴群の保存と環境整備を行うための企画、計画を位置づけ、計画目標、主要条件を明かにして構想を示し、施設内容等の基本的方向を定め、その概要を示し、もって総合的な判断に資することにある。

次いで、本計画の意義については、端的に云えば史跡蓮ヶ池横穴群、つまり、文化財の適切な保存を計りながら、しかも市民のための憩いの場、市域の中での緑の拠点として環境整備しようとするところにある。

即ち、従来は相反するものとして考えられがちであった保存と開発を今回は上手に整合させようとするところに、本計画の大きな意義がある。

2. 基本的な考え方

蓮ヶ池横穴群は、宮崎平野北部に位置し、西から東の方向に延びた舌状丘陵の斜面に営まれており、丘陵には照葉樹を中心に灌木、ササヤブが繁茂し、この中には4つの溜池が立地している。

都市における緑、ならびに景観の面からも重要な資源となっている。この計画対象区域の整備に当たっての基本的な考え方を次に示す。

- 1) 横穴が丘陵の斜面を利用したものであり、視覚的な立体感が出しにくいので、自然林の扱い方に特に注意を払うこと。
- 2) 横穴の保存処理と史跡環境整備を両立させること。
自然地形、植生、水系を大切に扱うこと。
- 3) 考古学を野外で学習、古代生活を体験できる場とすること。したがって、主なデザイン素材としても、古代をイメージする、石、木、土などを用いること。
- 4) 緑と水につつまれた静かな史跡公園とすること。
- 5) 文化を育む一つの拠点として育成すること。
- 6) 全市規模で上手に機能配分された、本市の中核公園の一つとして位置付けること。

3. 基本構想案の作成

ここでは、宮崎市教育委員会による「史跡蓮ヶ池横穴群整備資料」、角彬壽先生による「史跡蓮ヶ池横穴群の保存活用のための敷地計画的技法の開発」ならびに今回の検討及び基本的な考え方を基に、今後のしほり込みのために必要と思われる種々な案が作成され、その中から

多少の変動はあるにしても、基本的には大きくこれだけあればと思われるもの、3案+1案が示された。

基本的には、資料館の位置をどこにもつてくるか、駐車場をどうするか、区域内外の使われ方の問題、さらに水面を多少埋め立てて、土地を確保するかどうかで各案の相違が出ているが、横穴群の保存のために、丘陵部における使われ方は各案とも変わらない。

横穴群の保存整備計画

横穴群の保存ならびに整備が今回の計画の主軸である。しかしながら、発掘調査自体これから本格的にという段階であり、とくに墓道の調査も今後の課題である。

しかも、文化財の保存という専門的な調査ならびに技術を要する事柄であるので、ここでは具体的に詳細にわたる整備計画については、まだ云々できないので、開発に際して横穴墓の維持、復旧に関する留意点について現時点で考えられる事柄を以下に列挙する。

1. 横穴のある所で圍路をつけて、人々が近づけるようにする。これは、墓の整備のための工事用仮設道路を整備後の圍路及び管理用道路としても利用可能とするためである。
2. 横穴の上にある樹木は伐開して、穴がよく見えるようにするとともに、穴がくずれのを防ぐこと、又この時、樹木の根などによる横穴への水の浸透を防ぐよう考慮する必要がある。
3. 横穴の前面に関しては、まだ現在、墓道の発掘調査が行われていないのではありませんが、これは言えないが、見学路等をつける場合は、この墓道の利用を考え、墓道を破壊しないよう注意することが大切である。
4. 横穴の見せ方に関しては、入口部に柵などをして中を見せないようにするよりは、積極的にのぞけたり、場合によっては中にも入れるように考えた。
5. 横穴が数基かたまってある所に関しては、全体的に樹木を伐開して、一度に数多くの横穴が見えるようにし、古代の様相に近づけ、その中から2-3ヶ所について穴の中まで見せるように考える。
6. 開口保存するもの、閉塞保存するもの、特殊保存するものなど最終的な決定を待たねばならないが、横穴の前まで管理車道が地形的に取りつかない場合、(例えば、一穴のみ丘陵上部に独立してある場合など)などは、無理をしてつける必要はないと思われる。又、ものによっては閉塞保存してしまうものよい。
7. 横穴の維持については、特に排水に注意する必要がある。まずまちがいなくあったであろうと思われる墓道の排水溝の利用等を考える。この場合、巾員等が現在に対応しない場合は、現代の利用目的にかなった形で整備する。
8. 入口部の維持(薬剤の注入等)と復元による安全性の確保には最大限留意すること。
9. 全体的なイメージは明るいものとしたい。
10. いずれにしても、実施段階では横穴の調査が先行するので、それに見合った見学路等の巾員、勾配などの当りが重要となろう。

施設計画

記号	施設名	現 換	施 設 の 内 容	指定・非指定 区域の種別
L	資 料 館	資料館 2,000㎡ 廊下 1,300㎡	本公園の中心的機能を有する建物で、屋内で古代を学べる、目的にかなった全体的な環境を有す。	非指定区域
A	祭 しの 広 場	芝生広場 1,800㎡	資料館の隣接であると同時に、横穴群の見える中心の広場で、人々の集まりの多い広場。	#
B	古 代 積 物 の 園	2,200㎡	古代積物といわれるものを家畜前に設置した古代動物学習の広場。	#
C	水 宴 の 広 場	芝生広場 2,000㎡	緑豊かな水景をしながら遠くせる芝生広場などのある水辺の芝生広場。	#
D	古 代 木 の 広 場	林間広場 10,000㎡	計画地内の樹林帯を活用した水辺広場である、園内唯一の活樹広場。	#
E	庭 園 の 広 場	林間芝生広場 2,000㎡	地と自然に合わせた静かな広場で、周辺に設置された石の上などで古代を体験する広場。	#
F	めい 恵 の 丘	200㎡	資料館前の広場、池などが風景できる丘上広場で、人々の心を和らかしてくれる広場。	指定区域
K	見 晴 ら し 台	2,000㎡	見晴らし点とするもので、各種施設もより遠く日向側を望むことができる見晴らし広場。	#
P	入 出 口	ゲート2ヶ所	本公園への主線となる出入口で、石段などより北側公園におきわしい門を設置する。	非指定区域
G	遊 入 路	巾員5m 延長300m	国道等からの遊入路で、アスファルト舗装等で整備する。	#
H	見 学 路	巾員3m 延長1,400m 巾員2m 延長2,200m	横穴群及び各広場を結ぶ小径で、一部管理車道ともなる。砂利敷舗装、石敷、丸石敷等。	指定区域 非指定区域
I	緑 の 回 廊	巾員2m 延長1,450m	長閑な環境を醸成することにより、園内を結ぶ遊歩道の小径。見晴らし台とも結んでいる。	指定区域
J	水 辺 の 回 廊	巾員5m 延長600m	2ヶ所の出入口を結ぶ緑豊かな回廊で、各種設備への主線ともなるもの。	非指定区域
O	古 代 の 森		樹木を保存する緑地	指定区域
M	管 理 事 務 所	100㎡ 1ヶ所	保管所、事務所、管理道具入れなどの機能を有した小建物。	非指定区域
N	駐 車 場	3,000㎡	砂利敷舗装の駐車のための広場。	#
Q	横 穴 群	約4ヶ所	横穴群：廻りの樹林の伐開及び入口部の整備、墓道の復旧等。	指定区域

PLAN-1



凡例

記号	名称
A	祭しの広場
B	古代植物の園
C	水渠の広場
D	古代木の広場
E	回想の広場
F	めい想の丘
G	進入路
H	見学路
I	緑の回廊
J	水辺の道
K	見晴らし台
L	資料館
M	管理事務所
N	柱車庫
O	古代の森
P	出入口
Q	横穴墓

第19図 史跡堀ヶ池横穴群保存環境整備基本構想図



(3) 基本設計

I 計画の前提

この項では、基本設計の作業の前提として、まず、計画地の自然条件、社会条件、及び、法規制等の与条件の確認を行なうものである。

I-1 立地条件

a) 自然条件

計画地は、標高高低差約53mの比較的急峻な丘陵の南面一帯に当り、シルト土壌により形成されている。

現況植生は、照葉樹林で、シイノキ、シラカシ、ヤマモモ等が覆い繁り、谷間は後に植樹された杉木立となっている。又、谷間が開けた所がため池となっているのが本公園の特色であり、特に稲荷池と御諏訪池は、周辺の緑と調和して、静かな水面をたたえ、景観構成上貴重な存在となっている。

気象条件は、年平均気温約17℃と温暖であり、降雪は2日程度である。降雨量は年間約2200~2300mmで、風向は夏季が南東の風、その他のシーズンはほぼ西風である。

b) 社会条件

計画地の西側には国道10号線が、東側には市立住吉南小学校を挟んで、県道北部下山線が南北に走っている。特に国道10号線は交通量がはげしい上に、道路沿いは宅地化が進行して本公園の西側アプローチ口には入口付近まで蓮ヶ池団地がせまってきたり。

計画地への到達手段としては路線バス及び、乗用車、自転車、徒歩が考えられるが、計画地は、市街地より約6kmの所に位置するため、特に乗用車による到達手段が最も多くなると考えられる。

I-2 計画地条件

ここでは権利制限等について述べる。

本公園の計画地においては次の2つの法規制がある。

1. 風致地区指定 (昭和45年6月22日)

1. 国の史跡指定 (昭和46年7月17日)

このため、むやみに開発は行えず、公園を計画するに当たっても、この法規制に基づき計画を推進してゆくものとする。

さらに、公園区域内においては、全域が国の史跡指定地ということではなく、

1. 国庫補助により買上げた部分を「指定区域内」

1. 宮崎市単独で買上げた部分を「指定区域外」

として区分されており、(図1-2参照)「指定区域外」においては、用地の効率的な利用を図ることができ、指定区域内と相まった活用ができる。「指定区域内」においては、横穴の保存と、それらをとりまく修景工事、及び、見学道設置を基本とし、保存と学習の場を計画することとなる。

計画区域面積

指定区域内面積 ≒ 11.4 ha

指定区域外面積 ≒ 3.3 ha

合 計 ≒ 14.7 ha

II 基本方針

II-1 基本方針

歴史公園は、現在開発の波によって失われつつある歴史上の遺跡、風土などの保存を図りつつ、またこれらがレクリエーション資源として価値の高いものであることから、レクリエーション利用にも供することができるよう計画されるものである。又、遺跡周辺部はこの遺跡の持つ歴史的な香りを盛り立てるように修景され利用者の参観の便をも考慮したものとすべきである。

本公園は、都市公園として整備を行なうものであるが以下の方針を基本として、整備を進めるものとする。

- 本公園は、歴史公園(都市公園)として整備するものとし、文化財の保存と活用、市民の憩いの場を兼ねた公園として、貴重な横穴群の保存とレクリエーション空間としての環境整備を両立させた計画を行う。
- 本公園には単に静的な“見て学ぶ”と言う施設整備だけでなく、古代とその生活を身近なものとして感じることができるよう“見る”“触れる”“動かす”等の体験学習ができる場としての整備を行う。
- 計画区域内は風致地区であり、既存林の保護を念頭においた計画とするとともに古代を実態化すべく、森林部は長い時間を掛けて極相林(遷在植生)として育生する。
- 計画地内の整備においては、“現代”を感じさせる施設整備は極力避け、小構造物、各種点景施設に至るまで、“太古”をテーマとしたデザインを行う。

II-2 計画施設

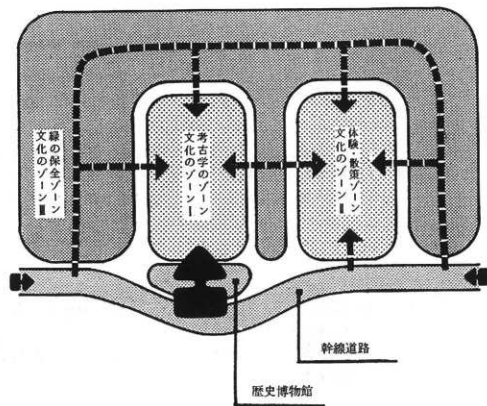
本公園への導入施設は、基本方針をもとに、敷地条件、法規制を踏まえ、以下の施設とする。

分類	基本方針・施設イメージ	設置施設	設置理由
考古学・見学施設	<ul style="list-style-type: none"> 考古学をやさしく見て学ぶことのできる施設 	<ul style="list-style-type: none"> 歴史博物館 古代住居や遺品の展示ひろば 	<ul style="list-style-type: none"> 本公園の中心的施設となる。 歴史博物館の中で学んだ事をより身近に見たり触れたりできるようにオープンな形の屋外展示とする。
体験・遊戯施設	<ul style="list-style-type: none"> ひろばの中に入ると太古の境地に入ったような錯覚を起こせるデザインとする。 多人数の参加に対応できる広い空間に計画する。 	<ul style="list-style-type: none"> 体験ひろば 屋外催場 遊戯ひろば 	<ul style="list-style-type: none"> イベントのできる広場（特徴的施設を持つひろば）を設け、公園利用の多様化を図る。 幼児、児童を対象としたひろばで、公園の多年齢層利用を促進する。
休養修景施設	<ul style="list-style-type: none"> 法規制上、限られた空間しか広場として利用できないため、その空間及びポイントを最大限、活用、利用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 構造物のない静的な空間 小構造物 	<ul style="list-style-type: none"> 休養、少人数でピクニック等の目的での来園者に対応できる広場を設ける。 公園全体を太古のイメージとするために、小構造物に至るまで、太古をテーマとしてデザインしたものを設置する。
便益施設	<ul style="list-style-type: none"> 敷地の制約上、必要最小限のものとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 駐車場 案内板 便所 	<ul style="list-style-type: none"> 来園者へのサービスと、公園管理に供する。

II-3 ゾーニング

計画施設の内容及び、敷地条件から本公園の基本的なゾーニングを行う。

ゾーン区分	趣 旨
文化のゾーンⅠ 考古学のゾーン	<p>本公園の中心となるゾーンであり、蓮ヶ池横穴群を中心とした“考古学”を学ぶ事を目的とした施設整備を行う。</p> <p>また、このゾーンでは、“考古学”を難しい学問としてではなく、身近な知識としてレクリエーション活動の中から自然に受け入れられるような施設づくりを行うものとする。</p>
文化のゾーンⅡ 体験散策ゾーン	<p>このゾーンでは、〈考古学のゾーン〉で知覚として学んだことを実際の体験化するための施設整備を行うこととし、静かな環境の中で、ふと古代に踏み入ったような錯覚をさせるような空間づくりを行う。</p>
文化のゾーンⅢ 緑の保全ゾーン	<p>このゾーンは、本公園施設をとりまく三方の尾根で構成される森林であり、本公園の神秘性を生み出す上で大きな要素となる。従ってこのゾーンでは、今後、長い時間をかけて樹種交換を行い、極相の森を形成してゆくものとする。</p>



第20図 史跡蓮ヶ池横穴群保存環境整備ゾーニング図

施設基本設計

基本方針、計画施設、ゾーニング等に基づき、本項において具体的な施設計画を行う。

1) 文化のゾーンⅠ（考古学のゾーン）

a) 横穴墓

横穴墓は全園的に分散しているが、このうち開口保存が望ましいものと閉塞保存が望ましいものに大別される。本ゾーン内の横穴墓で特に開口保存が望まれるものについては、積極的な展示を行うものとし、実際の横穴墓がどのようなになっているのかを知ることができるよう、レプリカ等を利用して復元展示を行うものとする。

b) 歴史博物館

歴史博物館の機能としては、“展示（学習）”“保存”“研究”の大きく3つの機能がある。本館はこのうち“展示（学習）”に重点をおいたものとするが、単なる展示中心ということではなく、市民が考古学を通じて生涯教育ができる場となるよう、自発的な参加、活用のできる学習コミュニティーの場を持った歴史博物館として整備する。

c) むかしひろば

古代人の生活様式がわかるような展示広場とし、古代住居、土器等の復元展示を行う。具体的には、高床式倉庫、竪穴式住居を半割の形で復元し、中での生活様式等が外から見てわかるよう展示する。さらに園路沿には、生活器具コーナー、土器のコーナー、ハニワのコーナー、石器のコーナー等を巡回して見学できるよう計画する。

d) アプローチ広場（歴史博物館前庭）

アプローチ広場は、歴史博物館の前に位置し、石・水・木材等の素朴な材料により落ち着いたデザインとする。

e) 太古へのいざない園（ハニワの門）

本公園の玄関口としての特徴を持たせるとともに、公園そのものの存在をアピールするために、巨大ハニワを配置し、太古への想をいざなう起点となるよう計画する。

2) 文化のゾーンⅡ（体験・散策ゾーン）

a) 古代人の里

本広場は、このゾーンの中心となるもので、“古代の体験”をテーマとする。この広場には、竪穴式住居を配置し、土器、石器、木器等の生活用具を使ったり、火の起こし方、縄文式土器、弥生式土器等の作り方を学び、また、実際に土器等の製作を行うことのできる施設等を設ける。

又、太古の衣服等の貸出等を行い来園の思い出が残る施設として供与する。

b) 祭しのひろば

「祭り」とは、宗教的な儀式を言うが、本広場においては、当公園で各種イベントを行う場合の中心施設として位置づける。

また、高床倉庫風の舞台を設け、舞台等としての利用も計画する。

c) 原始のはらっぱ

本広場は、祭しの広場と一体的な利用がなされる芝生の広場とし、利用者の休養の場として整備する。特に本広場には、子供達のための遊具施設を配置し、“はにわ遊具”により、これまでにないユニークな遊びの空間を造り出す。

d) 埋立による園路整備

No.24-39号御涙訪池西岸横穴前の園路計画は、横穴の発掘調査、保存の為また、管理道として利用される為に車輛の通れる幅員を要する。そこで水面が横穴に迫っていることや、対岸からの景観、周辺の景観との調和を考え合わせ、現地形がそのまま出した形で埋め立てる。護岸は景観と調ひ様、野面石積みとする。

3) 文化ゾーンⅢ (緑の保全ゾーン)

a) 歴史植物園 (系統進化園)

系統進化園とは、被子植物 (花をつける植物) を下等なものから高等なものへと系統的に植栽し、目で見える植物進化の図鑑とも言える施設で、“緑の歴史”を本施設で演出する。

b) 太古の樹木広場

緑の保存ゾーンが、これから檜相林へと移行する様を見本園的に示す広場とし、歴史植物園とともに“緑の歴史”を学ぶ場とする。

c) 天回の道 (見学道)、見晴台

天回の道は、本公園をとりまく丘陵の尾根を結ぶ散策路であり、展望の開ける地点には高床式の見晴台を配置して、太古に思いをはせることのできるような配慮を行う。

見学道は幅員を1.5mとし舗装材は使用せず、伐採、伐根の後後面整形のみとする。ただしルート決定時には残すべき樹木を外し、緑の保全を図るものとする。

4) その他

a) 駐車場

市道蓮ヶ池史路線の新設に伴い、中池一部埋立によってできるオープンスペース内をメインの駐車場として整備する。その他、稲荷池堤下、蓮ヶ池団地側入口附近オープンスペース等、指定区域外の平坦地を駐車場として整備する。

b) 古城の項

山城の遺構を生かし、太古から現代に至るまでのこの地の歴史を偲ばせる施設として、

符来整備する。

配置動線計画

本公園における施設配置と、利用者の動線についての計画を行う。

1) 施設配置

本公園計画区域は、3つの尾根とそれに挟まれた谷間及び池により構成されている。

指定区域内 (I-2参照) は、大きな造成を伴うような施設の配置が規制されていることから、主要施設は、指定区域外の谷間の空間へ配置するという事となる。又、周囲の山々はほとんどの区域が指定区域内となっており、環境、景観保全としての利用が第一で、その保護が必要とされるが、施設としては、それぞれの尾根上に見学道を通し、又、眺望のよい所には見晴台を設け、これらを結ぶ見学道が利用者の動線として計画される。

2) 動線計画

本公園内においては、主動線として、3つのルートを設定する。

a) 考古学のルート

本公園の中心的施設としての歴史博物館を中心としたルートで、歴史博物館、むかしひろば、歴史植物園のコースをたどる見て学ぶためのルートである。

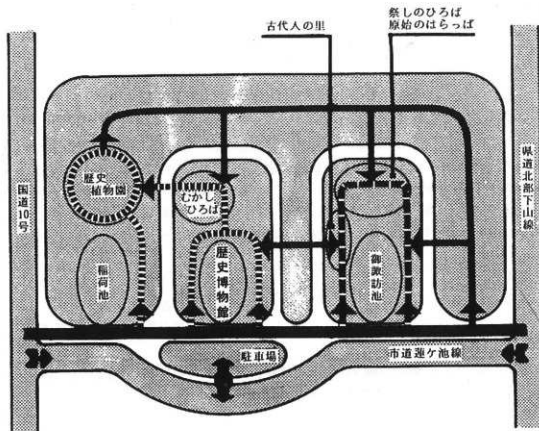
b) 体験のルート

体験、散策ゾーンを周遊するルートで、その場で一定の時間とどまってる利用となる。したがってここでは各ひろばへの導入のための動線として位置付ける。

c) 散策のルート

本ルートは見学道の散策及び横穴の見学をかねた公園全域にわたる動線ということになる。

このルートは、計画地内の各尾根上を通る見学道を主軸とし、そこから各施設を結ぶ支線見学道によりなっている。



.....	考古学のルート
- - - - -	体験ルート
—————	散策ルート
—————	歩行者メインアプローチ
➡	車の進入路

第21図 史跡瀧ヶ池横穴群保存環境整備施設配置、動線計画図

IV 横穴調査・保存設計

IV-1 基本方針

文化財保護は自然緑地保護と同様にクローズアップされている問題である。

遺跡（古墳）などは都市の拡大、特にスプロール現象の中で、その処置を怠らなければ、たとえ残されても学術的に好ましくない状態になる可能性が高い。

これらの重要性は考古学者を除いて、一般的には知られていない場合が多く、存在価値は無視されがらである。しかも、自然破壊と同様に一度破壊されると復元しがたいことは忘れてはならない。

本公園計画において、横穴群一部を一般に公開する事を前提としているため、その保存、公開方法には十分に注意しなければならない。

従って、本横穴群の保存に関する基本的な方法は以下のとおりである。

1. 閉塞保存（中を埋戻し、一般には公開しない。）
2. 開口保存（入口、内部を補強し、積極的に公開する。）
3. 復元的補強保存（内部を復元する事により補強を行い、同様積極的に公開してゆく。）

IV-2 調査・保存・公開方法

a) 調査

調査は文化庁の指導を受け、未調査のものに関し、ゾーンⅠ（歴史博物館及び稲荷池周辺）周辺にある横穴から調査を始め、ゾーンⅡ（御諏訪池周辺）の横穴については、ゾーンⅠ周辺調査終了後に開始するものとする。

b) 保存方法の種類

1) 保存方法

保存方法には閉塞保存、開口保存、復元的補強保存とがある。

1-1 閉塞保存

- ・全て埋めて後に必要な時に掘り出す。
- ・入口を何らかの方法（芝・石・樹脂等）で保護し、中を埋める方法

1-2 開口保存

- ・米園者に見えるようにするには、周囲を切り開かなければならない。この際、周囲

の植栽が変化すると水利が変化するため、横穴の崩壊が早まる事が考えられるため、その対策を講じなければならない。

1-3 復元的補強保存

開口部等に本来の閉塞方法の型を復元する。これは開口部の崩壊を防ぐためのささえをするだけでなく、復元する事により、考古学的な価値を上げると同時に見学者に本来の姿に近いものを見せる事ができる。

2) 具体的保存工法

具体的な保存工法については次に示す通りである。

- 表面が崩壊しないように固める。
- 樹脂を注入（点滴工法）し、浸み込むだけ浸み込ませる。
具体的には、壁面に沿った型のタンクを作り、減圧して浸透させる。
- 構造の崩れそうなものを補強する。（復元）
- 樹脂モルタル（凝岩で復元的に固める）（コンクリートの5倍の強度）
- 水で崩壊している場合は水を切る。（この場合、別の崩壊で起る事も考えられる。）
乾いた部分を樹脂で固める。
- はっ水材による表面コートは地中からの水圧により、崩壊を招くことがある。
- どの横穴をどの工法で行うかは、一基づつ現場で確認しなければならない。

c) 公開方法

横穴の公開については、基本方針（II-1-a）で述べたように保存と公開の相反するものの両立を図った公園であると言う事を前提に公開されるものであり、その方法は十分な検討が要求される。

1) 公開に係わる注意検討事項

- 公開する横穴の選定は十分な検討を行う。

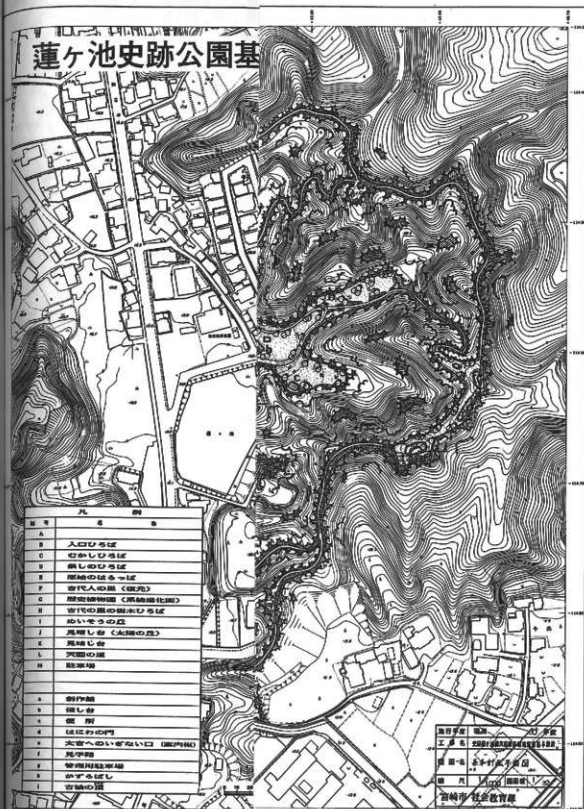
公開した場合にはある程度の崩壊等の犠牲は覚悟しなければならず、これに対処するためには保存、保護の方法の十分な検討を行わなければならない。

- 完全解放する場合は、崩れかかった横穴を1-2基は解放してもよい。

ただしこの場合は、落盤などの事故に十分注意しなければならない。

- 来園者を横穴内に入れ肌で太古を感じ取ってもらうためには、柵等を設ける又は、縄をかけるなどして希望者のみ公開する。管理者の目の届く所を公開するなどの対策が必要である。

- 12号、53号等の横穴については、本格的復元保存して行く。穴内には入ることはできないが、特徴的閉塞方法（板閉塞、石閉塞）であるためサンプル的に復元する。又、これらは照明灯や、レプリカ等の利用により、見せる横穴として整備してゆく。



蓮ヶ池史跡公園基本設計平面図



記号	名称
A	入口の巻道
B	むかしむかし巻道
C	むかしむかし巻道
D	むかしむかし巻道
E	むかしむかし巻道
F	むかしむかし巻道
G	むかしむかし巻道
H	むかしむかし巻道
I	むかしむかし巻道
J	むかしむかし巻道
K	むかしむかし巻道
L	むかしむかし巻道
M	むかしむかし巻道
N	むかしむかし巻道
O	むかしむかし巻道
P	むかしむかし巻道
Q	むかしむかし巻道
R	むかしむかし巻道
S	むかしむかし巻道
T	むかしむかし巻道
U	むかしむかし巻道
V	むかしむかし巻道
W	むかしむかし巻道
X	むかしむかし巻道
Y	むかしむかし巻道
Z	むかしむかし巻道

発行所	編集	発行
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1	国土院	1987年10月
編集者	発行所	発行部
国土院	国土院	国土院
印刷	印刷所	印刷部
国土院	国土院	国土院
発行部	発行部	発行部
国土院	国土院	国土院

第22図 蓮ヶ池群史跡公園基本設計平面図

1:1,000

蓮ヶ池史跡公園實施設計平面図



●	●	●	●	●
A	●	●	●	●
B	●	●	●	●
C	●	●	●	●
D	●	●	●	●
E	●	●	●	●
F	●	●	●	●
G	●	●	●	●
H	●	●	●	●
I	●	●	●	●

施工管理	監理	専任
工事名		
公園名		
工事場所		
調査年次		
調査月		
調査日		
調査者		

第236図 蓮ヶ池横穴群史跡公園實施設計平面図

3. 横穴群発掘調査（計測調査）とその概要

蓮ヶ池横穴群については、昭和44年にそれまで確認されていた53基の横穴のうち41基を緊急発掘調査を行っており、その結果については、昭和46年に宮崎県教育委員会によって報告されているところである。

宮崎市は、昭和59年、史跡蓮ヶ池横穴群保存環境整備事業を市制60周年記念事業として計画決定し、横穴の保存修理とその環境整備、また、史跡公園としての活用を図ることを目的とした整備事業に着手することとなった。

そこでかかる事業に伴う横穴の保存方法の策定、工事設計を行う上から詳細な横穴の発掘、計測が必要とされ、昭和60年から平成元年までに年次的な発掘（計測）調査を実施してきた。

1) 昭和60年の計測調査

稲荷池東側丘陵に分布する第1集団Aグループ（2, 3, 4号）、同Bグループ（6, 7, 8号）それに同Cグループ（9, 10, 11号）とCグループの中でもやや単独で離れた12号、52号横穴の11基を調査している。いずれの横穴も昭和44年に発掘調査が行われており、精査と実測図作成を行った。

2) 昭和62年の計測調査

第1集団Dグループ（13, 14, 15号）同Eグループ（16, 17, 18, 19, 20, 21号）と単独の69号の10基を調査している。13号、69号横穴は昭和44年の未調査横穴であり、いずれも天井部が著しく崩落していたが、13号横穴からは須恵器や土師器の多くの遺物を出土している。

3) 昭和63年の計測調査

第2集団のBグループ（24, 25, 26号）、同Cグループ（27, 28号）、同Dグループ（23, 29, 30, 31, 35号）、同Eグループ（36, 37, 38, 39号）、同Fグループ（32, 33, 74号）の17基を調査している。大半の横穴は昭和44年時に発掘調査されているが、当時、里道にかかる横穴及び池水下に埋没する横穴については調査がみおくられていたが、今回新たに26号、28号、23号、32号、33号、74号の6基を発掘調査をしており特に、26号、32号に出土遺物や構造に特徴が見受けられた。

4) 平成元年の計測調査

第2集団Gグループ（53号）、第2集団Aグループ（71, 72号）、それに単独横穴73号の4基を調査している。53号のみが昭和44年時に調査されており、他の3基は新たに発見された横穴であり、崩壊の著しい73号横穴に出土遺物が多かったことが特徴づけられる。

以下、蓮池横穴郡の概略を一覧表にして示す。

蓮ヶ池横穴一覽表(1)

番号	支群	位置	規模・方位・その他
1	A	稲荷池の北	全長4.5m、玄室の奥行1.72m、幅2.26m、天井割落、羨道長さ2.72m、幅1.46m(玄室寄り)
82	A	稲荷池の東	
22	A-1	稲荷池の北	
2	A-1	稲荷池の北	全長3.5m、羨道 幅1m、長さ1m、玄室 玄門寄り幅1.5m、奥壁部幅3.1m、天井最大高(奥壁部)1.3m
3	A-1	稲荷池の北	羨道 長さ1.7m、幅0.8m、高さ0.9m、玄室 全長2.0m、入口幅2.0m、高さ1.6m
4	A-1	稲荷池の北	羨道 長さ2.0m、幅1.2m、高さ1.0m、玄室 全長2.0m、入口幅1.5m、奥壁部幅2.5m、天井最大高(奥壁部)1.3m
5	A-1	稲荷池の北	
6	A-2	中池の北、丘陵端	羨道 長さ1.1m、幅1.1m、玄室 全長1.9m、幅 羨道寄り1.7m、奥壁寄り2.4m、天井高さ1.1m、
7	A-2	中池の北、丘陵端	羨道 奥行2.9m、幅1.1m、高さ1m、玄室 奥行1.6m、羨道寄りの幅1.7m、奥壁の幅2.1m、高さ1.3m
8	A-2	中池の北、丘陵端	羨道 奥行2.4m、幅0.8m、高さ1.2m、玄室 奥行1.7m、羨道寄りの幅1.7m、奥壁寄りの幅2.2m、高さ1.6m
9	B-1	本館の北西、丘陵東斜面	玄室の深長4.2m、幅 羨道寄り2.2m、奥壁寄り3m、高さ2.1m、羨道部は著しく崩壊している。
10	B-1	本館の北西、丘陵東斜面	羨道 奥行1.7m、幅1.2m、玄室 奥行3.6m、最大床面積2.5m、天井高さ1.8m、羨道部の崩壊が著しい。
11	B-1	本館の北西、丘陵東斜面	玄室 奥行2.8m、羨道寄り床面積1.9m、奥壁寄り幅2.5m、高さ1.6m、羨道 奥行2.2m、幅1.2m
12	B-1	本館の北西、丘陵の尾根	唯一の複室横穴。羨道 幅0.7m、長さ4m、前室入口床面積1.7m、奥壁部床面積1.7m、全長1.5m、天井割落(高2m)、奥室を結ぶ羨道の天井(割落)高1.3m、床面 幅0.8m、長さ1.5m、奥室天井割落(高1.7m)、全長4.5m、入口床面積2.3m、奥壁部床面積2.5m、主軸方位N48度W
52	B-1	本館の北西、丘陵東斜面	羨道 幅1.2m、高さ1m、奥行2.6m、玄室 奥行2.3m、入口部床面積2.1m、奥壁部床面積3.1m、高さ1.8m、主軸方位N43度E
13	B-2	中央広場西側丘陵の東端部	羨道 幅0.9m、奥行0.9m、玄室 奥行2.7m、入口部床面積2m、奥壁部床面積2.4m
14	B-2	中央広場西側丘陵の東端部	全長4m、最大幅1.7m、最大高1.3m、羨道と玄室との間に明確な区切りがない、崩落が著しい。
15	B-2	中央広場西側丘陵の東端部	台形状の前後部を削り出している、羨道 長さ2m、幅1.1m、玄室 奥行3.9m、幅入口寄り2.5m、奥壁部幅0.9m、天井の高さ1.92m

第5表 蓮ヶ池横穴一覽表(1)～(25)

蓮ヶ池横穴一覽表(1)

玄室の形態・その他	副葬品	第一次調査	二次調査 保存工事
玄室床面 方形状、床面に磚敷乱	(土師器) 高坏 埴 鉄(須賀区須賀原式)	昭和44年	保 63年
		未調査	保 63年
		未調査	
天井 四柱造り、玄室床面 覆じた扇子形	若干の小鉄片	昭和44年	昭和60年 63年
玄室床面 方形状、天井尖頭アーチ形	(須恵器) 壺の胴部片、坏の口縁部片、(土師器) 坏の口縁部片	昭和44年	昭和60年 63年
玄室床面 台形、閉塞溝有り 玄室壁面に明確な整形痕有り	出土品なし。	昭和44年	昭和60年 63年
		未調査	保 63年
玄室床面 台形、寄棟造り、壁面には整形時の工具痕有り。	(須恵器) 坏の口縁部片、刀子3、鉄釧4、鉄鍬茎部片1	昭和44年	昭和60年 63年
玄室床面 方形、寄棟造り、壁面には整形時の工具痕有り。	(土師器) 埴、埴の口縁部片、坏の口縁部片	昭和44年	昭和60年 63年
玄室床面 掘形、寄棟造り	(須恵器) 坏、杯の蓋、坏、壺の胴部片、(土師器) 坏3、坏の口縁部片、鋸先の残欠、金釧	昭和44年	昭和60年 63年
玄室床面 隅丸長方形状、天井寄棟造り、玄室と羨道の境に溝状切込み有り。	(須恵器) 高坏の胴部片、(土師器) 坏の口縁部片、鉄製品(突起状)	昭和44年	昭和60年 62年
寄棟造り。玄室床面は長方形状	釘状鉄製品	昭和44年	昭和60年 62年
天井 かまぼこ状、玄室床面 台形、前門付近に溝状の切込みを有する	(須恵器) 大甕の胴部片、壺の胴部片、(土師器) 坏2、坏の口縁部片、鉄製品残欠	昭和44年	昭和60年 62年
前室羨道崩壊、天井 崩壊。後室共にアーチ形。床面中央に排水溝を有す。前室奥壁にも排水溝有り。中央排水溝と前室、前室間の溝、多数の残存。	(須恵器) 坏と蓋杯4付、蓋杯、坏2、坏片、蓋杯片、壺の把手、壺の坏の蓋と脚部、(土師器) 高坏3個体分、坏片、埴、(鉄器) 刀子、鉄釧の残欠 玄室上の構造物は前方後円墳として指定されてきた	昭和44年	昭和60年 61年
玄室床面 台形、天井寄棟造り壁面に整形痕が明確に残存、閉塞溝の円礫が多量に残存。	(須恵器) 蓋杯2、坏1、坏の口縁部片、高坏胴部、壺の体部片、(土師器) 坏、(鉄器) 刀子、鉄釧、(馬具) 鞍具 新金具、鏡片、丸玉、切子玉2	昭和44年	昭和60年 63年
前門にV字形の切込み有り、閉塞に伴う造溝と思われる、玄室床面 長方形、天井寄棟造	(須恵器) 蓋杯7、坏2、高台付坏2、(土師器) 坏3、埴土内出土遺物、坏(糸切り底)	未調査	昭和62年 平成 3年
形態 狭状、室内が異常に小さいので、未完成の横穴ではという考え方もある。	出土品なし。	昭和44年	昭和62年
玄室床面 長方形、寄棟造り。	(須恵器) 蓋杯片、坏片、(土師器) 坏片、後世の陶器片。	昭和44年	昭和62年 平成元年

蓮ヶ池遺構一覽表(2)

番号	支群	位置	規模・方位・その他
16	B-3	中央広場西奥の丘陵東麓、B-2グループ左隣の横穴	狭門の前は、急斜面の岩壁、狭道 幅1.2m、奥行0.55m、玄室 奥行約2.6m、幅狭道寄り2m、奥壁部2.6m、天井の高さ1.8m、N-145度-W
17	B-3	中央広場西奥の丘陵東麓	狭道 幅約1.1m、奥行約0.6m、玄室 幅狭道寄り2.4m、奥壁部2.5m、奥行2.6m、天井の高さ1.8m、N-4度-W
18	B-3	中央広場西奥の丘陵東麓	狭道 幅約1.1m、奥行約1m、玄室 奥行約2.2m、幅約1.6m、奥壁部約2.2m、天井の高さ1.8m、N-1度-W
19	B-3	中央広場西奥の丘陵東麓	狭道 幅約1.4m、奥行1.7m、玄室 奥行3.2m、幅 狭道寄り2.1m、奥壁部寄り3.2m、天井の高さ入口で1.88m、奥壁寄りで 約2m、20号の西壁と連じているが、後述の所作であろう。
20	B-3	中央広場西奥の丘陵東麓	全長約3.7m、狭道幅1m、玄室幅約2.7m、天井の高さ約1.9m、N-23度-W、西壁、19号と連じている。後述の所作であろう。
21	B-3	中央広場西奥の丘陵東麓	全長約2.4m、狭道 幅約0.7m、玄室 幅入り口約0.7m、奥壁部約2m、天井の高さ約1.4m、N-21.4度-W
79	B-4	中央広場西奥の丘陵東麓	
80	B-4	中央広場西奥の丘陵東麓	
81	B-4	中央広場西奥の丘陵東麓	
53	C-1	復元厳治屋西側丘陵の東麓	狭道 狭門幅1.5m、玄室寄り幅2.3m、高さ1.8m、玄室 幅入り口2.5m、奥壁部3.8m、奥行4.5m、天井の高さ2.4m、N-11度-W、南壁溝があり、閉塞の礎残存。
78	C-1	復元厳治屋西側丘陵の東麓	
70	C-2	中央広場東側丘陵の西南麓	
71	C-2	中央広場東側丘陵の西南麓	狭門部に幅1.2m、長さ1.4m、深さ0.18mの閉塞溝あり、閉塞の礎も残存す。狭道部入口幅1.3m、長さ1.25m、玄室寄り幅1.85m、天井の高さ1.35m、玄室幅入り口寄り2.5m、奥壁部2.6m、奥行3.2m、天井の高さ1.9m、N-62度-E
72	C-2	中央広場東側丘陵の西南麓	狭道幅 狭門寄り1m、玄室寄り1.35m、長さ0.7m、高さ1.1m、玄室幅 入り口寄り1.8m、奥壁部2.7m、奥行2.4m、N-25度-E
73	C	中央広場東側丘陵の西南麓C群の北の道	狭道幅1.5m、奥行2.2m、長さ2.8m、玄室幅狭道寄り2.6m、奥壁部幅3.3m、奥行4.3m、天井の高さ現存2.25m、N-33度-E
69	C	中央広場北隅、丘陵南麓-W	狭道幅0.9m、長さ0.8m、玄室奥行2.9m、幅入り口寄り2m、奥壁部2.4m、N-145度-W

蓮ヶ池遺構一覽表(2)

玄室の形態・その他	副 葬 品	第一次調査	第二次調査 保存工事
玄室床面 台形、寄せ棟造り、壁に調整痕あり。	〔須惠器〕蓋杯の口縁部片	昭和44年	昭和62年 平成元年
狭道部床面に閉塞用と思われる役痕あり、玄室床面方形、寄せ棟造り、壁に調整痕あり。		昭和44年	昭和62年 平成元年
玄室床面 台形、寄せ棟造り。	〔須惠器〕蓋、蓋杯、〔土師器〕坏片、土埴5個(前底部出土)	昭和44年	昭和62年 平成元年
狭道床面に溝状の役痕、玄室平面、台形、寄せ棟造り、排水溝が廻る。	直刀残欠、鉄鏃あるいは刀子片	昭和44年	昭和62年 平成元年
前扉、後世の虹雲、加工が顕著に見られる。袖が明確でない。床面羽子板状、寄せ棟造り。		昭和44年	昭和62年 平成元年
狭道入口床面に溝状の廻り込みあり。狭道、玄室の境が明確でない。床面扇形、壁、調整痕。		昭和44年	昭和62年 平成元年
		未調査	未調査
		未調査	未調査
		未調査	未調査
玄室床面奥広がり長方形、寄せ棟造り、排水溝が廻る。調整痕あり。	〔須惠器〕坏身残欠2、坏蓋口縁部、坏口縁部片、高坏脚部片、〔鉄鏃〕〔鐵片、刀子残欠か〕、切子玉2個	未調査	平成元年 平成2年
		未調査	未調査
		昭和62年 確認	平成元年 調査中止
玄室床面長方形、寄せ棟造り、排水溝が廻る。側壁に調整痕が残る。	土師器片	昭和62年 確認	平成元年 平成2年
玄室床面台形状、寄せ棟造り、側壁に調整痕顕著。	金環1個、土師器片	昭和62年 確認	平成元年 平成2年
玄室床面長方形、寄せ棟造り、排水溝が廻っている。調整痕が見られる。	〔須惠器〕坏蓋3、坏蓋片3、坏身2、坏身片3、蓋口縁部高坏の脚部3、〔土師器〕坏身2、残3、蓋2、短頸埴、埴、刀子1、鉄鏃3、馬具、雲母、雲母片		平成元年 平成2年
玄室床面奥側がやや広まった長方形、壁に残る礎から玄室の構造は寄せ棟造りと思われる。			昭和62年 平成2年

蓮ヶ池横穴一覧表(3)

番号	支群	位置	規模・方位・その他
77	D-1	御諏訪池西側丘陵陵東南斜面	
24	D-1	御諏訪池西側丘陵陵東南斜面	羨道 幅1.5m、長さ1.2m、玄室 奥行2.2m、幅入り口寄り2.5m、奥壁部3.2m、標高29.7m、天井の高さ現高2.2m、主軸方向N-44度-W
25	D-1	御諏訪池西側丘陵陵東南斜面	羨道 幅入り口寄り1.1m、玄室寄り1.3m、長さ2m、高さ0.9m、玄室 奥行3.2m、奥壁部寄り2.4m、奥壁寄り2.4m、天井の高さ1.5m、N-32度-W
26	D-1	御諏訪池西側丘陵陵東南斜面	幅2mの基壇あり、閉塞溝を有す。羨道 幅入り口寄り1.2m、玄室寄り1.7m、長さ2.1m、玄室 奥行3.4m、幅入り口寄り2.8m、奥壁部2.8m、天井の高さ2.2m N-37度-W
27	D-2	御諏訪池西側丘陵陵東南麓 D-1の北側(地下保存)	台形状の基壇を削り出し、幅0.8m、長さ約1mの基壇をもつ、羨道 幅1m、長さ1.2m、玄室 入り口寄り幅1.4m、奥壁部2.1m、奥行3m、天井の高さ現高1.9m、N-20度-W
28	D-2	御諏訪池西側丘陵陵東南麓 D-1の北側(地下保存)	羨道部南面には幅0.25m、長さ1.4m、深さ0.08m、の袖を持つ横門閉塞溝がある。羨道 幅1m、長さ0.8m、玄室 幅入り口寄り1.8m、奥壁部2.5m、奥行2.9m、天井の高さ、現1.7m N-19度-W
36	D-3	御諏訪池西側丘陵陵東南斜面 D-2の上	幅1.6m、長さ2m、の基壇を有す。羨道 入り口幅0.9m、玄室寄り1.4m、長さ1.7m、高さ1.4m、玄室 幅入り口寄り2.3m、奥壁部3.1m、奥行3m、天井現高2.2m。
37	D-3	御諏訪池西側丘陵陵東南斜面 D-2の上	幅1.3m、長さ1mの基壇を有す。羨道入り口幅1.4m、玄室寄り1.6m、長さ1m、天井の高さ1.4m、玄室 幅入り口寄り2.7m、奥壁部3.3m、奥行3.6m、天井現高2.5m、閉塞溝有す。
38	D-3	御諏訪池西側丘陵陵東南斜面 D-2の上	幅1m、長さ1.2mの基壇を有す。羨道 入り口幅1.1m、玄室寄り幅1.6m、長さ1.4m、天井の高さ1.5m、玄室奥行3.1m、幅羨道部寄り2.7m、奥壁部3.8m、天井現高2.35m N-25度-W
39	D-3	御諏訪池西側丘陵陵東南斜面 D-2の上	幅1.3m、長さ1.3mの基壇を有す。羨道 入り口幅1.2m、玄室寄り幅1.3m、長さ1.1m、天井の高さ1.1m、玄室 奥行2.7m、幅羨道部寄り2m、奥壁部2.75m、天井現高2.1m N-17度-W
23	D-4	御諏訪池西側丘陵陵東南斜面 標高30m	前庭部幅1.7m、長さ1m、羨道 横門幅1.4m、玄門寄り幅2.3m、長さ2.8m、玄室 入り口幅2.5m、奥壁部幅3.4m、奥行3.1m、天井現高2.2m N-55度-W
29	D-4	御諏訪池西側丘陵陵東南斜面	羨道 横門幅0.8m、長さ1.2m、玄室 中央幅0.9m、奥行約2m、天井の現高1.6m N-38度-W
30	D-4	御諏訪池西側丘陵陵東南斜面	横門幅1.1m、長さ1.2m、玄門部幅1.7m、玄室 入り口幅2.5m、奥壁部幅3.2m、奥行2.9m、天井の現高1.9m、N-44度-W
31	D-4	御諏訪池西側丘陵陵東南斜面	羨道幅1.3m、長さ1.1m、玄室 入り口幅1.7m、奥壁部幅2.6m、奥行2.4m、天井現高1.7m、基壇、閉塞溝が見られる。N-7度-W
35	D-4	御諏訪池西側丘陵陵東南斜面	基壇はわずかに残る。袖をもつ閉塞溝が見られる。閉塞石が残る。羨道 幅0.6m、長さ1.1m、側壁上部、天井部完全に崩落。玄室 入り口幅1.5m、奥壁部幅2.6m、奥行2.7m、天井現高2.1m N-4度-W

蓮ヶ池横穴一覧表(3)

玄室の形態・その他	副 葬 品	第一次調査	第二次調査 採発工事
		昭和63年 確認	未調査
平入タイプ、玄室床面 台形。寄せ棟造り。一部に排水溝が見られる。前庭の溝が残る。	[須惠園]環蓋2、坯蓋口縁部片、短須蓋口縁部片、甕体部片、[土師器]環口縁部片、刀子2、鉄鏝1、用途不明鉄器片、金環4個	昭和44年	昭和63年 平成 2年
玄室平入り、玄室床面 長方形。寄せ棟造り、奥壁面に調整痕あり。	[須惠園]環口縁部片、匙片	昭和44年	昭和63年 平成 2年
玄室奥入り、床面 長方形。寄せ棟造り。床面に散飯粒、排水溝あり。前庭に調整痕。	[須惠園]環身5、環蓋5、菱飾小壺付高坏片、小坏身、台付甕蓋(池形)、壺、甕、[土師器]、蓋、高坏の坏部、鉄鏝、鉄鏝、[装束品]葬座玉(1)	未調査 里道の下	昭和63年 平成 2年
妻入りタイプ、床面 隅丸台形。羨道から玄室への明らかな区別がない。天井アーチ形。	[須惠園]環身1	昭和44年	昭和63年
妻入りタイプ、天井アーチ形。床平面は長方形。幅1.1m、長さ0.8mの基壇を有す。	[須惠園]環身3、環蓋4、甕、[鉄器]、鉄鏝2、鉄鏝蓋部1	未調査 里道の下	昭和63年
妻入りタイプ、床平面 台形。寄せ棟造り、調整痕あり。	[土師器]環口縁部片3、甕口縁部片、高台付の坏片、坯蓋部片	昭和44年	昭和63年 平成 2年
妻入りタイプ、床平面 方形。寄せ棟造り、調整痕あり。	[須惠園]環蓋(つまみ)1、坯蓋片6、坏2、高坏2、甕口縁部片、底部片、体部片。[土師器]環口縁部3、坯蓋部片、菱刺部一底部	昭和44年	昭和63年 平成 2年
妻入りタイプ、床平面 台形。寄せ棟造り。閉塞溝を有す。側壁に調整痕あり。	[須惠園]甕の体部片	昭和44年	昭和63年 平成 2年
閉塞溝を有す。玄室床面 台形。寄せ棟造り。配水溝を持つ。	[須惠園]小片	未調査	昭和63年 平成 3年
幅0.35m、深さ0.1m、長さ1.2m、の袖を持つ閉塞溝を有す。崩壊が著しい。寄せ棟造りと思われる。		昭和44年	昭和63年 平成 3年
基壇、前庭部は見られない。閉塞溝なし。玄室床面 方形。寄せ棟造り。		昭和44年	昭和63年 平成 3年
玄室床面 台形。寄せ棟造り、調整痕は見られない。	[須惠園]環身、坏片(高台付、平底)、奥厨部片	昭和44年	昭和63年 平成 3年
玄室床平面台形。寄せ棟造り、調整痕は見られない。	[須惠園]甕体部片、甕口縁部、壺蓋部片、短須蓋の甕部片、[土師器]環口縁部片、[鉄器]鉄鏝、陶瓦版(横式)部片、釘状鉄製品	昭和44年	昭和63年 平成 3年

盟方地庫一裏(6)

番号	文書	天	圖	器	品	文庫
1	1-裏			土器 	銅器 	銅器 S.44 銅器 S.61
B2	1-裏					銅器 S.69
22	1-A					銅器 S.44
2	1-A			小銅片 		銅器 S.44 銅器 S.60 銅器 S.69
3	1-A			銅器 1-2 	銅器 3 4 	銅器 S.44 銅器 S.62 銅器 S.60 銅器 S.69

盟方地庫一裏(7)

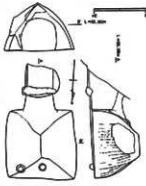
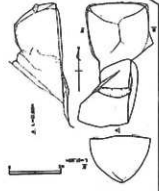
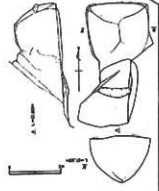
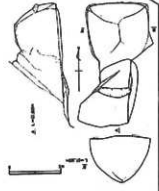
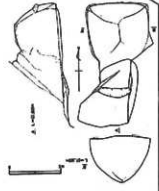
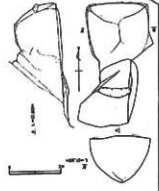
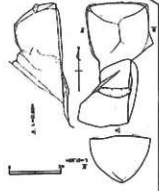
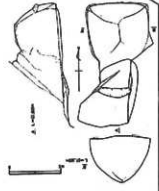
番号	文書	天	圖	器	品	文庫
4	1-A			土器 	銅器 	銅器 S.44 銅器
5	1-A			銅器 	銅器 	銅器 S.69
6	1-B			銅器 	銅器 	銅器 S.44 銅器 S.62 銅器 S.60 銅器 S.69
7	1-B			土器 	銅器 	銅器 S.62 銅器 S.44 銅器 S.60 銅器 S.69

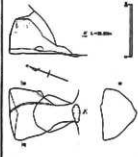
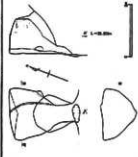


重方櫛式一(8)

新時代群	実物圖	群名	文獻
8 -B		重方櫛式一 上層 1~4 下層 5~8	文獻 原形 S. 44 群名 S. 62 時期 S. 60 S. 62
9 -C		重方櫛式一 上層 1 下層 2~3	文獻 原形 S. 44 群名 S. 62 時期 S. 60 S. 62
1.0 -C		重方櫛式一 上層 1 下層 2~3	文獻 原形 S. 44 群名 S. 62 時期 S. 60 S. 62

重方櫛式一(9)

新時代群	実物圖	群名	文獻
1.1 -C		重方櫛式一 上層 1~2 下層 3~4	文獻 原形 S. 44 群名 S. 62 時期 S. 60 S. 62
1.2 -C		重方櫛式一 上層 1~13 下層 14~17	文獻 原形 S. 44 群名 S. 62 時期 S. 60 S. 62

番号	支那	実物	図	品名	文庫
17	1-E			出土品なし	龍 S.44 中 S.62
18	1-E			須磨鏡 1-3 土師 1-3 土師 1-3	龍 S.44 中 S.62 龍 S.44 中 S.62
19	1-E			須磨鏡 1-3 土師 1-3 土師 1-3	龍 S.44 中 S.62 龍 S.44 中 S.62
20	1-E			須磨鏡 1-3 土師 1-3 土師 1-3	龍 S.44 中 S.62

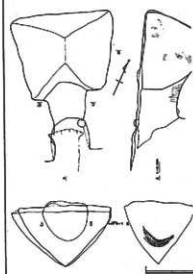

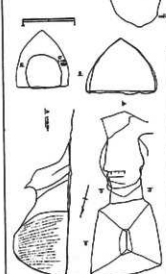

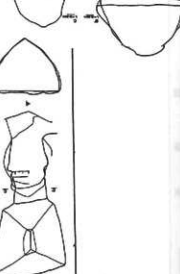

番号	支那	実物	図	品名	文庫
21	1-E			出土品なし	龍 S.44 中 S.62
79	1-F	未定			龍 S.44 中 S.62
80	1-F	未定			龍 S.44 中 S.62
81	1-F	未定			龍 S.44 中 S.62
53	2-C			須磨鏡 1-6 須磨鏡 6-7 竹子玉 8-9	龍 II.2
78	2-G	未定			龍 II.2
70	2-A	知照石の如縁、縁上部分には彫定でない。			龍 II.2

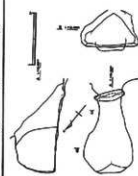
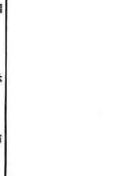
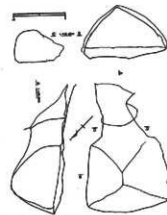

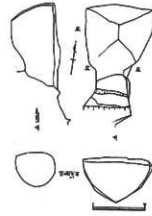
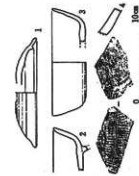
番号	写真	実物	断面	品名	文様
71 2-A				土師器	竹肌 H.2
72 2-A				金銀	竹肌 H.2
73 2-B				土師器	竹肌 H.2

番号	写真	実物	断面	品名	文様
73				土師器	竹肌 S.62
69 2-B				土師器	竹肌 S.62
77 2-B				土師器	竹肌 S.62
24 2-B				土師器	竹肌 S.62
25 2-B				土師器	竹肌 S.62

器物支節	圖案	圖說	文獻
26 2-A		銅器類 (圖說)	竹簡 5.63
26 2-B		銅器類 銅子蓋竹簡類 11, 12, 15	竹簡 5.63
27 2-C		銅器類 土器類 15~17 漆器類 18~19 墓室玉 22	竹簡 5.44 竹簡 5.63

器物支節	圖案	圖說	文獻
28 2-C		銅器類 銅器類	竹簡 5.63
36 2-E		銅器類 土器類 漆器類 1~5 漆器類 1~12	竹簡 5.42 竹簡 5.44 竹簡 5.44 竹簡 5.63 竹簡 5.44 竹簡 5.42
37 2-E		銅器類	竹簡 5.63


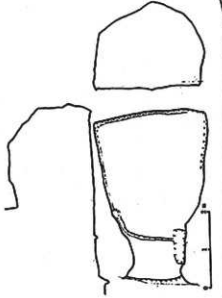
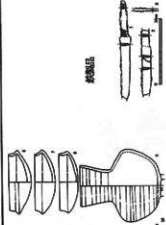
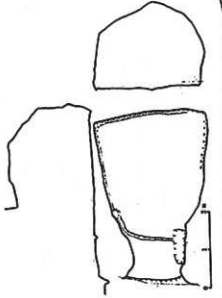
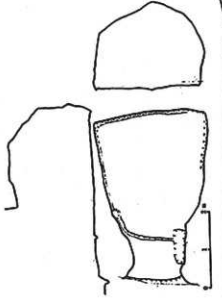



番号	支那	実測	断面	品名	文獻
37				須臾	陳振 S. 44 神原 S. 62 中野 S. 63
38	2-E			出土部欠し	陳振 S. 44 中野 S. 63 S. 62 神原
39	2-E			須臾	陳振 S. 63
28	2-D				

番号	支那	実測	断面	品名	文獻
29	2-D			出土部欠し	陳振 S. 44 中野 S. 63
30	2-D			出土部欠し	陳振 S. 44 中野 S. 63
31	2-D			須臾	陳振 S. 44 神原 S. 62 中野 S. 63

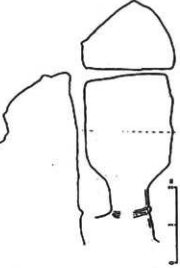
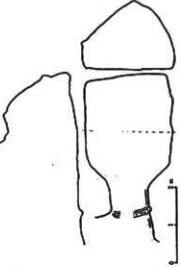

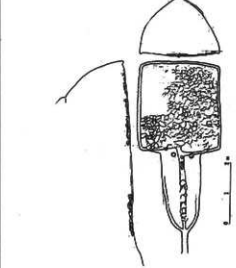
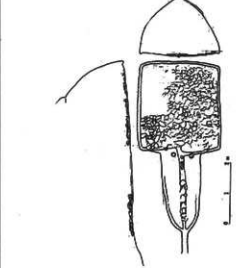
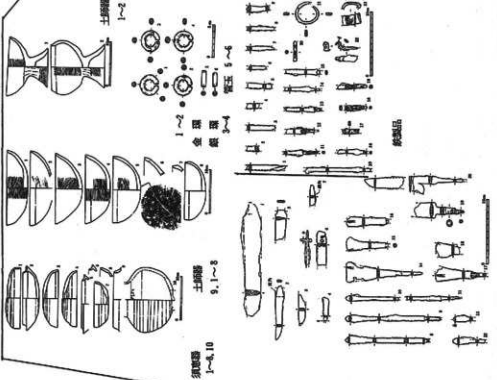
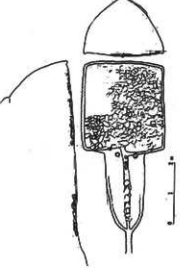
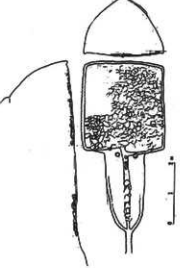
番号支那	家器圖	圖說	文様
35 2-D	<p>銅下器好</p>	<p>須臾器 銅器</p>	<p>銅器 S. 44</p> <p>銅器 S. 63</p>
76 2-F	<p>銅下器好</p>	<p>須臾器 1 土器 2-7 竹子玉 8</p>	<p>銅器 S. 63</p>
32 2-F	<p>銅下器好</p>	<p>須臾器 1 土器 2</p>	<p>銅器 S. 63</p>
33 2-F	<p>銅下器好</p>	<p>須臾器 1 土器 2</p>	<p>銅器 S. 63</p>

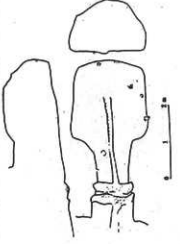
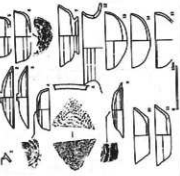
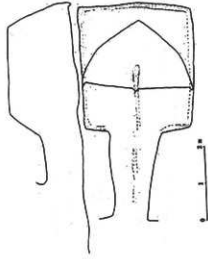
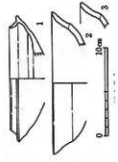
番号支那	家器圖	圖說	文様
74 2-F	<p>銅下器好</p>	<p>須臾器 1-2 土器 3-4 銅器</p>	<p>銅器 S. 63</p>
51 2-F	<p>銅下器好</p>	<p>須臾器 1-2 土器 3 銅器 須臾器 1-4 土器 7-13 銅器</p>	<p>銅器 S. 44</p> <p>銅器 S. 62</p> <p>銅器 S. 44</p> <p>銅器 S. 52</p>
34 2-F	<p>銅下器好</p>	<p>銅器</p>	<p>銅器 S. 44</p> <p>銅器 S. 52</p>

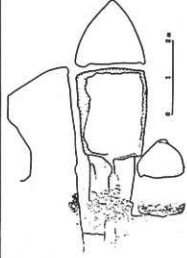

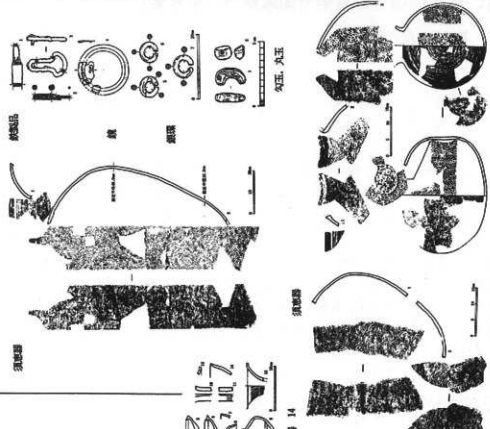
重方地穴一區(22)

発掘支那	平面図	断面	物品	文様
40 B-A			<p>土器 1~5</p> <p>須臾器 5</p> <p>陶器 10</p> <p>出土品なし</p>	<p>5.44</p> <p>5.62</p> 
41 B-A			<p>出土品なし</p>	<p>5.44</p> 
42 B-A			<p>出土品なし</p>	<p>5.44</p>

重方地穴一區(23)

発掘支那	平面図	断面	物品	文様
48 B-B			<p>出土品なし</p>	<p>5.44</p> 
49 B-B			<p>土器 1~5</p> <p>須臾器 1~10</p> <p>5.1~5</p>	<p>5.44</p> <p>5.62</p> 
50 B-B			<p>出土品なし</p>	<p>5.44</p>

番号	支那	家	新	器	品	文様
44 3-A					 <p>銅器類 1-4</p> <p>土器類 9-15</p>	<p>銅器 5.44 附録 5.62</p>
45 3-B					 <p>銅器類 1</p> <p>土器類 2-4</p>	<p>銅器 5.44 附録 5.62</p>

番号	支那	家	新	器	品	文様
46 3-B					 <p>銅器類 1-13</p> <p>土器類 14</p>	<p>銅器 5.44 附録 5.62</p>
					 <p>銅器類 1-13</p> <p>土器類 14</p>	<p>銅器 5.44 附録 5.62</p>

文様類の「銅器」は、宮城縣教育委員会昭和6年の発行の「墨ヶ池第六一墓調査報告」のことであり、「附録」は、宮城縣総合博物館昭和60年発行の「歴史文化研究報告1 墨ヶ池第六一墓発掘—」を転じており、「附録」は、昭和60年度、同2年度—平成2年度発行宮城府教育委員会の「墨ヶ池第六一墓発掘調査事業報告1-V」のことである。

4. 保存環境整備事業（国庫補助対象事業）

(1) 横穴の保存修復工法

1. はじめに

横穴が張り込まれている丘陵地は、軟質シルト岩が相互に積層をなしているもので、層の条理に沿って剝離、あるいは崩落しやすい。また、湿潤な時期には玄室内部の湿度が異常に高くなり、玄室内壁面には藓や苔が繁殖し、壁の表面は損なうこともある。羨道の上部や側壁が崩落して入口部分が大きく開いてしまった横穴の玄室は、外気の影響を直に受け易くなる。羨道や玄室の大半が崩落している横穴の場合には、外気に直接触れて風雨にも晒されている。こうした状況のもとでは横穴の劣化が激しくなり、また崩壊の速度も早くなる。

外気の影響が玄室内部に直接及ばないようにするためには、羨道入口に閉塞石を積み上げて外気から遠ざけて玄室内部の温湿度変化をできる限り安定させる措置を講じる。羨道部分が半崩壊した横穴の場合は、その形状を十分に検討したうえで復元し強化する。この手法は、単に横穴の強化にとどまらず、玄室を外気から遮断し玄室内部の温湿度をより安定した状態に保つ。部分的な復元は、見学者にとっても横穴の原形構造をより分かり易くする。

蓮ヶ池横穴群の保存工事は七年間にわたって実施された。そのため、工期中にも保存材料や技術の改善・改良を重ねることができた。また、施工後の経年変化を詳細に観察することもできた。こうした経年変化を観察しながらの施工技術と保存材料の改善は、それぞれの遺跡の立地条件に見合う工法を創り出すことを可能にした。遺跡における適切な施工法の確立は、その遺跡の所在地において実践した経年変化の結果をふまえた改良・改善の繰り返しの中から創られることを、今回の史跡蓮ヶ池横穴群の保存工事が示唆している。

2. 保存修復の工法

横穴保存の工法は、その保存状態に合わせて次の3つに分けて実施した。昭和61年度に保存工事が施された12号横穴は、玄室が前室と主室に分けられており、羨道から前室の大半が崩壊していた。第一の保存工法は、崩壊した羨道部と前室を復元し、その入口には閉塞石を配する(図1-①)ことであった。これによって、前室や主室を外気から遮断し、玄室内部の湿度を安定に保つことができる。横穴の内部は湿度が高く、保存工事の着工前には藓や苔が確認されたのだが、壁面を樹脂硬化したので現状では枯死している。

第二の工法は、昭和62年度に実施された9-11号横穴に施工された方法である(図1-②)。これらの横穴は羨道が部分的に崩壊しており、玄室の前部と外気が直結した状態になっている。そのため、羨道の入口部分から玄室の前部にかけて原形を復元することによって、玄室を外気から隔離することができる。この場合には、見学者が玄室に立ち入ることができるように閉塞石を設置しないため、外気と完全に隔絶することはできない。一方、11号横穴のように閉塞石を配って玄室を完全に封じ込んで保存した例もある(図1-③)。

第三の工法は、20号や21号横穴のように玄室の大半が崩壊しているものに対する施工法である。これらの横穴は、その内壁を合成樹脂で硬化したうえで、玄室がそれ以上の崩壊を防ぐために砂嚢を積み上げて埋め戻した(図1-④)。さらに、羨道入口の位置に閉塞石を張り付けて所在位置を表示した。

以下、これら横穴の保存工法にともなう部分的復元と羨道や玄室の壁面強化の方法について報告する。

(1) 12号横穴の羨道・玄室の復元

前室の大半がすでに崩落しており(図2-①)、主室までが外気に晒された状態にある。前室天井部の崩落容積は5立方メートルを超えるので、補填する素材は軽量であればあるほど合理的である。ここでは硬質のウレタン樹脂を使用することにした。まず、ステンレス製の板を使って、前室の上部に網状構造の骨組みの枠を構築する(図2-②)。前室上部の両側に、10ヶ所あまりの小さい穴をあける。ここにエポキシ系合成樹脂を大量に流し込んでから、直径30mm・長さ600mmのステンレス棒を300-500mm程度の深さにまで差込んで固定する。このステンレス棒の先端にステンレス製の板や棒を溶接して、両側面をつなぐようにして網状の架橋を架ける。次いで、この骨組みを芯にしてウレタン樹脂を吹き付けて発泡させる。発泡した硬質ウレタンフォームは、発泡スチロールのようにカッターで容易に削ることができるので、前室の天井部分の形状に合わせて切り出し、崩落した前室天井部の谷間を埋める(図2-③)。硬質ウレタンフォームの比重は0.03と小さく、きわめて軽量である。玄室の天井部を埋める素材としては、きわめて合理的な材料といえよう。しかし、ウレタンフォームは紫外線にあたるとすぐに劣化してしまうので、全体を強化プラスチック(FRP)で包み込んで保護する。すなわち、ガラスクロス



保存修理の各種工法



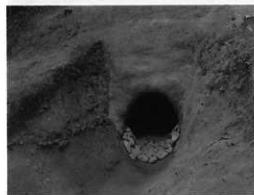
とエポキシ系樹脂を交互に張り合わせた強靱な保護膜である。

さらに、横穴と同様の土壌をエポキシ樹脂で練り合わせた擬土を盛りつけて整形し、仕上げとした(図2-④)。エポキシ系の合成樹脂を使った擬土は、硬化後、湿気を吸収したり放出したりする吸放湿性に優れる。そのため、雨にあたれば濡れ色を呈し、晴天には乾燥して濡れ色が消える。そのため、擬土を張り付けた部分と加工していない周辺土壌との間には、全天候を通じて違和感がなく、丘陵の岩盤によく馴染んだ色合いを呈する。なお、湿潤なところでは吸放湿性のある擬土はそれなりに苔なども生育するので、周辺の環境にもよく馴染む。

(2)横穴内壁の補強と硬化

羨道・玄室内部の壁面は、シルト岩で互層をなす素理に沿って剥落したところが各所に見受けられる。また、崩落寸前の箇所も多い。こうした状態は、主に玄室入口周辺に多く認められる。羨道の閉口部が大きく崩れている横穴では、特に玄室前方部の損傷が激しい。閉口部の崩落による窪みに沿って、長さ300~500mm程度のステンレスの板を溶接し、ステンレス製のアーチを架ける。その上にFRPを張り付けて固定したあと、擬土を盛りつけてアーチを埋め込み、天井・側壁表面に固定する。壁面の整形には擬土を用いるが、これは吸放湿性があり、湿潤な条件に変化しても壁面に露結する現象は生じない。

横穴を削り出した時の工具の痕跡が残っている玄室内部の天井や壁面には、イソシアネート系やアクリル系合成樹脂などを、洗瓶を使ってふりかけ全面を硬化した。洗瓶は、樹脂製で先端に細い管を付けている。軟質の洗瓶は、掌で圧縮しながら樹脂溶液を押し出すようにしており、圧縮の加減で押し出す樹脂液の量を調節しながら壁面に振りかけ、余分に流れ出ないように調節する。さら



12号横穴の保存工程

に、エポキシ系の合成樹脂を適宜併用して剝離寸前の壁面を強化したり、あるいは剝離片を元の位置に戻して接着した。

(3)擬土の調製

横穴周辺の土壌を乾燥させ、エポキシ系合成樹脂と練り合わせて擬土を作る。その強度を倍加させるために必要に応じてグラスチップ(ガラス繊維を細かく切ったもの)を混入させる。擬土は、横穴壁面の欠損部分を補填するために使用する。また、崩落した羨道入口部分や玄室などをウレタンフォームで復元した場合、擬土を3層に盛りつけて整形する。第1層目には、樹脂分を多く混ぜたもので、さらにグラスチップを加えたものを使用する。

第1層目の擬土は、合成樹脂1部に対して土壌を3部、第2層目には土壌5部を混合する。いずれも適量のグラスチップを混合する。第3層目の表面に使用する擬土には、合成樹脂1部に対して土壌10部を混ぜるが、通常はグラスチップを加えない。表面に使用する擬土は、樹脂分が少なくないうえにグラスチップも混ざっていないため、風雨にあたることで摩耗しやすく、肌荒れが生じて自然な風体を呈する。

(4)13号の復元的保存修理

13号横穴は、玄室のおよそ半分が崩壊しているものの、副葬品が豊富に出土している。多数の土器のほか人骨も発見されている。ここでは、玄室天井部のごく一部を部分的に復元して擬土を張り付けて仕上げている(図3-①)。床面には人骨や土器を配列し、出土状況を再現することにした(図3-②)。ただし、遺物を保護するために床面に強化ガラスを敷き、見学者がガラスの上に立って床面の遺物や人骨を見学できるように工夫した。

3. おわりに

本来、この種横穴の保存に際しては、玄室が外気に直に晒されないようにすることが望ましい。しかし、この場合には横穴全体に覆屋を架ける方法もあるが、これでは遺跡周辺の景観を損ねることになる。覆屋を架ける代わりに、崩壊した羨道部などを復元することによって、覆屋に代わる機能をもたせる。羨道入口に閉塞石をはじめこむことによって、さらに外気との遮断効果は倍増するが、内部を覗けなくなるので保存と公開活用を秤にかけて判断することになる。

今回、エポキシ系合成樹脂を使った、吸放湿性に優れる擬土を適用した。これを3層構造にして盛りつける方法が好結果を生み出した。また、軽量材料による玄室の復元や崩落部分の整形など、今後の横穴保存の指標になり得る多くの成果を得ることができた。



13号の復元的工法

(2) 横穴保存工事

保存環境整備の中で特に苦慮したものは横穴の保存修理であった。横穴は総て軟岩のシルト岩層に構築されている。このシルト岩層は一定の湿度と温度を保っているときは強いが高湿乾燥すると微粒子状に風化、崩壊する性質をもっている。したがって、従来から開口していた横穴は、羨道部天井及び玄室天井部が崩落しているものが多く保存修理法と保存工事には細心の注意を払うことになり、国庫補助対象事業経費の大半を使用することとなった。

保存工事では、横穴の構造補強、崩壊部の復元、また、横穴の埋葬の様子を学習できる保存工事も行っている。

1) 昭和61年度の保存工事

保存工事の初年度であり、丘陵頂部近くに構築された12号横穴から着手することとなった。12号横穴は、主室と前室とからなる副室構造であり、前室部から羨道部天井が完全に崩落した状態であったためこれら補強復元工事を行っている。

保存工事は次の手順により行っている。

- ① 羨道部、前室部天井部にアーチを架けて、補強すべき崩落部分の同壁面の表層部を事前に強化作業を行う。
- ② 復元天井部の骨組みをステンレス丸棒、L棒、フラットバーで枠組みをおこなう。ただし、事前に壁面を合成樹脂で強化し、枠組みの根本部はエポキシ系合成樹脂で固定する。まず、壁面に穴を穿け、ステンレス棒を差し込み、合成樹脂で強化する。これを基盤にして、ステンレス棒を溶接しながら連結し、架橋をつくる。
- ③ このステンレス製枠組みを芯にして、硬質ウレタン樹脂を現場で発泡させ、ウレタンホームを形成させる。前室などの形状はこの段階で復元的に整形する。
- ④ ウレタンホームを全面包み込むようにして、F.R.P.を張付ける。つまり、ガラスクロスのエポキシ系合成樹脂で張り重ね(4~5層くり返して積層する)、ウレタンホームをさらに強化する。
- ⑤ F.R.P.の上から(内外とも)現地の同質土壌を塗り重ね、周囲の雰囲気に合わせて整備している。

2) 昭和62年度の保存工事

9.10.11号横穴の復元補強工事と2.3.4.5.6.7.8.52号横穴の玄室内部外の構造強化のために樹脂含浸を行っている。

9-11号横穴はいずれも羨道、羨門口の崩壊が大きいため、その部の復元工事と羨門口前面壁の崩壊防止強化工事を行っている。工法については、基本的には12号横穴で用いた材料手法とも同じである。また、9号横穴については、後世に住居として使用されたこともあり、玄室奥部がかなり拡張されていたため、硬質ウレタン樹脂を発泡させ、原形に復元している。

3) 昭和63年度の保存工事

- 2.3.4号横穴と6.7.8号横穴グループの保存工事を行っている。
- 2.3.4号横穴は、玄室内部はしっかりと構造を保っており、羨門口及び前面壁を補強する形の保存工事を行っている。また、玄室内部壁には樹脂を含浸させている。
- 6.7.8号横穴は、羨門口と羨門口前面壁に崩壊が見受けられたため、羨門部復元と羨門口前面壁の補強工事を行っている。工法としては、修理部壁面に樹脂を含浸させた後、ガラス繊維を混ぜたF.R.P.を吹き付け、それをローラで転圧する。その後ステンレス骨組みを行い、硬質ウレタンを発泡させ、整形し、発泡ウレタンを包み込むように再度F.R.P.を吹き付ける。さらにステンレス金網を張り、樹脂で混ぜた掘土を貼り付け仕上げている。
- 5号及び22号は、未調査の横穴であったため、保存修復は最小限度にとどめた。

4) 平成元年度の保存工事

- 15号横穴と16号-21号横穴グループ、それに52号の保存工事を行っている。
- 15.16.17.18号横穴については、比較的保存状態の良いものであったため、羨道部の崩落部分の復元補強、羨門口前面壁の補強工事を行い、玄室内部壁は樹脂含浸による強化をはかった。工法は、従来と同じである。
- 19.20.21号横穴は、羨道、玄室部ともに崩落が著しく、復元することは困難なため玄室内に砂土を詰めた土のう袋を積み、前面部をステンレス骨組で補強し、発泡ウレタンを逃がす間に充填するとともに、前面部にも発泡ウレタンを吹き付け、羨門口部を復元する形で整形する。その後、F.R.P.でウレタンを包みこむ。さらにその上にステンレス金網を張り、樹脂で混ぜた掘土を貼り、羨門口には河原石を積み上げ石雨廊の状況を表示した。
- 52号横穴については、極めて保存状態が良いため、外部に露出する羨道前部の補強に留めている。

5) 平成2年度の保存工事

- 14号、53号、69号と24-26号横穴グループ、36-39号横穴グループ、71-73号横穴の13基の保存工事を行っている。
- 14号横穴は、未完成の横穴と思われるが、羨門、羨道部の崩落が見受けられるため復元補強工事を行っている。

53号横穴は、比較的保存状態の良い横穴であるが、羨道部の一部及び羨道から玄室に至る左側天井部に崩落が見受けられることや玄室に一塊の崩落、側壁に後世の掘り込み等があることから、これらの保存修理を行っている。また、この横穴は、前庭部を良く残しており、前庭部を自然の状態で保護するため、前庭部岩面に樹脂サンコールを含浸させ、ステンレス金網を張り、エポキシ樹脂を貼り付け上部に薄く表土を乗せている。

69号横穴は、著しい崩壊のため横穴の掘り込まれた玄室中央部より奥部において崩壊がひどく、立体構造は見受けられない。そのため、全体復元は困難な状況から横穴の主軸方向縦断面

を復元し、横穴の縦断構造を表現する目的をもって復元補強工事を行っている。

24.25.26号横穴の内24号横穴は、羨道部及び支室天井部は著しく崩落しているため、支室内部は土のうにより閉塞した後、羨門部を復元し、河原石による羨門閉塞状況をレブリカで固定閉塞している。25.26号横穴は比較的保存状態が良かったため羨門部の復元補強工事を行い、河原石による羨門閉塞状況をレブリカにより作成し、開閉できる状態にした。

36.37.38.39号横穴は、比較的内部構造はしっかりしているが、それぞれの横穴の羨道部に崩落が進んでいる。また、横穴の穿たれた前面傾斜面壁岩層面に共通の風化による劣化現象が見受けられるため、羨道部の復元と岩層面補強工事を行っている。なお、36号横穴に代表されるこれらの横穴支室内部には鏝痕と調整痕が残っており、これらを保護するためにインソシアネート系樹脂（サンコールSK-40）と溶剤（サンコールシンナー）の混合液を壁面に含浸させ、岩層の硬化を行っている。羨門部は、25.26号横穴と同様開閉可能なレブリカ閉塞を行っている。

71.73号横穴は、羨道部、支室部の天井崩落が著しく、また傾斜面上部に構築されていることもあり、今後、崩落が一段と進むものと思われるため、支室内部に土のうを積み閉塞保存措置をとった。羨門口は河原石を積み上げ、エポキシ系樹脂のアラルダイト凝土にて固定している。

72号横穴は、構造もしっかりしており、羨道部の復元と前面傾斜壁の岩層面補強工事を行い開口保存としている。

6) 平成3年度の保存工事

13号と23.29.30.31.35号横穴グループの6基の保存工事を行っている。

13号横穴は、崩落が著しく原形を保っているのは床面のみであった。しかし、構築されて後、早いうちに崩落したと思われる、床面に埋葬時の遺物が多く出土しており、埋葬時の状態を復元し葬制の学習を目的とした保存工事を行った。

葬制学習復元工事は、横穴墓の埋葬状態を復元し、見学、学習に供するため、副葬品のレブリカを作成し発掘調査で得た出土状態を復元するための施設工事を行った。

23号横穴は、羨道天井部の崩落が見受けられるほかは原形を留めているため、羨道天井部及び羨門口の復元補強工事を行っている。

29号横穴は、支室天井を残すのみと崩壊が著しいため、羨道部天井部と羨門口の復元補強工事を行っている。

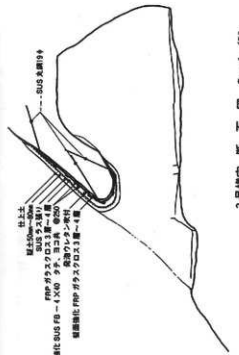
30号横穴は、羨道部天井及び支室西側側壁の崩壊が著しいためこれらの復元補強工事を行っている。

31号横穴は、羨道部天井ほかに崩落が見られる程度であり、羨道部天井部と羨門口の復元補強工事を行っている。

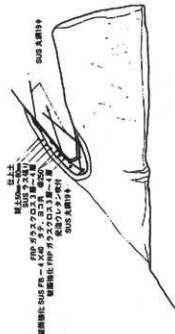
35号横穴は、羨道部天井及び支室部の天井の崩落が著しいため、支室天井部及び羨道部天井部と羨門口の復元工事を行っている。



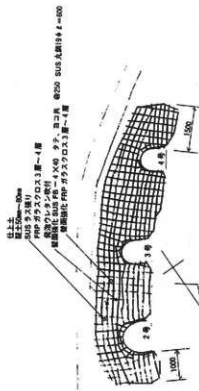
2号横穴 断面図 S=1/50



3号横穴 断面図 S=1/50

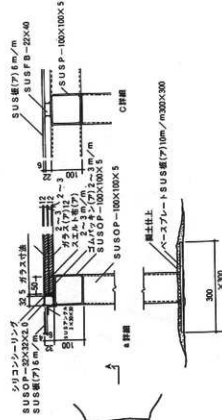
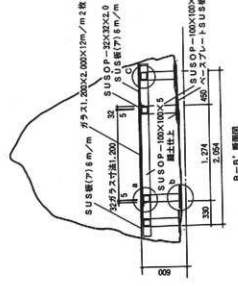
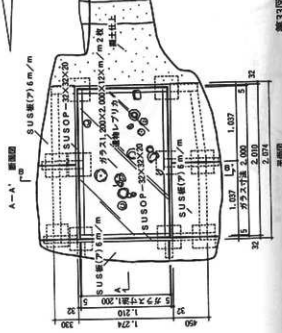
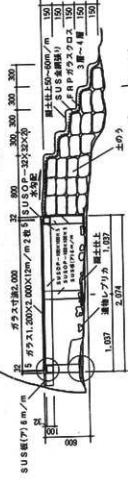


4号横穴 断面図 S=1/50



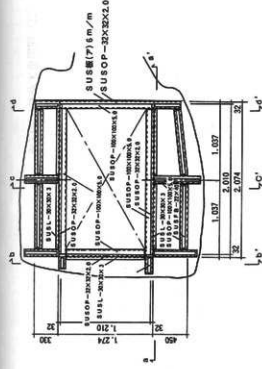
2号・3号・4号 横穴周辺斜面強化図 S=1/25

SUSFB-1X40 9ヶ、ヨコ長 4250
 土柱
 幅 2500mm/幅 4000mm
 アンカー-SUSスチール 4=400
 0300
 鋼筋コンクリート 2層、4層、6層、8層
 27P27S27C27R3層-4層
 SUSFB-1X40 9ヶ、ヨコ長 4200
 SUSFA鋼筋
 降伏レバー突起
 SUSFB-1X40 9ヶ、ヨコ長 4250

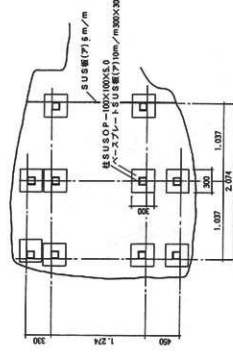


$$S = 1/50, 1/12.5$$

第33図 保存工事断面 (10) 第13号橋穴遷移構造元図・主要部縦断面工事①



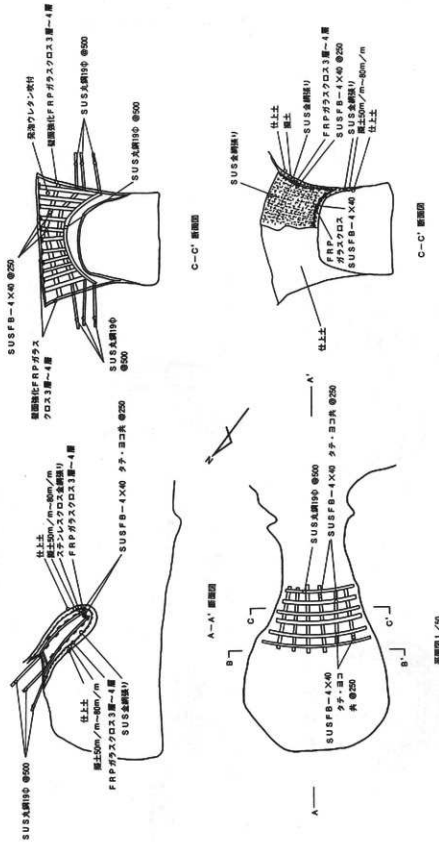
主要部縦断面 平面図



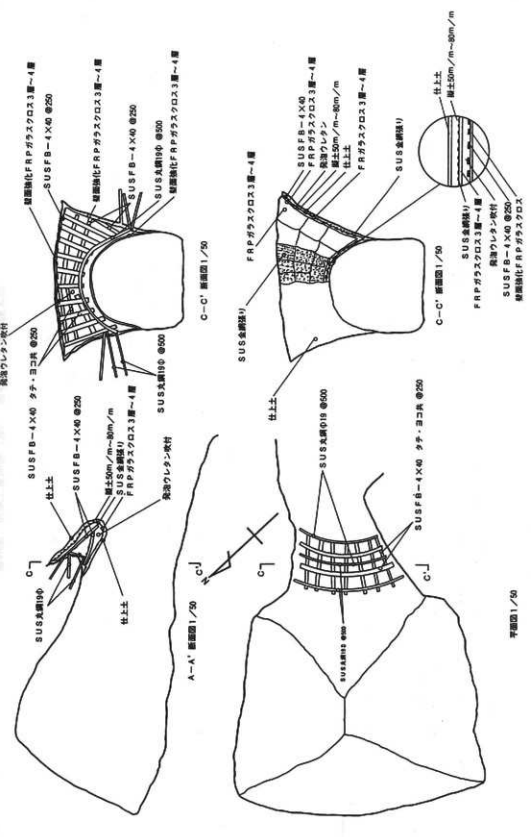
主要部縦断面 平面図

第34図 保存工事断面 (11) 第13号橋穴遷移構造元図・主要部縦断面工事②

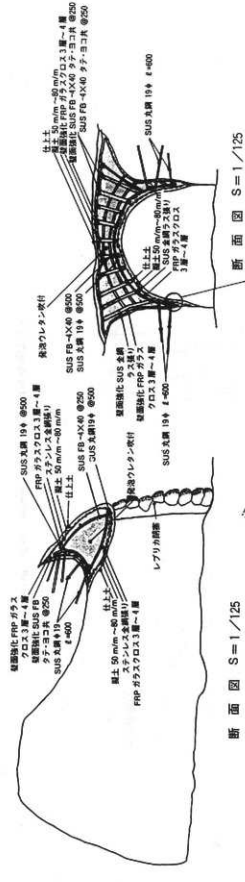
$$S = 1/50$$



第47図 保存工事断面図 (24) 第30号橋穴溝橋復元部



第48図 保存工事断面図 (25) 第30号橋穴溝橋復元部

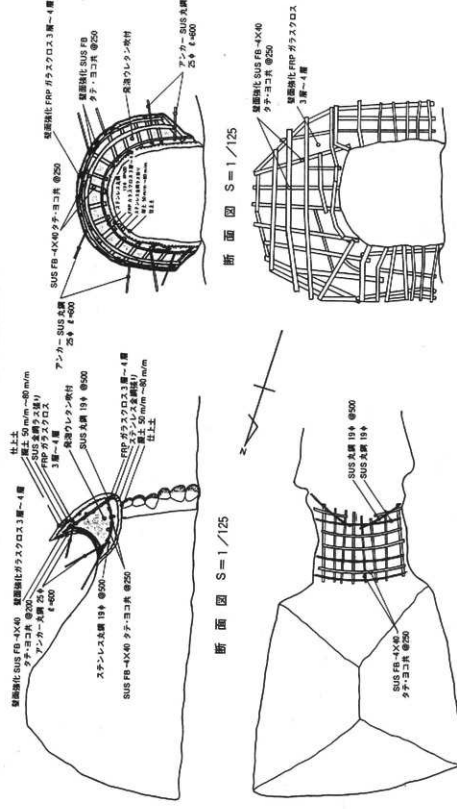


断面図 $S=1/125$

拡大断面図 $S=1/25$

平面図 $S=1/125$

第53図 保冷工事断面 (30) 第38号機穴遺構復元図



断面図 $S=1/125$

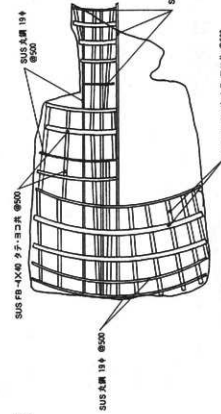
平面図 $S=1/125$

機穴入口周辺前面強化図 $S=1/125$

第54図 保冷工事断面 (31) 第39号機穴遺構復元図



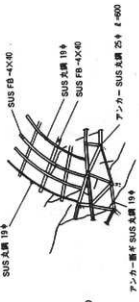
断面図 S=1/125



平面図 S=1/125

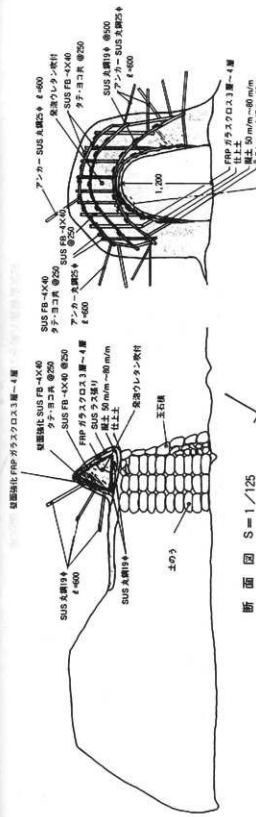


断面図 S=1/125

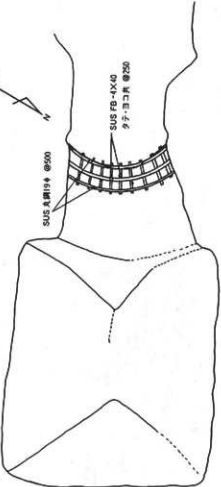


アンカー一部詳細

第57図 保排工事断面(34) 第69号橋穴道橋復元図



断面図 S=1/125



平面図 S=1/125

拡大断面図 S=1/25

第58図 保排工事断面(35) 第71号橋穴道橋復元図

(3) 修景工事

史跡指定地内における環境整備については、原則的に国庫補助事業によって修景工事を行っているが、史跡公園としての全体的な効率的な活用を図る上から一部指定地内における整備を現状変更許可に基づいて都市計画公園事業で行っている。

修景工事の主なもの、見学道の整備、四阿棟の建設、横穴前庭部広場の整地、張り芝、植栽、横穴前庭法面補強工事等である。

1) 昭和60年度の修景工事

環境整備事業（国庫補助事業）の初年度にあたり、ゾーンⅠの西側丘陵に第1集団Cグループの横穴群が分布しており、中でも12号横穴の保存工事が急がれることから見学道建設を行っている。

ゾーンⅠの低地からCグループに通ずる見学道（延長62m、幅員3m）と12号に通ずる階段（55段、幅員3m）の建設工事を行っている。

2) 昭和62年度修景工事

第1集団Cグループの12号横穴周辺の整地、張り芝、植栽工事及び9～11号横穴前庭部の墓道復元、排水、張り芝工事。第1集団Bグループの6～8号横穴前庭部の盛土整形、張り芝、植栽工事及びこのBグループから昭和60年に建設したCグループに接続する見学道（延長75m、幅員3m）を建設している。

3) 昭和63年度修景工事

第1集団Cグループの16～21号横穴前庭広場（支谷）の盛土整地、排水路設置、張り芝、植栽、ベンチ（3基）設置工事を行っている。

第2集団Aグループの70～72号横穴の前庭広場（支谷）の盛土整地、排水路設置、張り芝、植栽と休憩施設としての四阿1棟を建設している。

単独横穴の73号横穴広場（支谷）の盛土整地、排水路設置、張り芝、植栽、ベンチ（2基）設置工事を行っている。

4) 平成元年度修景工事

ゾーンⅠ奥部の東側支谷東斜面には69号横穴があり、この支谷は昭和63年度に粗造成を行っており、継続で整地、張り芝、植栽（ヤマザクラ外）、丸太ベンチ（4基）を設置している。

12号横穴周辺部の伐開、植栽（ハクサンボク外）工事を行っている。

9～11号横穴から16～21号横穴前庭広場に通ずる見学道の階段工事を行っている。

ゾーンⅠとゾーンⅡを隔てる丘陵尾根筋に階段を伴う見学道を設置している。

5) 平成2年度修景工事

第2集団Gグループの53号、78号の前庭部及び前庭広場の伐開整地（948m²）と前庭部法面整形（14m²）を行っている。

幹線道路から53号横穴に通ずる見学道（延長47m、幅員3m）設置工事を行っている。

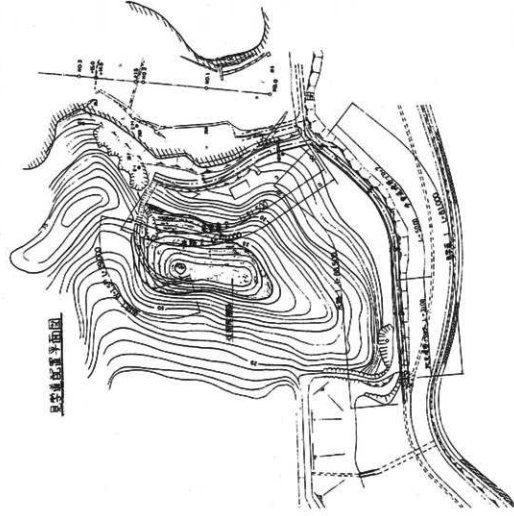
前庭法面には木製階段（長さ1.3m、幅1.2m、階段14段）と張り芝を行い、周辺部に植栽（ヤマモモ、ヤブツバキ、ヤマグルミ外）を行っている。

6) 平成3年度修景工事

53号、78号の前庭部及び前庭広場の修景工事は、平成2年度に引き続いて、客土整地工事、植栽工事（チャノキ外）、幹線道路から53号横穴に通ずる見学道の舗装工事を行っている。第2集団Eグループの36～39号の分布する前庭法面は過去に地すべりを起こしており、法面保護補強のために緑化ブロック設置工事を行うとともにブロック内にササ竹植栽を行っている。

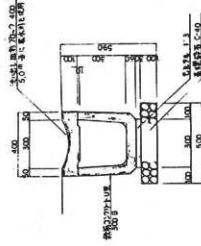
第2集団Dグループから第2集団Eグループの横穴に通ずる見学道（階段）設置工事と安全柵木柵（長さ30.5m）設置及び周辺部の植栽工事を行っている。

また、第1集団Bグループから第1集団Cグループの横穴に通ずる見学道の舗装工事及び12号横穴周辺部丘陵に植栽（タブ、サクラ、ヤブツバキ外）を行っている。

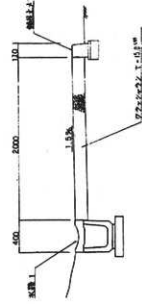


水塔位置圖
1:10

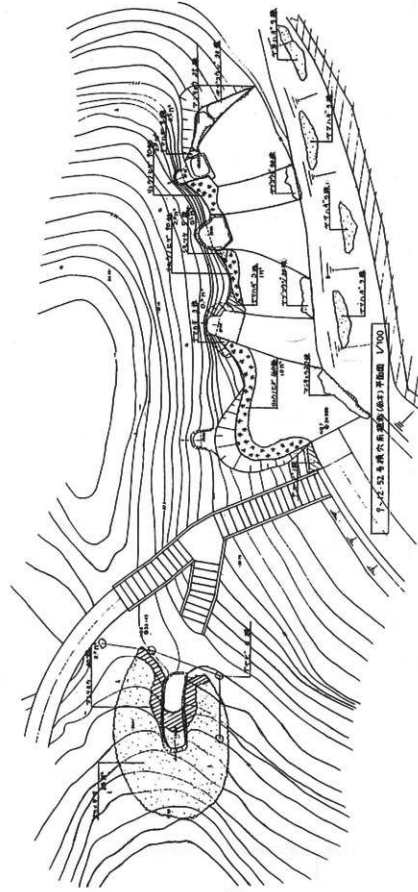
1. 水塔



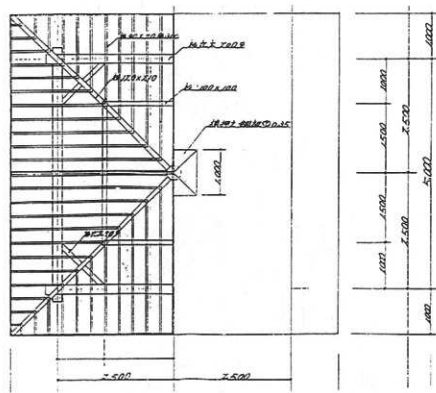
見字樓 1



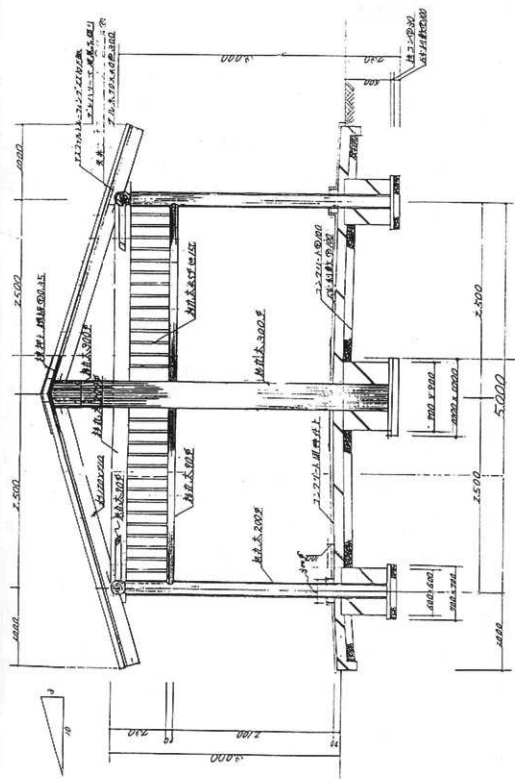
第61圖 修葺工事平面圖 (1) 見字樓位置平面圖、見字樓斷面圖、水塔構造圖



第62圖 修葺工事平面圖 (2) 9号~12号、52号精穴斷面圖



第63圖 修景工事圖面 (3) 四阿棟設計圖①



第64圖 修景工事圖面 (4) 四阿棟設計圖②

(4) 説明板及び横穴表示標柱設置

史跡公園開園後の入園者のため、史跡蓮ヶ池横穴群の説明板6基(4種類)と、保存工事を行った横穴を主体にした番号表示標柱43本を、平成3年度及び4年度に設置した。

1) 平成3年度

稲荷池、中央広場、御諏訪池を中心とする三つの谷間のそれぞれの入口に、説明板を配置し、横穴の番号表示標柱は4本を設置した。

説明板は、史跡地全体のイラストを中心とし、横穴群の概要を説明している。また、史跡の景観を重視し、外枠には特殊加工の杉材を使用した。

標柱は、2～5号横穴に対して、それぞれの番号を掘り込んだ特殊加工杉材のものを4本設置した。

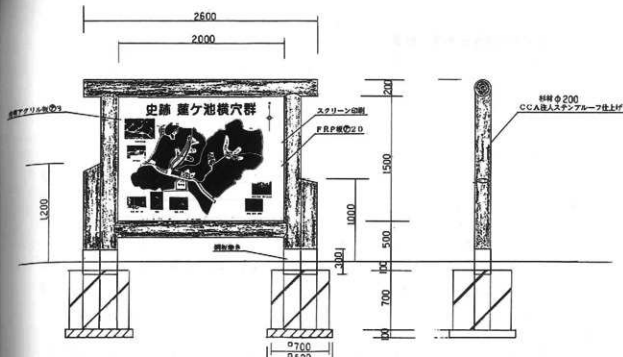
2) 平成4年度

史跡公園の案内板を兼ねた総合的な説明板を駐車場と道路の間の低木植栽部に設置した。これは両面を利用し、全体のイラストに加え、駐車場側は写真、道路側は文章を使った説明となっており、両面とも透明アクリル板で被覆している。サイズは前年度のものより大型とした。

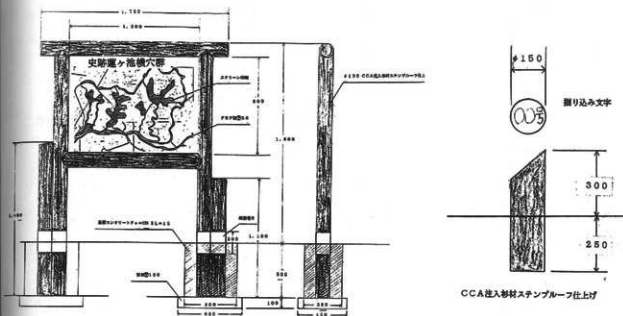
また、横穴墓の具体的な説明を行うため、構造について、13号横穴前のイラストを含めて解説した説明板を13号横穴前に設置した。サイズ、材質等は前年のものと同等とした。なお、13号横穴は、遺物の出土状況を再現し、また、人骨のレプリカも配置して、それを強化ガラス被覆板の上から見学できるようにしている。

そして、これと同サイズで、横穴の形式などを説明した、解説文のみの説明板を、御諏訪池東南部の園路入口に設置した。

標柱は、前年度に4本設置したが、保存工事の終了した39基のうちの残り35基及び保存工事を行っていないもののうち第2集団のC、Fグループの4基、計39基の横穴に設置した。



史跡蓮ヶ池横穴群総合説明板



史跡蓮ヶ池横穴群説明板

横穴表示標柱

第65図 説明板・横穴表示標柱設計図

(5) 年次別保存環境整備事業と経費

		(単位 千円)	
年度	項 目	金 額	
59	地形図作成	7,805	
	基本構想規定	1,495	
	計	9,300	
60	基本設計	9,500	
	横穴発掘調査(2~4、6~12号 10基)	2,443	
	見学道建設工事	2,500	
	事務費	57	
	計	14,500	
61	12号横穴保存工事(前室部復元工事)	7,400	
	12号横穴保護柵設置工事	128	
	事務費	472	
	計	8,000	
62	横穴発掘調査(13~21、69号 10基)	2,122	
	横穴保存工事(2~11、22号 11基)	10,200	
	修景工事(12号周辺植栽、6~11号前庭部修景)	7,450	
	事務費	228	
	計	20,000	
63	横穴発掘調査(23~33、35~39号、74号 17基)	2,864	
	横穴保存工事(2~8、22号 8基)	13,800	
	修景工事(16~21、70~73号前庭広場)	13,200	
	事務費	208	
	計	30,072	
平成元	横穴発掘調査(53、71~73号 4基)	1,772	
	横穴保存工事(15~21、52号 8基)	9,600	
	修景工事(12号周辺植栽、69号前庭広場植栽等)	6,905	
	事務費	96	
	計	18,373	
平成2	横穴保存工事(14、24~26、36~39、53、69、71~73号 13基)	15,347	
	修景工事(53号前庭広場)	3,853	
	事務費	1,027	
	計	20,027	
平成3	横穴保存工事(13、23、29~31、35号 6基)	11,639	
	修景工事(36~39号前庭部、53号前庭部)	9,500	
	説明板及び横穴表示柵注設置工事	2,266	
	土器レプリカ製作設置工事(53号)	711	
	事務費	952	
	計	25,068	
平成4	説明板及び横穴表示柵注設置工事	3,687	
	整備事業総報告書	4,786	
	写真撮影委託	927	
	計	9,400	
	合計	135,940	

第6表 保存環境整備事業実績

Ⅲ. 史跡公園整備事業

1. 都市計画公園整備事業(建設省)

史跡蓮ヶ池横穴群保存環境整備事業については、当初文化財(横穴)の保存と修景工事を主体とした整備を考えていたが、史跡地の外、史跡地外の用地も取得しており、基本構想、基本設計を組む中で効率的な保存活用を図る上から横穴群の保存修景と一体化したもので拡大された史跡公園整備事業を推進することになり、昭和62年2月6日宮崎広域都市計画公園変更一連ヶ池史跡公園一決定を受け、それまで教育委員会側で進めてきた基本設計をもとに、都市整備部の都市計画公園課で実施設計を組むことになった。なお、内容検討作業等は従来の保存環境整備委員会のもとで行われた。

昭和62年度から平成3年度までの5か年継続事業で史跡公園整備を行っている。

(1) ゾーンⅠ(中央広場)の整備

ゾーンⅠは、中央部に入り込む大きな谷間で奥部及び東西に入り込む支谷は史跡地となっている。

この谷間は悪環境の低湿地のため、盛土による敷地造成を昭和62年度、63年度で行い、63年度に広場の排水路(929.3m)敷設を行っている。

広場(3,684m²)の芝生舗装は平成元年と3年度で行っている。

せせらぎ水路(205m)は、平成元年に躯体建設を行い、3年度に揚水ポンプ設置工事を行っている。

中央広場を敷築する園路(250m)は、平成元年に路盤までの建設を行い、3年度に舗装工事(650m²)を行っている。

その他、公園施設として、平成元年に休憩所、水のみ場、修景のための植栽を行い、2年度に野外便所1棟を建設し、3年度には、園内の電気、給水施設設置工事を行っている。

(2) ゾーンⅡ(御諏訪池周辺)の整備

ゾーンⅡは、東側丘陵間に入り込む大きな谷間で御諏訪池とその西側支谷と奥部支谷とからなり、史跡地外となっている。

御諏訪池奥部の支谷の整備、活用を図るには園路が必要となり、史跡地への園路建設は横穴が分布しており不可能なため御諏訪池縁園路用地(1,228.60m²)を63年度に買収し、同年、園路(延長250m、幅員5m)建設を行い、平成2年度に擬木柵(213.2m)を設置し、3年度に舗装(1,193m²)工事を行っている。

各支谷の敷地造成は、平成元年度に行っている。

各広場の芝生舗装は、平成元年度に3,314m²、2年度に1,420m²、3年度に1,112m²の合計

5,846 m^2 を行っている。

各広場の排水路は、元年度に651.0m、2年度に60.0mの敷設工事を行っている。

御諏訪池の西側支谷ひろばに平成2年度、方形整穴住居2棟、円形整穴住居1棟、高床式倉庫1棟を建設している。また、この広場には、野外便所1棟を建設している。

その他、公園施設として、元年度に植栽工事、2年度にベンチ、緑台、休憩所、3年度に電気、給水施設設置及び植栽工事を行っている。

(3) ゾーンⅢ (稲荷池周辺) の整備

ゾーンⅢは、西側丘陵間に入り込む大きな谷間で稲荷池その奥部支谷とからなり、史跡地外となっている。

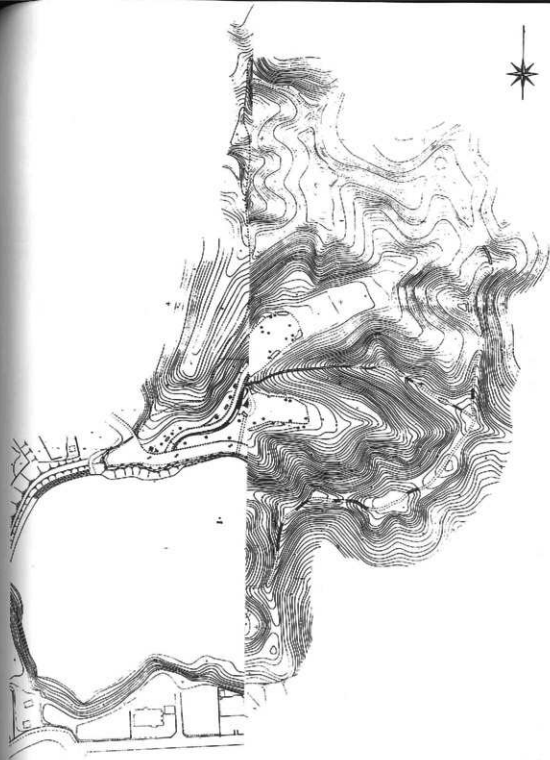
このゾーンⅢでも園路建設が必要となるとともに稲荷池西側丘陵を史跡公園環境保全帯として確保するため、元年度に5,108.33 m^2 、2年度に831.98 m^2 の公園用地を買収している。

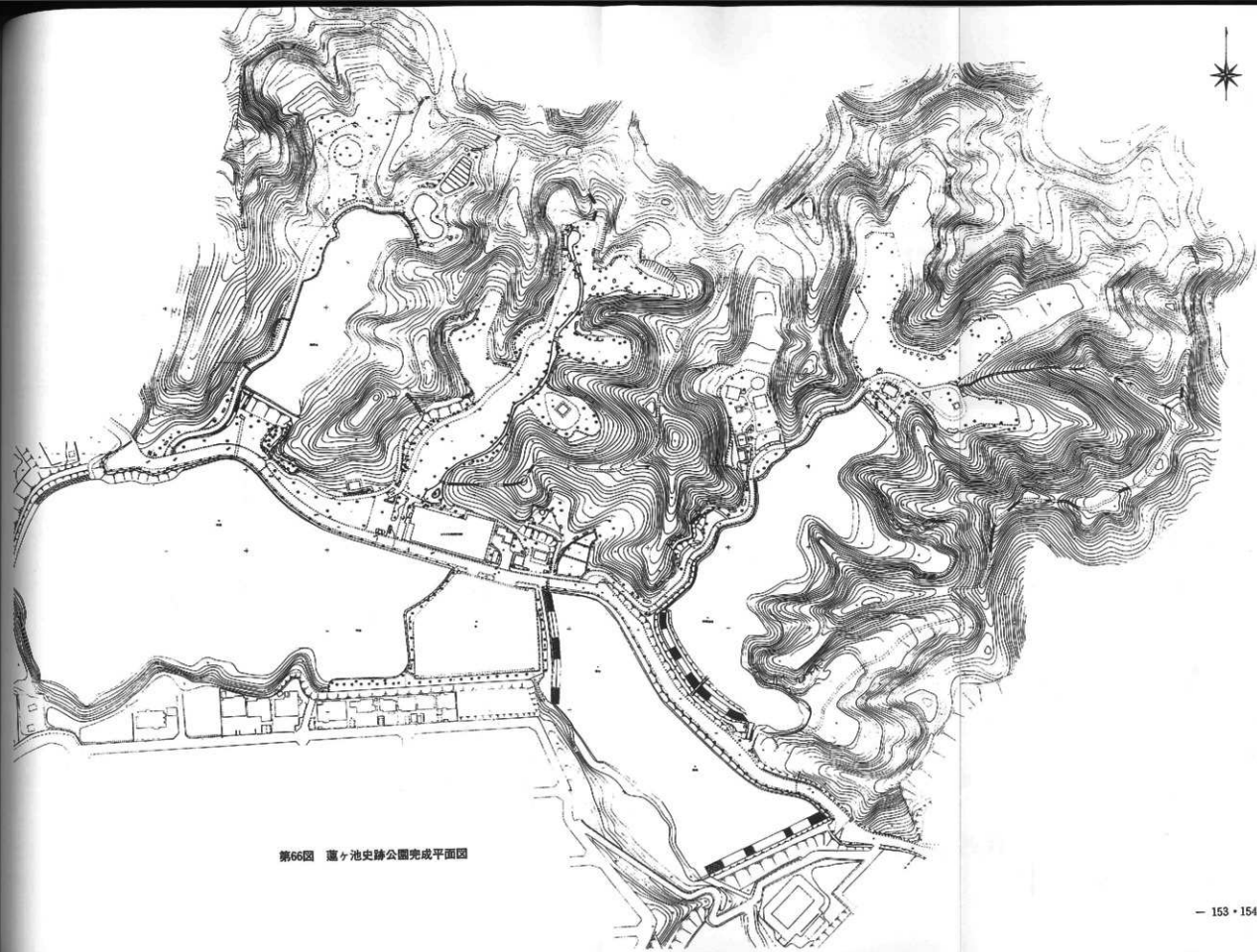
稲荷池縁園路(259m)を2年度に建設し、3年度に舗装(1,317 m^2)工事を行っている。

芝生舗装は、3年度に2,535 m^2 を行っている。

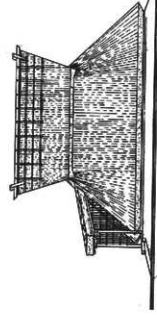
史跡公園散策外周園路は、2年度に1,284.6m、3年度に200mの建設工事を行っている。

3年度には、稲荷池奥部の広場に、古代ハスを植栽した蓮池、湿性植物園、石塔のはらっぱ建設工事を行うとともに、電気、給水施設工事及び植栽工事を行っている。

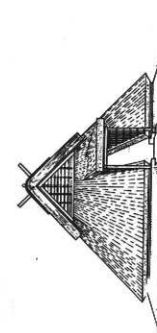




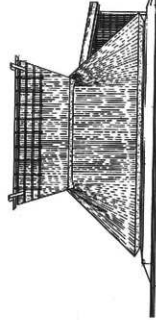
第66図 蓮ヶ池史跡公園完成平面図



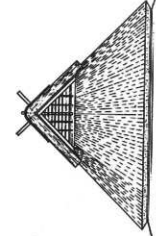
ア



イ



ウ



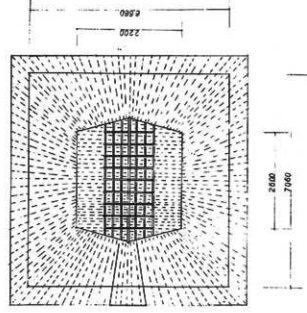
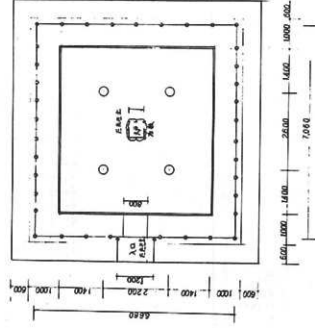
エ



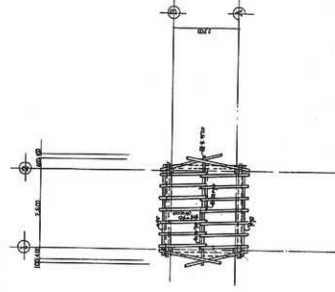
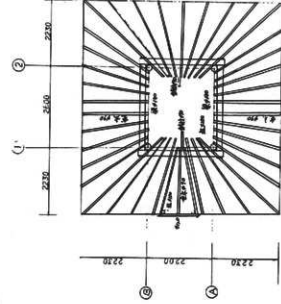
第67図 聖穴住居設計図(1) 方型タイプ北立面図

設計 概要
1. 建築名 昭和三十九年度住宅建設事業
2. 所在地 東京都中央区
3. 建築種別 住宅
4. 建築面積 500.00㎡
5. 延床面積 1,000.00㎡
6. 構造 鉄筋コンクリート造
7. 基礎 基礎
8. 階数 2階
9. 完成年月 昭和三十九年
10. 設計者 昭和三十九年度住宅建設事業
11. 建築士 昭和三十九年度住宅建設事業

設計 概要
1. 建築名 昭和三十九年度住宅建設事業
2. 所在地 東京都中央区
3. 建築種別 住宅
4. 建築面積 500.00㎡
5. 延床面積 1,000.00㎡
6. 構造 鉄筋コンクリート造
7. 基礎 基礎
8. 階数 2階
9. 完成年月 昭和三十九年
10. 設計者 昭和三十九年度住宅建設事業
11. 建築士 昭和三十九年度住宅建設事業



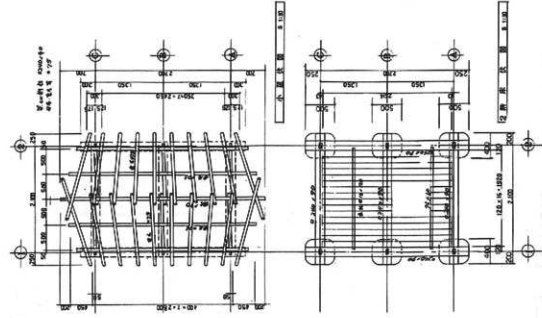
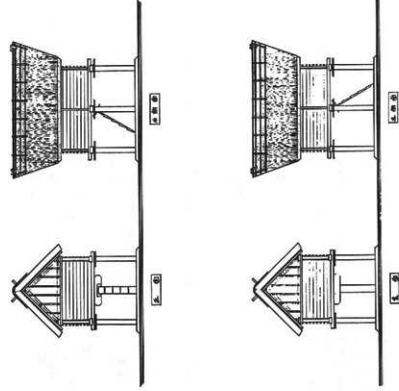
新68図 竪穴住居設計図 (2) 方型タイプ平面図・層様伏図



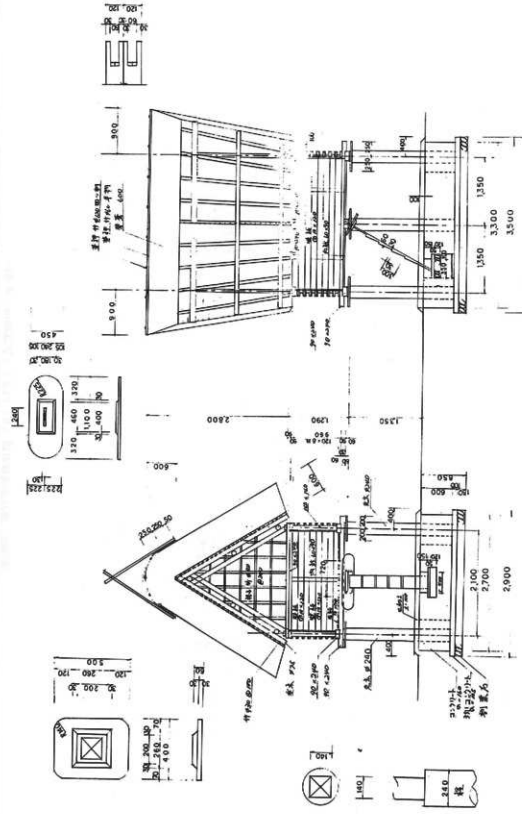
設計者 昭和三十九年度住宅建設事業
 建築士 昭和三十九年度住宅建設事業
 構造 鉄筋コンクリート造
 基礎 基礎
 階数 2階
 完成年月 昭和三十九年

新69図 竪穴住居設計図 (3) 方型タイプ小層伏図

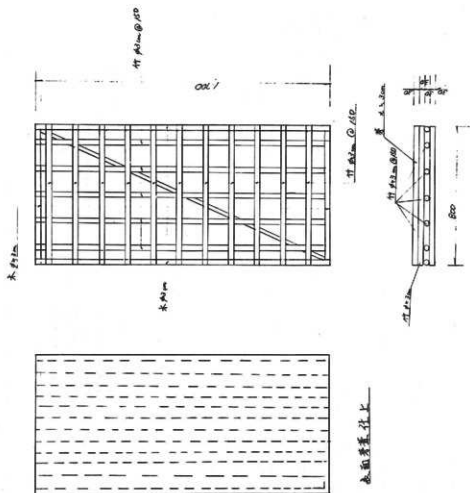
基本图



第72图 型穴住居設計圖 (6) 高床式倉立立面圖·共伏圖·小屋伏圖



第73图 型穴住居設計圖 (7) 高床式倉庫設計詳細圖



第78図 聖穴住居設計図(10) 第工

(4) 年次別史跡公園整備事業と経費

		(単位 千円)	
年度	項 目	金 額	
62	実施設計	20,000	
	敷地造成	15,260	
	事務費	7,400	
	計	36,000	
63	敷地造成工事	27,780	
	園路工事	27,335	
	園路用地買収	4,915	
	測量試験費	1,750	
	事務費	2,220	
計	64,000		
平成元	敷地造成工事	27,780	
	せせらぎ水路工事	23,899	
	植栽及び芝生舗装	23,968	
	用地買収	24,499	
	測量試験費	237	
	事務費	2,495	
計	102,878		
平成2	園路造成工事	46,320	
	便所設置工事	20,899	
	植栽及び芝生舗装	13,877	
	聖穴住居等建設	16,167	
	掘木欄工事	5,852	
	用地買収	3,578	
	測量試験費	1,087	
事務費	2,220		
計	110,000		
平成3	園路舗装工事	24,760	
	植栽及び芝生舗装	19,854	
	せせらぎ水路ポンプ設置工事	5,944	
	電気給水施設工事	21,661	
	薬池工事、湿性植物園及び石塔のはらつば造成工事	25,928	
	補償費	781	
事務費	2,072		
計	101,000		
合 計		413,878	

第7表 都市計画公園整備事業実績

2. みやざき歴史文化館建設事業（自治省、まちづくり特別対策事業）

みやざき歴史文化館は、宮崎圏域の歴史・民俗・文化に関する資料の収集、保管展示を行い、屋外の遊々池史跡公園とともに屋内でも体系的な学習、研究、レクリエーションに役立てる施設としている。建設に当たっては、自治省のまちづくり特別対策事業により平成元年度から着手し、平成4年3月に完成し、同年7月25日に開館している。

（1）歴史資料館（仮称）建設懇話会の設置

歴史資料館（仮称）の建設にあたり、館の性格、整備充実等について、各界、各層の意見を求めるために、歴史資料館（仮称）建設懇話会を設置している。3回の会議をもち、平成元年6月6日に提言をいただいている。

宮崎市歴史資料館（仮称）建設懇話会設置要綱

（設 置）

- 第1条 宮崎市歴史資料館（仮称）を建設するに当たり、文化財収蔵保存及び展示学習等について広く意見を求めるため、宮崎市歴史資料館（仮称）建設懇話会（以下「懇話会」という。）を設置する。

（組 織）

- 第2条 懇話会は、委員10人以内をもって組織する。
2. 委員は、知識経験を有する者のうちから、市長が委嘱する。

（任 期）

- 第3条 委員の任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。

（役 員）

- 第4条 懇話会に会長及び副会長を置き、委員の互選により定める。
2. 会長は、懇話会を代表し、会務を総理する。
3. 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときは、副会長がその職務を代理する。

（会 議）

- 第5条 会議は、会長が招集する。
2. 会長は、会議の議長となる。
3. 懇話会は、委員の半数以上が出席しなければ、会議を開くことができない。
4. 会長は必要と認めるときは、関係者の出席を求め意見等を聴くことができる。

（庶 務）

- 第6条 懇話会の庶務は、教育委員会文化振興課において処理する。

（その他） この要綱に定めるもののほか、懇話会の運営に関して必要な事項は別に定める。

附 則

この要綱は、昭和63年12月2日から施行する。

委 員 委 嘱 者

	泉 房子	(宮崎県立宮崎東高等学校教諭)
	甲斐 亮典	(宮崎市立宮崎東中学校長)
	川越 宏樹	(宮崎総合学院理事長)
	黒木 淳吉	(宮崎県総合博物館長)
	田中 熊雄	(宮崎市文化財審議会会長)
	貫 達人	(宮崎産業経営大学長)
	野口逸三郎	(元宮崎県教育長)
	ロバート・ジュス・アダムス	(宮崎医科大学外国人教師)
	渡辺 綱纒	(株式会社 宮交シティ社長)
	渡邊 公朗	(宮崎市立住吉南小学校長)

(50音順)

宮崎市長 長友貞藏 殿

歴史資料館(仮称)建設についての提言

当懇話会は、第2次宮崎市総合計画の施策として掲げられている蓮ヶ池歴史資料館を建設計画するにあたり、慎重に検討を行い、各委員の意見を取りまとめた。

その要旨についてはつぎのとおりであるが、施設の建設にあつては、蓮ヶ池史跡公園の中に建設されるため、この環境を活かしながら、生きた展示と生涯学習及び文化財の収蔵保存に充分配慮されたい。

記

一・展示基本は、史跡蓮ヶ池横穴群の中に建設される歴史資料館であるため、この横穴群を中心に、当時の墓制、生活、風習、村落形態を発想させ、さらに郷土の歴史を理解させるものとする。

二・展示内容は、「歴史」「考古」「民俗」「神話」の4つを基本として実物展示はもちろん、でき得る限り動的展示に重点を置き、視聴覚方式による最先端の技術を取り入れたものとするとともに、参加・体験のできるものとする。

三・神話は、宮崎県民にとって関わりが深く、何よりも神話を大事に継承すべきであり、そのために宮崎の風土に根ざした伝承を活かして展示するものとする。さらに、世界の神話・日本各地の昔話や伝説等に関する資料を備える等の配慮をされたい。

四・館の利用については、子供からおとなまで生きた歴史学習及び研究ができるように、館内はもちろん館外においても体験学習のできる場を設けるものとする。

五・建物のデザインは、景観にふさわしいものとし、機能面を重視したものとする。

六・収蔵庫は、今後の資料収集を考慮して、収蔵展示も可能な様に充分にスペースをとるものとする。

平成元年6月6日

宮崎市歴史資料館(仮称)建設懇話会

会長 野口達夫

(3) 総体工事

- | | | |
|---------------|-----------------------|----------------|
| 1) 建設期間 | 平成2年6月建築着工 | 平成3年6月建築設備工事完成 |
| 2) 敷地面積(公園面積) | 180,000m ² | |
| 3) 建築面積 | 1,322.6m ² | |
| 4) 建築構造 | 鉄筋コンクリート2階建て、正倉院風校倉造り | |
| 5) 延床面積 | 2,204.6m ² | |

【1階】 1,052.7m²

エントランスホール、展示ホール、収蔵庫、特別収蔵庫、写場、作業場、荷捌場、事務室、館長室、

廊下、便所

【2階】 1,084.0m²

常設展示室、図書館、研修室、研究室、ロビー、ギャラリー、サークルホール

【その他】 67.9m²

小屋裏機械室、別棟機械室

6) 機能別面積

展示部門	876.4m ²	学習部門	174.4m ²
収蔵部門	309.0m ²	研究部門	116.6m ²
管理部門	53.4m ²		
サービス部門	284.9m ²	共用、機械室	389.9m ²

(4) 展示工事

- 1) 基本構想 平成元年7月 ~ 同年 9月
- 2) 基本設計、実施設計 平成元年12月 ~ 平成2年3月
- 3) 展示工事 平成3年6月 ~ 平成4年3月
- 4) 展示構成

【1階ホール】

一階玄関ホールにガイダンスを置き、歴史文化館の内容と蓮ヶ池史跡公園の概要を検索ディスプレイにより、テレビ画面で見られるようにしている。

一階展示ホールでは、大淀川を中心に、宮崎平野の成り立ちから現在に至るまでの歴史的な発展過程と神話を含めた宮崎の文化の形成を模型と映像を連動させて紹介している。このホールは壁面、展示ケース等を利用した企画展示もできるようにしている。

【2階サークルホール】

展示室前室としての空間づくりをおこない、各展示室へは強制導線ではなく、自由に往来可能にしている。

【2階展示室】

歴史文化館の常設展示は「考古・歴史」「民俗・民俗芸能」「神話の世界」の3つのコーナーからなっている。

〈考古・歴史コーナー〉

「宮崎の生活と文化を見る」をテーマに宮崎の旧石器時代から近現代を8時代に分け、食事・住居模型・生活イラストにより、生活文化の流れをとらえている。

その時代の特徴が実物資料・模型・パネル・映像により一目でわかるように構成している。

〈民俗・民俗芸能コーナー〉

「宮崎の人々の暮らしと信仰」をテーマに、私たちの生活・習慣の中で、現在まで伝えられてきた数々の信仰、習俗、行事、民俗芸能、まつり、民話などを取上げ、写真パネルや道具類・映像により紹介している。

〈神話の世界コーナー〉

「日向の神話と世界の神話」をテーマに宮崎になじみの深い日向の神話を始め、大昔から世界中のどの地方にも伝えられてきた神話や伝説を、映像やパネルを使ってわかりやすく紹介している。また、このコーナーには、ミニシアターをもっており、「古事記」の始めの部分を特殊撮影などを取り入れ、神話の世界をより理解しやすいようにしている。

そのほか、日向の神話や出雲神話、中国、ギリシャ神話といった世界の神話を集め、イラストやパネル、マジックビジョン、立体紙芝居、映像を使って紹介している。

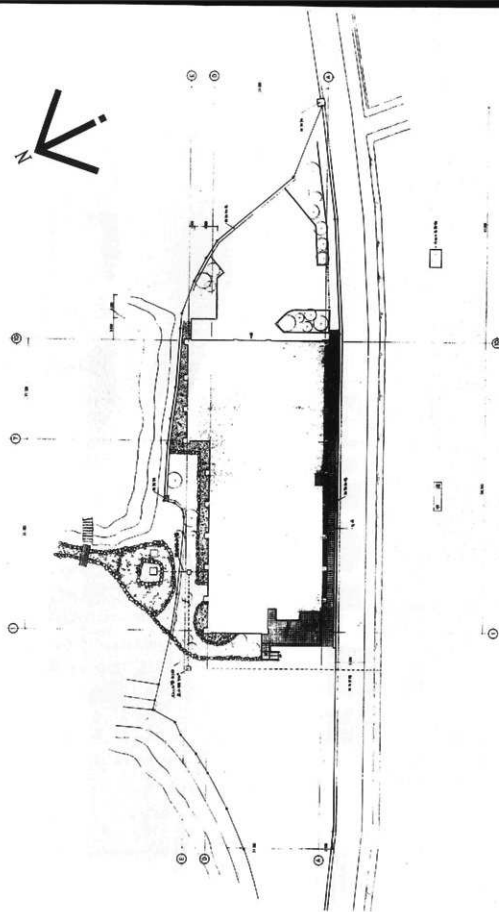
(5) 外構工事(駐車場建設)

歴史文化館の外構工事の主なもの、駐車場整備工事である。平成3年度に中池の一部(5,954・69m²)を買収し、池の埋立て造成を行ない、大型車10台、小型車100台収容の駐車場を完成している。その他、歴史文化館建物周りの修景工事、舗装工事、芝舗装工事、植栽工事等を行なっている。

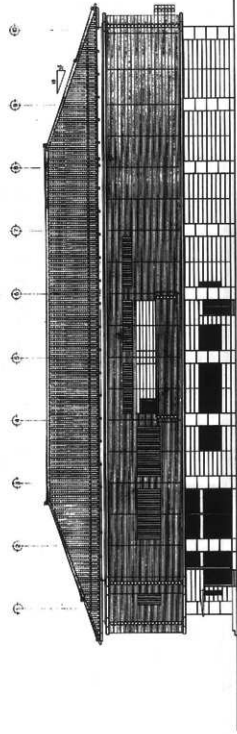
(6) 年次別建設事業と経費

年度	項 目	(単位 千円)	
		金 額	
平成元	基本構想策定		4,800
	本体基本設計		7,107
	展示基本設計		4,000
	本体実施設計		15,048
	展示実施設計		8,005
	事務費		40
	計	39,000	
平成2	躯体工事	340,641	
	空調工事	66,892	
	給排水工事	21,862	
	電気工事	56,238	
	水道管敷設工事・給水負担金	3,722	
	機械機工事	14,090	
展示工事		6,742	
	計	509,987	
平成3	躯体工事	111,315	
	空調工事	28,583	
	給排水工事	7,287	
	電気工事	36,929	
	水道管敷設工事・給水負担金	1,019	
	展示工事	342,428	
環境整備(駐車場及び外構関連工事)		190,476	
	計	718,037	
	合計	1,267,024	

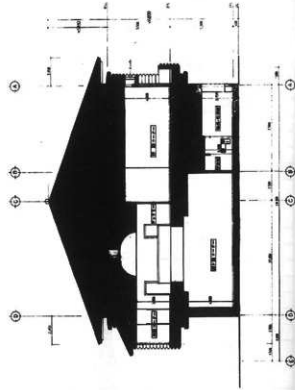
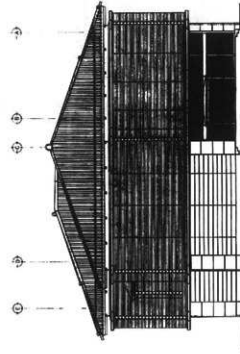
第8表 みやざき歴史文化館建設事業実績



第77図 みやざき歴史文化館新築工事(1)配膳図

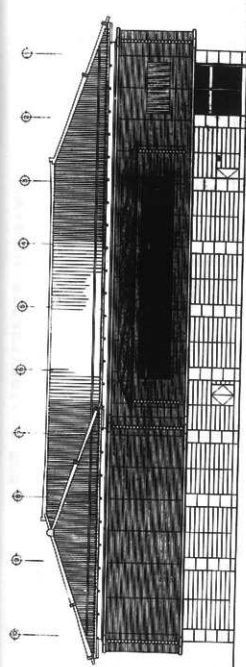


0.000

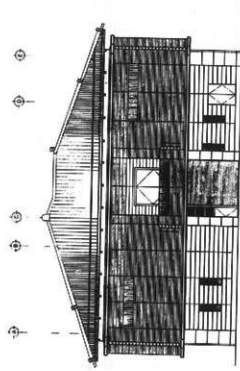


0.000

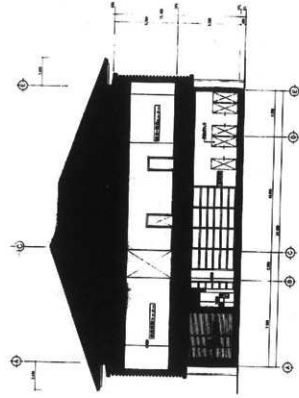
第76图 小羊台各历史文化街区新建工程 (2) 立面图·断面图①



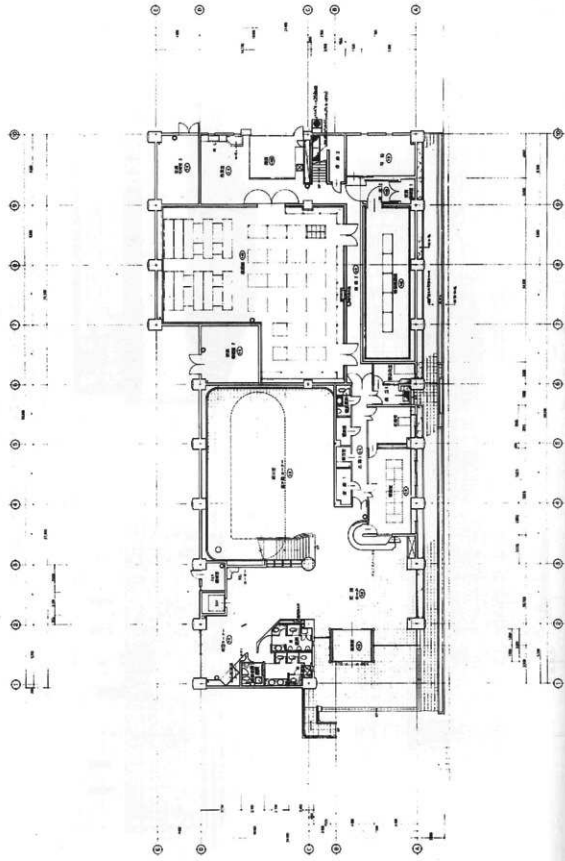
0.000



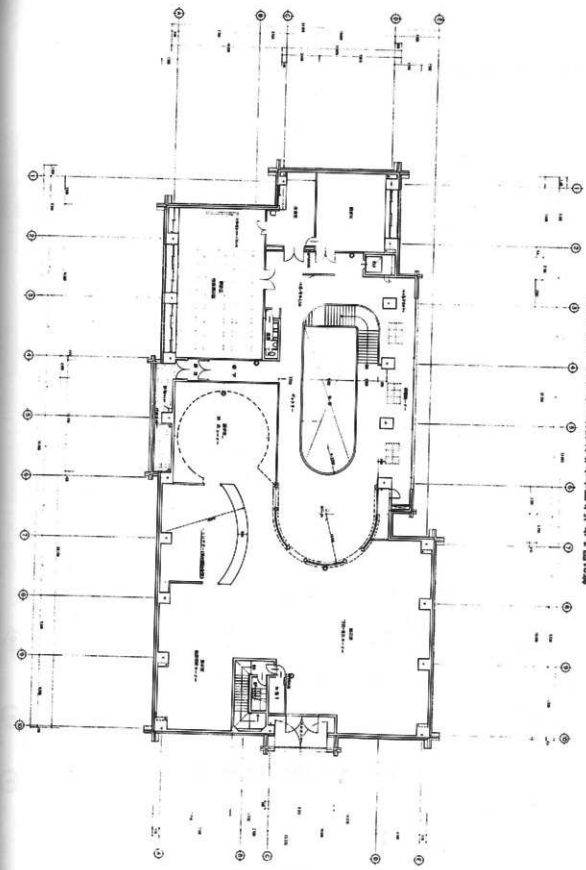
0.000



第77图 小羊台各历史文化街区新建工程 (3) 立面图·断面图②



第80圖 中央研究院文化館新築工事 (4) 1層平面圖



第81圖 中央研究院文化館新築工事 (5) 2層平面圖

3. 農工等体験施設整備事業（宝くじ協会助成）

古来から我々の生活基盤を支えてきた農工文化の再現と体験学習を行なうために、農家の庭と農工具の製作、修理の場としての鍛冶場の移築復元を行ない、生活文化の歴史に直接触れられる場を提供している。事業実施に当たっては、日本宝くじ協会助成金を受けている。

(1) 廬の移築

廬は、明治初期の建築で市内大瀬町からそのまま移築されたもので、当時から農作業で使われてきた道具や機具類を見ることができる。

床面積 69.3m²

(2) 鍛冶場の移築復元と鍛冶屋の新築

鍛冶屋は、躯体そのものは新築であるが、屋内の鍛冶場は市内中村一丁目にあった本物のレンガ造りの炉をそのまま移築再現したもので、作業に使われた道具や機具類、製品を見ることができ、特に、鋸のできる過程がわかるような展示もしている。

床面積 29.8m²

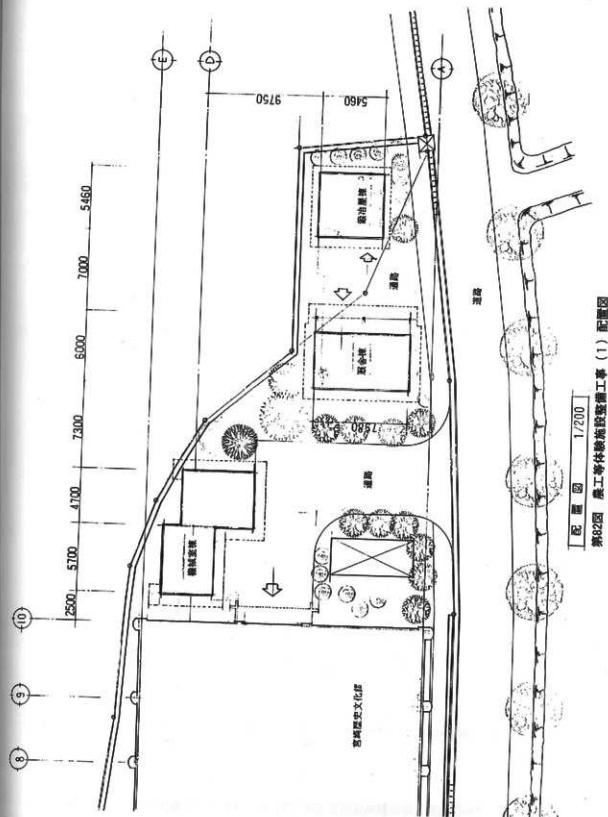
(3) 農工等体験施設の利用

廬、鍛冶屋に隣接した一画に畑（約500m²）が造成されており、平成4年度当初から歴史文化館の体験事業として、近隣の宮崎市立住吉南小学校に文化財愛護少年団を結成し、農工体験として、陸稲のほか、ヒエ、アワ、キビ、ソバ等の古来からの雑穀等を栽培し、指導者のもとに体験学習を継続的に行なっており、大きな成果をあげてきている。

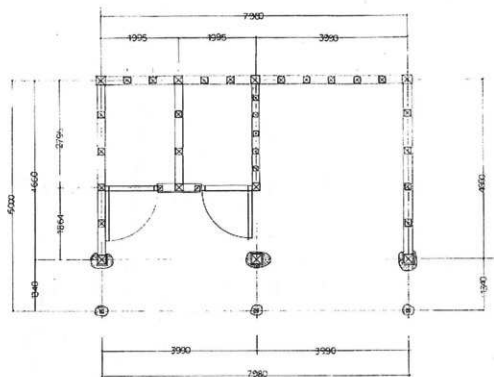
(4) 農工等体験施設整備事業実績

年度	項 目	(単位 千円)	
		金額	
平成3	廬移築・鍛冶屋新築工事	24,316	
	炉移設	2,977	
	外構工事	3,862	
	展示構成製作据付委託	8,858	
計		40,013	

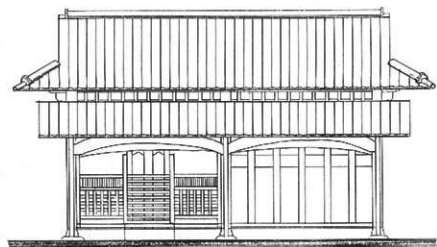
第9表 農工等体験施設整備事業実績



配置図 1/200
第9図 農工等体験施設整備工事 (1) 配置図

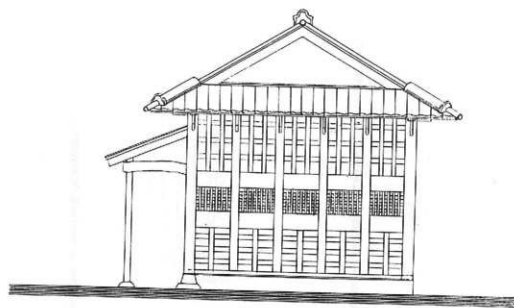


平面图

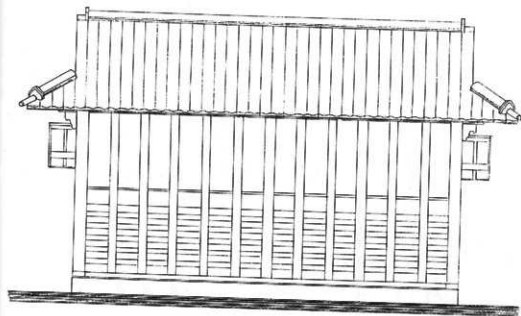


正面图

第83图 農工等体験施設整備工事(2) 概 平面图・正面图①

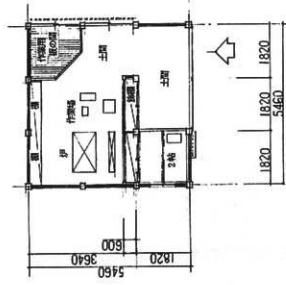


側面图



背面图

第84图 農工等体験施設整備工事(3) 概 側面图・背面图

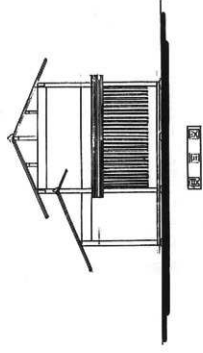


平面図

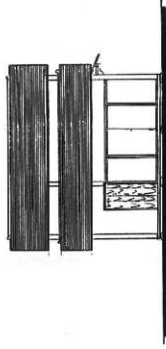
原工部庁集計室

構造 木造平屋造 日本瓦葺

坪数 5.46・5.46・2.9.8

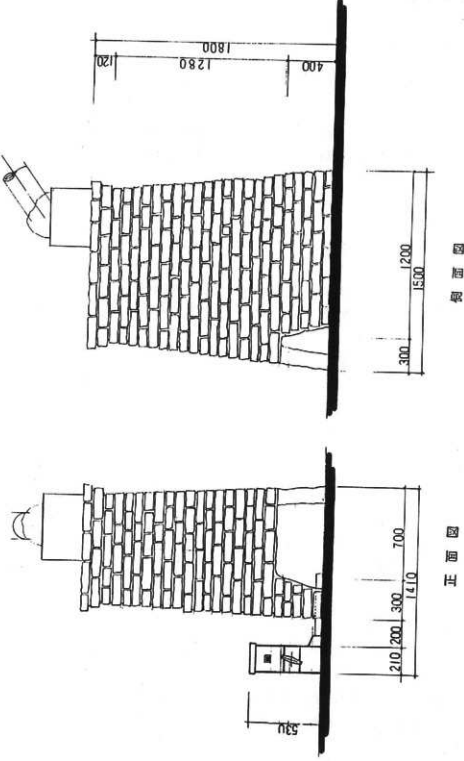


西面図



北面図

第55図 原工部庁集計室工事(4) 船泊屋新築平面図・南面図・正面図



正面図

西面図

原 立面詳細図

第56図 原工部庁集計室工事(5) 船泊屋立面詳細図

4. その他関連事業

史跡公園と一体化した付帯事業であり、史跡公園への導入となる幹線道路の建設、歴史資料館（仮称）建設地の造成、また、史跡公園用地内には、田池、中池、御諏訪池、稲荷池、蓮ヶ池と5つの溜池があることにより、池水面と丘陵の照葉樹の緑から絶好の景観を醸し出している。これらは老朽溜池となっていたことから、溜池の改修工事には、景観保持のため十分に配慮した施行を行なっている。また、道路用地、駐車場用地等取得については溜池の一部の購入によることから、水利にかかる条件整備がもたらがり地元地区の環境整備を行なっている。

(1) 幹線道路用地購入と建設

幹線道路建設用地として、田池、中池の溜池用地の一部4,297.61m²を買収し、昭和61年、62年で延長655m、幅員5mの道路を建設している。道路の池側の護岸については史跡公園としての修景を考慮して擬木柱列の擁壁を使っている。

なお、平成3年度には、路面上層の車道及び歩道の舗装工事を行ない、道路池側に安全擬木柵を設置するとともに、街路樹植栽としてシダレヤナギ77本を植栽している。

(2) 資料館建設用地の購入と造成

幹線道路建設用地とともに、田池、中池の溜池用地の一部4,315.07m²を買収し、昭和62年に埋立て造成工事を行なっている。当初は駐車場用地として考えられていたが、歴史文化館建設にあたり、建設場所について種々検討がなされた結果、この地が最適となり、平成2年6月に館建設工事に着手している。

(3) 溜池改修工事

蓮ヶ池史跡公園は、溜池が多くあり溜池改修工事は、主に昭和62年度を中心に施行しているが、これらについては、老朽溜池改修事業等の制度事業に乗せて行なっている。

御諏訪池は、洪水吐けの改良工事、堤体の改修・前貼り工事、取水栓の改良工事等を行なっている。

田池は、駐車場整備に伴って、池尻部堤体改修と前貼り工事を行なっている。

中池は、洪水吐けと取水栓の改良工事を行なっている。

稲荷池は、堤体の一部改修とグラウト工事を行ない、洪水吐け、取水栓改良工事を行なっている。

蓮ヶ池は、史跡蓮ヶ池横穴群の名称の由来地でもあり、池全体の環境整備工事を行なうとともに、ハナバスを植栽しており、夏ともなると池全体にハスの花が咲きみだれ、一つの名所ともなりつつある。

(4) その他関連事業費内訳

		(単位 千円)	
年度	項目	金額	
60	幹線道路建設 ※61年度へ繰越	48,740	
61	幹線道路建設	50,208	
62	幹線道路建設	68,341	
	溜池改修工事	26,000	
	資料館建設予定地の用地購入	22,275	
	資料館建設予定地造成	18,974	
	計	135,590	
平成3	幹線道路舗装	17,140	
	幹線道路植栽	12,462	
	計	29,602	
	合計	264,140	

第10表 その他関連事業費内訳